本書の構成

本書をお読みになる前に	本書で使用している表記について説明しています。
第 1 章　概要とシステム要件	この章では、REMCS エージェントの機能概要、センタへの接続形態について説明しています。また、REMCS エージェントを使用するためのシステム要件についても説明しています。
第 2 章　レジストレーション前の準備	この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。これらのソフトウェアをインストールすることで、REMCS のサポートサービスを開始できるようになります。
第 3 章　レジストレーション	この章では、レジストレーションの手順について説明しています。センタへの接続形態別にレジストレーションの手順が異なります。
第 4 章　障害発生時の対応	この章では、障害発生時の対処方法について説明しています。 装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。
第 5 章　トラブルシューティング	この章では、REMCS エージェントに関するトラブルとその対処方法について説明しています。
付録	この章では、アップグレードインストールの方法や CE 設定、OS イベントログに出力される通知情報について説明しています。

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
        ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では［CD/DVD ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。
  ［CD/DVD ドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：　「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記
リモートサービスボード（PG-RSB101）	RSB（PG-RSB101）
リモートサービスボード（PG-RSB102 以降）	RSB（PG-RSB102 以降）
RSB（PG-RSB101）、RSB（PG-RSB102 以降）を示す場合	リモートサービスボード、または RSB
リモートサービスコントローラ	RSC
リモートマネジメントコントローラ	iRMC
PRIMERGY BX300、PRIMERGY BX600、PRIMERGY BX660、PRIMERGY BX620 S2、PRIMERGY BX620 S3、PRIMERGY BX620 S4	ブレードサーバ
PRIMERGY TX200FT、PRIMERGY TX150FT S2、PRIMERGY TX200FT S2、PRIMERGY TX150FT S4、PRIMERGY TX200FT S3、PRIMERGY TX300FT S4, PRIMERGY TX300HA S4	高信頼 FT/HA モデル
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V™ Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V™	Windows Server 2008、または Windows Server 2008 (64-bit)
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Datacenter Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-Based Systems Microsoft® Windows Small Business Server 2003	Windows Server 2003
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Microsoft® Windows® 2000 Datacenter Server	Windows 2000 Server

表：製品名称の略称

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Microsoft® Windows Vista® Business</td><td colspan="2">Windows Vista</td></tr>
<tr><td>Windows Vista Business</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Vista® Enterprise</td><td>Windows Vista Enterprise</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Vista® Ultimate</td><td>Windows Vista Ultimate</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® XP Professional</td><td colspan="2">Windows XP Professional</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® 2000 Professional</td><td colspan="2">Windows 2000 Professional</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server™ 2003 Service Pack
Microsoft® Windows® 2000 Service Pack</td><td colspan="2">Service Pack</td></tr>
</table>

●「FTvirtual Server」の表記について

本書内の「FTvirtual Server」の表記は、お使いの高信頼 FT/HA モデルによっては実際の表記と異なります。お使いの高信頼 FT/HA モデルの表記に読み替えてください。

参考情報

■ Linux をお使いの方へ

Linux 版 REMCS エージェントの運用ガイドは 、お手持ちのディスク内の以下のフォルダに html 形式で格納されています。Web ブラウザにて参照してください。

- PRIMERGY スタートアップディスク
  ［CD/DVD ドライブ］：¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Linux¥doc¥usrguide
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD ／ REMCS エージェント CD
  ［CD/DVD ドライブ］：¥Remcs¥Linux¥doc¥usrguide

■ REMCS エージェントのディスクについて

REMCS エージェントおよびマニュアル類は、以下のいずれかのディスクに格納されています。

- PRIMERGY スタートアップディスク
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD
- REMCS エージェント CD

本書では、上記ディスク類を「お手持ちのディスク」もしくは上記のいずれかのディスク名称で記載しております。お使いになるディスクに読み替えてください。

■ RSA Data Security, Inc. Message Digest License

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

■ 商標

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server、Windows Vista、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Endurance、Marathon Assured Availability、SplitSite、Marathon FTvirtual Server および Marathon ロゴは、Marathon Technologies Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

目 次

第 1 章　概要とシステム要件

1.1 REMCSエージェントの機能 12
1.1.1 特長 12
1.1.2 機能 13
1.2 REMCSセンタとの接続形態 14
1.2.1 インターネット接続（メール）. 14
1.2.2 P-P 接続（ISDN: メール）. 15
1.2.3 P-P 接続（VPN: メール）. 15
1.3 必要なシステム 16
1.3.1 動作環境 16
1.4 留意事項. 18
1.4.1 ブレードサーバを別のスロットに移動させた場合 .18
1.4.2 メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合 18
1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合 20
1.4.4 OS を再インストールする場合 21
1.4.5 障害通知について 22
1.4.6 リモート操作による運用について 24
1.4.7 使用プロトコル 26
1.4.8 ポート番号を使用するプロセスの種類 27
1.4.9 夏時間切り替え時の定期接続時刻について 29
1.4.10 SAN ブート環境の場合 29
1.4.11 サブミッションポートに対応したメールサーバを使用する場合 30
1.4.12 REMCS 運用中に高信頼 FT/HA モデルをシャットダウンする場合 30
1.4.13 Windows Server 2008 でご使用になる場合 31
1.4.14 定期接続スケジュールの周期設定について 32
1.4.15 Service LAN ポートを経由して設定を行う場合 32

第 2 章　レジストレーション前の準備

2.1 レジストレーションまでの流れ 34
2.1.1 一般サーバの場合 34
2.1.2 ブレードサーバの場合 35
2.1.3 高信頼 FT/HA モデルの場合 37
2.2 SNMPサービスのインストール 38
2.2.1 Windows Server 2008 の場合 38
2.2.2 Windows Server 2003 の場合 42
2.2.3 Windows 2000 Server の場合 44
2.3 REMCSエージェントのインストール 46

第 3 章　レジストレーション

3.1 レジストレーション 50
3.1.1 お客様登録 51
3.1.2 環境設定 58
3.2 RSB（PG-RSB102 以降）の設定 64
3.2.1 ネットワーク設定 65
3.2.2 アラート通報設定 66
3.3 iRMCの設定 70
3.3.1 SMTP サーバ、AUTH SMTP の設定 70
3.3.2 テストメール送信 72
3.4 サーバダウン監視の設定 73
3.5 POST 監視／ OS ブート監視の設定 74
3.5.1 一般サーバの場合 74
3.5.2 ブレードサーバの場合 74
3.6 レジストレーション後の設定変更. 75
3.6.1 お客様登録の変更 75
3.6.2 環境設定の変更 76
3.7 REMCSセンタとの接続停止／再開 80
3.7.1 REMCS センタとの接続を停止する 80
3.7.2 REMCS センタとの接続を再開する 80
3.8 構成情報送信 81
3.9 接続確認. 82

第 4 章　障害発生時の対応

4.1 通知される主な障害 84
4.2 保守作業の開始／終了 85
4.2.1 保守作業開始の通知 85
4.2.2 保守作業終了の通知 86
4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信 87
4.3.1 SIRMS を起動する 88
4.3.2 調査資料を一括収集・送信する 89
4.3.3 調査資料を個別収集・送信する 92
4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する 95
4.3.5 任意のファイルを収集・送信する 96
4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信 100
4.5 調査資料の管理 102
4.5.1 収集結果を一覧表示する 103
4.6 SIRMSの環境設定 107
4.6.1 ユーザー設定管理 108
4.6.2 収集ツール配置パス管理 110
4.6.3 QSS 収集ツールの追加 112

第 5 章　トラブルシューティング

5.1 インストール時のトラブル 114

5.1.1 メッセージと対処方法 114

5.1.2 スクリプト実行時間の設定について 116

5.2 レジストレーション時のトラブル 118

5.2.1 レジストレーション時のトラブルと対処方法 118

5.2.2 お客様登録と環境設定に関するメッセージと対処方法 119

5.3 運用操作メニューのトラブル 121

5.3.1 運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法 121

5.3.2 メッセージと対処方法 122

5.4 REMCSエージェントのバージョン確認 127

5.5 REMCSの運用を終了する場合 128

5.5.1 REMCS エージェントのアンインストール 128

5.5.2 RSB ／ RSC ／ iRMC の設定削除 130

付　録

A REMCSエージェントのアップグレードインストール 134

A.1 一般サーバ、ブレードサーバの場合 134

A.2 高信頼 FT/HA モデルの場合 136

B CE設定 137

C OSイベントログに出力される通知情報 138

D SMB CODE 139

第 1 章

概要とシステム要件

この章では、REMCS エージェントの機能概要、
および REMCS エージェントを使用するための
システム要件について説明しています。

1.1 REMCS エージェントの機能 12
1.2 REMCS センタとの接続形態 14
1.3 必要なシステム 16
1.4 留意事項 18

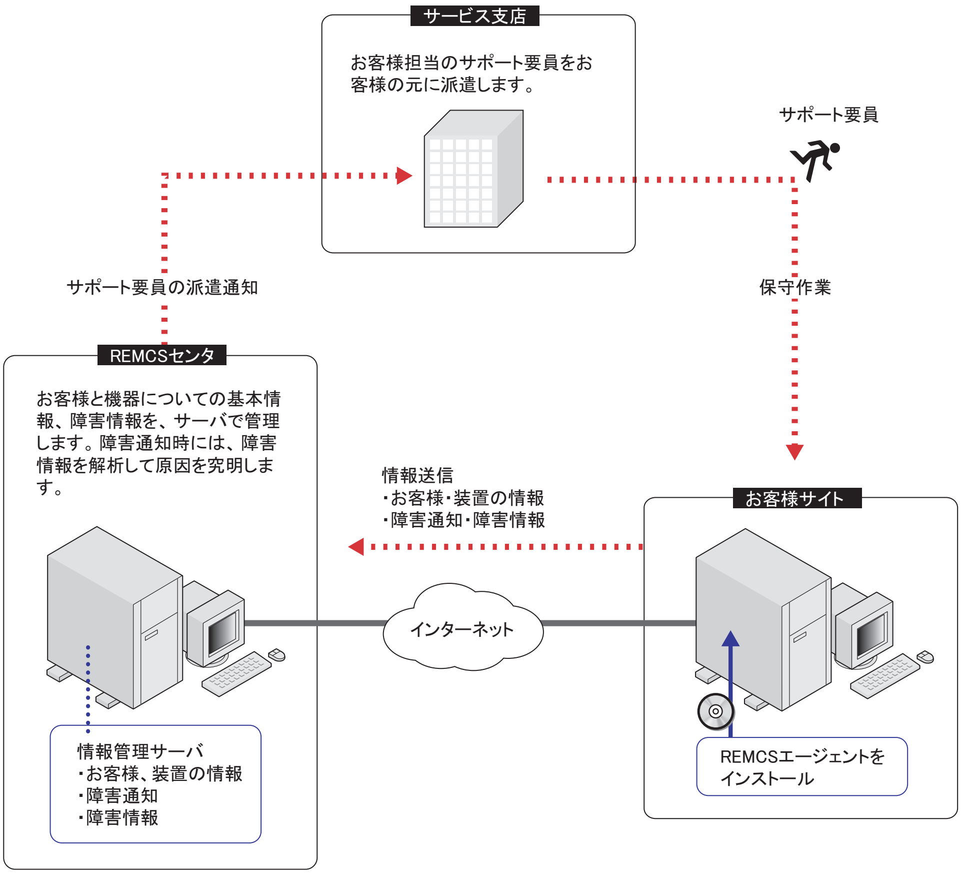
1.1 REMCS エージェントの機能

ここでは、REMCS エージェントの特長と機能について説明します。

1.1.1 特長

弊社は、お客様のサーバで発生した障害などに迅速に対応するために、REMCS（リモート顧客サポートシステム）を提供しています。このシステムは、お客様のサーバと弊社 REMCS センタをインターネット経由で接続し、故障通知や情報の収集を行います。

REMCS エージェントは、REMCS を利用するためのソフトウェアです。お客様のサーバにインストールすることで、サーバの情報収集や REMCS センタへの情報送信などを行います。REMCS エージェントは、お客様のサーバの最新情報を定期的に REMCS センタに送信します。そのため、電話や Fax によるサポートと比べ、迅速で的確なサポートを受けることができます。特に、障害発生時には、原因究明に必要な情報が REMCS センタに送信されるため、サポート要員に詳細な説明をすることなく、的確な処置を受けることができます。



1.1.2　機能

REMCS エージェントの機能は、次のとおりです。

表：REMCS エージェントの機能

機能名	説明
構成情報監視	ハードウェアやソフトウェアの構成変更を検出し、最新の構成情報を REMCS センタに送信します。
障害通知	サーバに異常が発生した場合に、REMCS センタに異常を通知するとともに、ログやメモリダンプ情報などの障害情報を REMCS センタに送信します。
定期接続	あらかじめ設定した時刻に自動的に REMCS センタに接続し、構成情報の送信を行います。

1.2 REMCS センタとの接続形態

REMCS センタへの接続形態は、お客様のネットワーク構成やサーバ構成により異なります。接続形態の選択は、「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）で行います。あらかじめ、どの接続形態で利用するかを決めておきます。

POINT

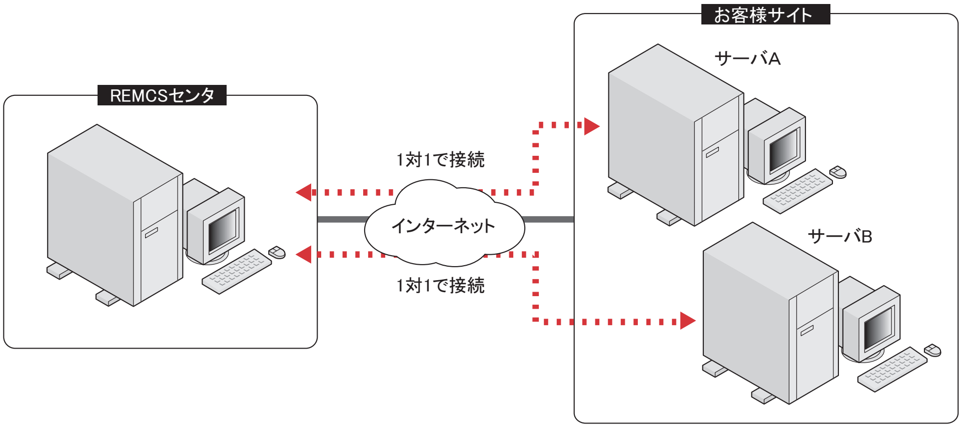
- REMCS エージェント V3.2L10 からは、メールで接続を行う接続形態のみをサポートします。旧バージョンでサポートしていたメールと HTTP の両方を使う接続形態はサポートしていません。既存の設定が旧バージョンのみでサポートしていた接続形態（メールと HTTP の両方を使う接続形態）の場合、アップグレードインストール時に自動で次のとおり変更されます。

表：アップグレードによる接続形態の変更

アップグレードインストール前の接続形態	アップグレードインストール後の接続形態
インターネット接続	インターネット接続（メール）
P-P 接続（ISDN）	P-P 接続（ISDN：メール）
P-P 接続（VPN）	P-P 接続（VPN：メール）

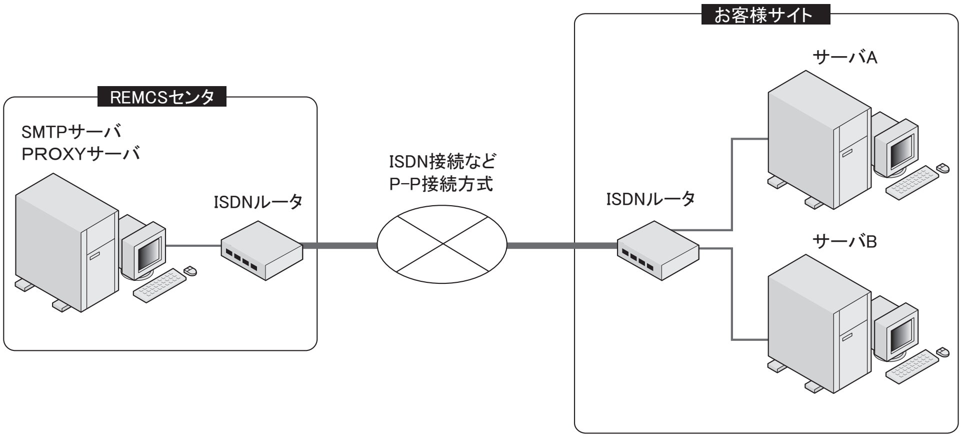
1.2.1 インターネット接続（メール）

REMCS センタと 1 対 1 で接続しますが、通信には SMTP のみ使用します。



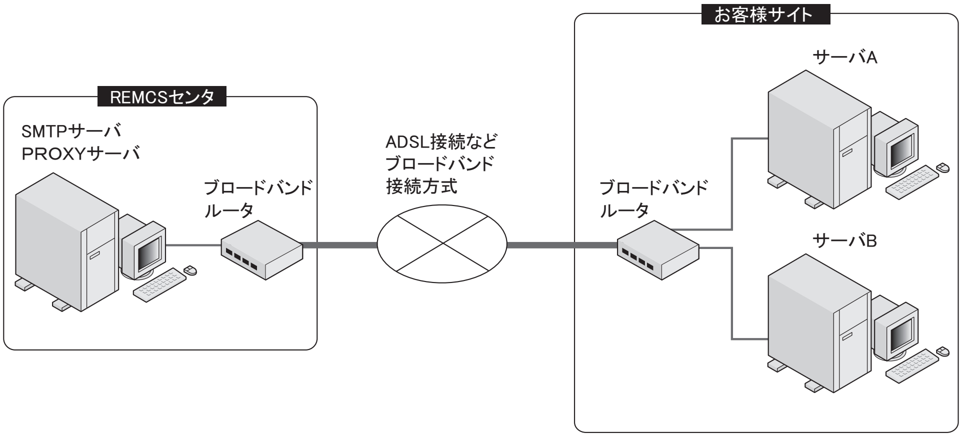
1.2.2　P-P 接続（ISDN: メール）

REMCS センタと 1 対 1 で接続しますが、通信には SMTP のみ使用します。



1.2.3　P-P 接続（VPN: メール）

REMCS センタと 1 対 1 で接続しますが、通信には SMTP のみ使用します。



1.3 必要なシステム

REMCS エージェントを利用するために必要なシステム要件を説明します。

1.3.1 動作環境

REMCS エージェントは、以下の環境で利用できます。

表：REMCS エージェントの動作環境

項目	条件
サーバ本体	REMCS エージェントが添付されている PRIMERGY シリーズ
対応 OS	・Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Standard (64-bit) Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 Enterprise (64-bit) Windows Server 2008 Datacenter (64-bit) ・Windows Server 2003, Standard Edition Windows Server 2003, Enterprise Edition Windows Server 2003, Datacenter Edition Windows Server 2003, Standard x64 Edition Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition Windows Server 2003 R2, Standard Edition Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition Windows Small Business Server 2003 ・Windows 2000 Server（Service Pack 1 以上） Windows 2000 Advanced Server（Service Pack 1 以上） Windows 2000 Datacenter Server（Service Pack 1 以上）
ハードディスク空き容量	システムドライブに 250MB 以上（ソフト調査資料収集用の作業領域として、別途 500MB の空き容量を推奨） **注意事項：** ▶ ServerView がインストールされていない場合は、別途インストールのための空き領域が必要です。ServerView の必要な容量などについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。
ネットワーク	・ダイアルアップ接続または専用線接続など、インターネット接続環境 ・メールサーバ（お客様サイト内） ・ブレードサーバの場合、サーバブレード上にインストールされた REMCS エージェントは、マネジメントブレードと SNMP、SNMP トラップを使用した通信を行います。そのため、サーバブレードとマネジメントブレードが、お互いに SNMP と SNMP トラップで通信できるネットワークに接続されている必要があります。 ・高信頼 FT/HA モデルの場合、REMCS エージェントは、リモートサービスポート（監視用 LAN）を使用して REMCS センタと通信を行います。そのため、リモートサービスポートが REMCS センタと通信できるネットワークに接続されている必要があります。

表：REMCS エージェントの動作環境

項目	条件
その他	・Windows Server 2008 は、フルインストール環境と Server Core インストール環境をサポートします。 ・Windows Server 2008 は、without Hyper-V 製品もサポートします。 ・Windows Server 2008 では、Administrator で操作してください。Administrators グループや一般ユーザグループに所属するユーザアカウントの場合、動作しない場合があります。 ・ユーザアカウントとして、Administrator 権限が必要です。ドメイン内のサーバの場合、Domain Admins グループに所属するアカウントではなく、Administrators グループに所属するアカウントが必要です。 ・異常を検知するためには、イベントログが書き込み可能な状態である必要があります。詳細は「1.4.5 障害通知について」（→ P.22）を参照してください。 ・ターミナルサービス、リモートデスクトップなどを利用したリモート操作による運用を行う場合は、「1.4.6 リモート操作による運用について」（→ P.24）を参照してください。

■ RSB について

RSB（リモートサービスボード）は、サーバ本体に搭載するオプションカードです。RSB を搭載すると、以下の機能を使用できます。

- サーバに以下の異常が発生したときに、REMCS センタに通知します。
  - ・ServerView の起動監視による異常
  - ・ServerView、または RSB のウォッチドックタイマによる異常

  ServerView による各監視設定は、初期状態では無効になっています。有効にする方法については『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

重要

- REMCS エージェントは、SMTP を使用してセンタと通信します。ファイアウォールなどでプロトコル制限を実施している場合、センタとの通信に失敗する場合があります。その場合は制限の設定について再度検討してください。
- Windows Server 2003 に Service Pack を適用している場合で、Windows Firewall 機能をご利用の場合、デフォルトの設定で使用できます。REMCS エージェントでの設定は必要ありません。
- RSB は、POP before SMTP および SMTP-AUTH 認証に対応していません。

■ RSC/iRMC について

RSC/iRMC（リモートサービスコントローラ／リモートマネジメントコントローラ）は、ベースボード上に標準搭載されている RSB 相当の機能です。搭載されている機種では、以下の機能を使用できます。

- サーバに以下の異常が発生したときに、REMCS センタに通知します。
  - ・ServerView の起動監視による異常
  - ・ServerView、または BMC のウォッチドックタイマによる異常

ServerView による各監視設定は、初期状態では無効になっています。有効にする方法については『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

重要

- iRMC は SMTP AUTH 認証に対応しています。POP before SMTP には対応していません。
- RSC は POP before SMTP および SMTP AUTH 認証に対応していません。

1.4 留意事項

REMCS エージェントの使用に関して、以下の点に留意してください。

1.4.1 ブレードサーバを別のスロットに移動させた場合

リモート通報サービスを運用しているサーバブレードを別のスロットに移動させた場合、REMCS エージェントは自動でサービスの開始作業を行いますので、基本的にお客様の手動での操作は必要ありません。ただし、別のシャーシに移動させた場合、マネジメントブレードの SNMP コミュニティ名が異なるときは手動での操作が必要になります。

● サーバブレードを同じシャーシの別のスロットに移動させた場合

新しいスロットの情報を取得して、自動でサービスの開始作業を行います。

● サーバブレードを別のシャーシに移動させた場合

新しいシャーシとスロットの情報を取得して、自動でサービスの開始作業を行います。

重要

- 新しいシャーシに搭載されているマネジメントブレードのSNMPコミュニティ名が旧シャーシと異なる場合は、「3.6.1 お客様登録の変更」（→ P.75）を参照のうえ、サービスの開始作業を実施してください。ブレード情報設定画面で SNMP コミュニティ名の設定欄を変更してください。
- PRIMERGY BX300 では手動での操作が必要になります。「3.6.1 お客様登録の変更」（→ P.75）を参照のうえ、サービスの開始作業を実施してください。

1.4.2 メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合

メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられた場合は、エクスプローラなどで区画内のファイルを削除、変更しないでください。また、以下の操作を行ってください。

1 お手持ちのディスクをセットします。

→「■ REMCS エージェントのディスクについて」（P.4）

2 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

1. ［CD/DVD ドライブ］：【Enter】キー
2. cd fwutools 【Enter】キー
3. fwutools -v -h ［メンテナンス区画ドライブ名］【Enter】キー

コマンド実行後も、メンテナンス区画にドライブ名が割り当てられている場合は、以下の操作後、再度コマンドを実行してください。
なお、サーバに添付されているディスクにより操作が異なります。あらかじめ、お手元にディスクおよびフォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚ご用意ください。

● ServerStart CD-ROM の場合

1 お手持ちのディスク、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
→「■ REMCS エージェントのディスクについて」（P.4）

2 エクスプローラを起動し、ディスク内の "Chgpid" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

3 ServerStart CD-ROM を使用して、ハードウェア構成用ツール起動ディスクを作成します。
作成方法については、『ソフトウェアガイド』を参照してください。

4 ハードウェア構成用ツール起動ディスクをセットし、サーバを起動します。
メニューが表示されます。

5 「Basic(Japanese Environment)」を選択して【Enter】キーを押します。

6 手順 2 でコピーしたフロッピーディスクをセットし、以下のコマンドを実行します。
1. cd chgpid 【Enter】キー
2. chgpid /B:ON /F:A¥chgpid¥fdboot.bin 【Enter】キー
3. chgpid B:OFF 【Enter】キー

● ServerWizard CD-ROM の場合

1 REMCS エージェント CD、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。

2 エクスプローラを起動し、REMCS エージェント CD の "Chgpid" フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

3 ServerWizard CD-ROM をセットし、サーバを起動します。
「ServerWizard」画面が表示されます。

4 ［終了］を選択し、【Enter】キーを押します。

5 手順 2 でコピーしたフロッピーディスクをセットし、以下のコマンドを実行します。
1. B: 【Enter】キー
2. cd chgpid 【Enter】キー
3. chgpid /B:ON /F:A¥chgpid¥fdboot.bin 【Enter】キー
4. chgpid B:OFF 【Enter】キー

1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合

リモート保守サービスをご利用の PRIMERGY サーバにおいて、システム構築済みのハードディスクをコピーし、同一のシステムを複数台作成して運用する場合は、以下の点にご注意ください。

■ 装置 ID について

PRIMERGY は、個々のサーバを識別するための装置 ID をハードウェアで管理しています。
REMCS エージェントは、リモート保守サービス開始（レジストレーション処理）時に、ハードウェアから装置 ID を読み込み、サポートセンターに送信します。
レジストレーション後は、OS 起動後にハードウェアから装置 ID を読み込んで、ハードディスク内に保存されている装置 ID と比較します。比較の結果、装置 ID が違っていた場合はレジストレーション前の未接続状態に戻します。そのため、このサーバをマスタとして他のサーバにコピーした場合、コピー先のサーバは REMCS レジストレーション前の未接続状態になりますのでご注意ください。

■ システム構築マスタに使用可能な REMCS エージェントのバージョン

システム構築マスタとするハードディスクに REMCS エージェントをインストールする場合は、最新版をご利用ください。
REMCS エージェント for Windows V3.1L26 以前のバージョンでは、プログラムを起動した時点で自動的に装置 ID が読み込まれてしまうため、マスタとして使用する場合には注意が必要です。詳しくは、各バージョンに添付のマニュアルを参照してください。
REMCS エージェント for Windows V3.1L17 以前のバージョンでは、インストールした時点で自動的に装置 ID が読み込まれてしまうため、マスタには使用しないでください。

■ システム構築マスタ作成時の注意

REMCS のレジストレーション処理を実施したハードディスクをシステム構築マスタとして使用できます。このマスタを使用して他のサーバにコピーしたときは、コピー先のサーバで REMCS のレジストレーション処理を実施する必要があります。

重要

- コピー先のサーバが SupportDesk 契約されていない場合、レジストレーション処理は実施しないでください。
- ブレードサーバの場合は、OS 起動後に REMCS のレジストレーション処理が自動で実施されますので、作業不要です。コピー先のブレードサーバが SupportDesk 契約されていない場合は、「3.7.1 REMCS センタとの接続を停止する」（→ P.80）を参照して、接続を停止してください。

■ システム構築済みハードディスクをマスタとしてコピーする場合の作業手順

システム構築済みハードディスクをマスタとしてコピーして複数のサーバを構築する場合は、以下の作業の流れで REMCS のインストール、およびレジストレーション処理を行ってください。

1 マスタとなるサーバでシステムを構築します。

REMCS エージェントのインストールを行ってください。

2 構築したシステムのハードディスクをコピーツールなどでコピーし、複数のサーバを構築します。

3 マスタをコピーして構築したサーバそれぞれで、ホスト名などを設定します。

4 マスタをコピーして構築したサーバそれぞれで、REMCS エージェントのレジストレーション処理を実行します。

1.4.4 OS を再インストールする場合

REMCS を運用している装置において、お客様側で OS を再インストールしたときには、OS 再インストール後に再度 REMCS エージェントをインストールする必要があります。
REMCS エージェントの再インストール、または運用開始までに時間があく場合に、センタ側では装置が正しく運用されていないとして、お客様にお電話を差し上げる場合がございます。

1 REMCS センタとの接続を停止します。

停止方法については、「3.7.1 REMCS センタとの接続を停止する」（→ P.80）を参照してください。

2 OS、REMCS エージェントを再インストールします。

グループポリシー画面が起動します。

3 サービスの開始を行います。

「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

1.4.5 障害通知について

REMCS エージェントによる障害の通知は、イベントログを経由して行っています。イベントログが FULL で書き込みができない状態の場合、異常を検知することができません。
あらかじめイベントログに書き込みができる状態かどうかを確認してください。

POINT

- 書き込みができない状態になるのを防止するため、次の手順で、イベントログを上書き保存する設定にしておくことを推奨します。
  1. イベントビューアを起動します。
  2. システムログのプロパティを開きます。
  3. 「最大ログサイズ」を 16000KB（16MB）以上に設定します（サーバ用途の推奨値）。
  4. 「ログサイズが最大値に達したときの操作」を「必要に応じてイベントを上書きする」に設定します。
  5. アプリケーションログについても同様の設定を行います。

プログラムの通報仕様上の都合により、REMCS のリモート通報が遅延する、または通報されないという現象が発生するケースがあります。
以下に発生する可能性のあるケースについて説明します。

● 温度高温異常などのシャットダウン処理中の故障発生時に、通報されない場合があります。

サーバ監視ソフト（ServerView など）の設定で、温度異常発生時に自動的にシャットダウンを行うように設定している場合など、シャットダウン処理中に通報プロセスが動作する場合は、通報プロセスがシャットダウンされて通報できない場合があります。
この場合は、処理の進み具合により OS 再起動後に通報される場合と、OS を再起動した後も通報されない場合があります。ErrNotify.exe プロセスが起動された後にシャットダウンされた場合は、OS 再起動後も通報されません。

● メモリの訂正不可能エラーなどのシステムダウン発生時は、次回 OS 起動時に通報されます。

メモリの訂正不可能エラーなどのシステムダウン発生時は次回 OS 起動時に通報されます。
RSB ／ RSC ／ iRMC を搭載してソフトウォッチドック監視を有効にしている場合はシステムがダウンしてから、しばらくして通報されます。通報されるまでの時間はソフトウォッチドッグ監視の待ち時間によって変わります。待ち時間を大きく設定している場合は、それだけ遅れて通報されます。

● システムエラー発生時の OS 再起動設定を「自動的に再起動する」に設定している場合、RSB ／ RSC ／ iRMC からダウン通報が通報されない場合があります。

システムエラー発生時の OS 再起動設定を「自動的に再起動する」に設定している場合、RSB ／ RSC ／ iRMC を搭載してソフトウォッチドッグ監視を有効にしていても、通報されない場合があります。RSB ／ RSC ／ iRMC ソフトウォッチドッグ監視の待ち時間が経過する前に、自動的に再起動してしまった場合、RSB ／ RSC ／ iRMC がシステムダウンを検出できないため、RSB ／ RSC ／ iRMC からのダウン通報は通報されません。

● OS ／ドライバ／サーバ監視ソフトがハードウェア異常を検知できない場合は通報できません。

以下のようなケースが考えられます。

- 装置を監視するための RAID 管理ツール（ServerView RAID、Global Array Manager など）がインストールされていない場合
- OS ／ドライバ／サーバ監視ソフトが異常状態に陥り、ハードウェア異常を検出して、イベントログを出力することができない場合
- システムのシャットダウン途中でエラーが発生して異常を検知できない場合
- OS 起動前にハードウェア異常が発生した場合（メモリエラーは例外）
- CPU 故障やメモリ故障が発生して、故障部品を切り離して動作している場合
（切り離して動作していること自体の通報はできない）

● 通報機構がダウンしている場合は通報できません。

以下のようなケースが考えられます。

- メモリ不足やシステムドライブの空き容量不足などにより、REMCS エージェントが正常に動作できない場合
- Windows の eventlog サービスが起動していない、または、正常に動作していない場合

● 通信経路がダウンしている場合は通報できません。

以下のようなケースが考えられます。

- LAN カード、ケーブルやハブなどのネットワーク機器が故障していてセンタへの通信経路がダウンしている場合
- REMCS で使用しているメールサーバが正常に動作していない場合
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）の機器メンテナンスやトラブルのため、プロバイダのサービスが停止している場合

● センタで通報を抑止している場合はお客様に連絡しません。

以下のようなケースが考えられます。

- 保守開始通知～保守終了通知の間に通報されたリモート通報は、弊社保守員の保守交換作業による現象であり、ハードウェア故障ではないため連絡しません。
- センタ接続一時停止通知～センタ接続再開通知までの間に発生した定期接続タイムアウトは連絡しません。
- 停止通知～起動通知の間に発生した定期接続タイムアウトは連絡しません。

● REMCS 接続を開始した後にネットワーク環境を変更している場合、通報できない場合があります。

以下のようなケースが考えられます。

- メールサーバの移行により、メールを送信するために認証（POP before SMTP、SMTP 認証）が必要になった場合
- ウィルスチェックソフトのバージョンアップや別ソフトへの移行により、メールを送信するプロセスに制限がかけられている場合
- セキュリティ設定変更により、メール送信のためのポートが閉じられている場合

● **一定時間内に通報できる数の最大値を超えた場合は通報できません。**

一箇所でも故障が発生した場合は弊社作業員により作業を行うため、一度に通報できる数に最大値を設けて制限しています。1 時間内に 32 個を超えるハード異常が発生した場合（イベントログが出力された場合）は、33 個目以降は通報されません。

1.4.6 リモート操作による運用について

ターミナルサービス、リモートデスクトップを利用したリモート操作では、ターミナルサーバモード（Windows 2000 Server の場合、アプリケーションサーバモード）、管理用リモートデスクトップ（Windows 2000 Server の場合、リモート管理モード）における操作をサポートします。運用を行う場合は、以下の留意事項を必ずご確認のうえ、操作してください。

● **ターミナルサービスサーバのサポート OS**

ターミナルサービスサーバの OS として、以下をサポートします。ターミナルサービスサーバとは、REMCS エージェントをインストールする対象装置です。

- Windows Server 2008 Standard
- Windows Server 2008 Standard (64-bit)
- Windows Server 2008 Enterprise
- Windows Server 2008 Enterprise (64-bit)
- Windows Server 2008 Datacenter (64-bit)
- Windows Server 2003, Standard Edition
- Windows Server 2003, Enterprise Edition
- Windows Server 2003, Standard x64 Edition
- Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
- Windows Server 2003 R2, Standard Edition
- Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server

● **ターミナルサービスクライアントのサポート OS**

リモート操作を行う端末の OS として、以下をサポートします。

- Windows Server 2008 Standard
- Windows Server 2008 Standard (64-bit)
- Windows Server 2008 Enterprise
- Windows Server 2008 Enterprise (64-bit)
- Windows Server 2008 Datacenter (64-bit)
- Windows Vista Business
- Windows Vista Enterprise

- Windows Vista Ultimate
- Windows Server 2003, Standard Edition
- Windows Server 2003, Enterprise Edition
- 64 ビットバージョン Windows Server 2003、Enterprise Edition
- Windows Server 2003, Standard x64 Edition
- Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
- Windows Server 2003 R2, Standard Edition
- Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- Windows Server 2003, Enterprise Edition for Itanium-Based Systems
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Professional
- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Advanced Server
- Windows 2000 Datacenter Server

● ネットワーク構成の注意点

ターミナルサービスをターミナルサーバモードで利用する場合は、ドメインコントローラとして構成しないでください。ターミナルサーバは、メンバサーバもしくはスタンドアロンサーバとして構成してください。

● REMCS エージェントインストール時の注意事項

必ずローカルでログオンしてインストールを行ってください。ターミナルサービスを使用してリモートでインストールすることはできません。また、インストールするときは、事前にターミナルサービスを利用しているクライアントに通知し、接続を中断してください。

● REMCS エージェント再インストールの要件

以下の場合は、REMCS エージェントを再インストールしてください。

- REMCS エージェントのインストール後、アプリケーションサーバモードとリモート管理モードを切り替えた場合
- REMCS エージェントのインストール後、ターミナルサービスの有効／無効を切り替えた場合
- REMCS エージェントのインストール後、ターミナルサービスコンポーネントをアンインストールした場合

● 未サポート事項について

ローカルユーザー、リモートユーザーにかかわらず、複数ユーザーからの同時操作はサポートしていません。

1.4.7 使用プロトコル

REMCS センタと通信を行うには、REMCS エージェントをインストールしたサーバからインターネットやイントラネットに向けて、いくつかのプロトコルを通過させる必要があります。以下を参考に、必要な設定を行ってください。

● プロトコル：SMTP

表：SMTP

項目	説明
ポート番号（標準）	25
機能	障害メッセージを REMCS センタに通報します。
通信開始方向	REMCS エージェントを導入したサーバ → REMCS センタ
暗号化	あり

● プロトコル：SNMP

表：SNMP

項目	説明
ポート番号（標準）	161
機能	ブレードサーバのシャーシ装置 ID を取得します。
通信開始方向	REMCS エージェントを導入したサーバブレード → マネジメントブレード
暗号化	なし
備考	SNMP プロトコルは、REMCS センタとの通信においては、ブレードサーバ以外の場合は使用しません。 SNMP プロトコルは ServerView などのハード監視ソフトでも使用します。

● プロトコル：SNMP TRAP

表：SNMP TRAP

項目	説明
ポート番号（標準）	162
機能	検出障害情報を、REMCS エージェントを導入したサーバに送信します。
通信開始方向	・RAID を搭載したサーバ → REMCS エージェントを導入したサーバ ・マネジメントブレード → REMCS エージェントを導入したサーバ
暗号化	なし

● プロトコル：POP

表：POP

項目	説明
ポート番号（標準）	110
機能	SMTP サーバに接続する際に認証のために使用します。
通信開始方向	REMCS エージェントを導入したサーバ → POP サーバ
暗号化	なし
備考	POP before SMTP を使用しない場合、POP プロトコルは使用しません。

1.4.8 ポート番号を使用するプロセスの種類

REMCS センタにイベントを送信する際に使用しているポートについて、お使いのウィルス対策用ソフトウェアにファイアウォール機能がある場合は、イベント送信時にエラーが発生します。ポートごとに使用するプロセス名を設定することで回避できる場合は、以下の表を参照して設定してください。

POINT

- REMCS エージェントのバージョン（版数）により異なります。
- メールのポートに 25 以外の番号を使っている場合は、お使いになっている番号にプロセス名を設定してください。

表：ポートを使用するプロセス名一覧

版数	ポート：25	ポート：110
V3.0L43 以前	f3crkxsv.exe	−
V3.0L50	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F3gwsrii.exe	−
V3.0L51 〜 V3.1L16A	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F3gwsrii.exe	
V3.1L17	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe StructSend.exe F3gwsrii.exe	
V3.1L18 〜 V3.1L23x	F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe StructSend.exe rm_PON.exe rm_POFF.exe F3gwsrii.exe msgsend.exe	
V3.1L24 〜 V3.1L26	com_send.exe F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe StructSend.exe rm_PON.exe rm_POFF.exe F3gwsrii.exe msgsend.exe	

表：ポートを使用するプロセス名一覧

版数	ポート：25	ポート：110
V3.1L27 ～ V3.1L29x	com_send.exe F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F5FBRRMS.EXE StructSend.exe rm_PON.exe rm_POFF.exe F3gwsrii.exe msgsend.exe	
V3.2L10 以降	com_send.exe F5EP00RMService.exe f5epwizard.exe F5epgui.exe F5epHWM_ap.exe F5FBRRMS.EXE StructSend.exe rm_PON.exe rm_POFF.exe F3gwsrii.exe msgsend.exe AgentSend.exe	

● プロセス名の意味

それぞれのプロセス名の意味は、次のとおりです。

表：プロセス名の意味

プロセス名	意味
f3crkxsv.exe	E-Mail 通信でのイベント送信時に使用
F5EP00RMService.exe	ハード異常通報送信時に使用
f5epwizard.exe	GUI にてレジストレーション、接続確認イベント送信時に使用
F5epgui.exe	定期接続変更時に、定期接続イベント送信、構成情報送信、保守開始・終了、センタ接続停止・再開
F5epHWM_ap.exe	定期接続イベント送信時に使用
F5FBRRMS.EXE	資源監視イベント送信時に使用
StructSend.exe	ハード構成情報送信時に使用
rm_PON.exe	パワーオンイベント送信時に使用
rm_POFF.exe	パワーオフイベント送信時に使用
F3gwsrii.exe	調査資料送信時に使用（V3.1L23 以前）
com_send.exe	調査資料送信時に使用（V3.1L24 以降）
msgsend.exe	ソフト異常通報送信時に使用
AgentSend.exe	アップデートインストールの際に、エージェント設定情報変更通知を送信するために使用（V3.2L10 以降）

1.4.9 夏時間切り替え時の定期接続時刻について

夏時間から通常時間に切り替わるとき、または、通常時間から夏時間に切り替わるときに、次回定期接続時刻と実際の定期接続時刻が最大で 1 時間前後ずれてしまう場合があります。ただし、その後の定期接続では設定している時刻に接続されますので、特に対処を行う必要はありません。

1.4.10 SAN ブート環境の場合

ブレードサーバの SAN ブート環境における REMCS 運用をサポートしています。ただし、サポート範囲は次のとおりになります。

● サポート機種

ブレードサーバ

● サポート構成

- サーバブレードとストレージの LUN（LUN_V）が 1 対 1 で対応している構成
- サーバブレードとストレージの LUN（LUN_V）が n 対 1 で対応している構成（故障時、予備サーバブレードに切り替えて運用する）

● 未サポート構成

- サーバブレードとストレージの LUN（LUN_V）が 1 対 n で対応している構成（時間帯によって LUN を切り替えて運用するなど）
- サーバブレードとストレージの LUN（LUN_V）が n 対 n で対応している構成

重要

- ブレードサーバ以外の SAN ブート環境はサポートしていません。
- 代表サーバブレードは、ブレードシャーシごとに 1 台ずつ必ず搭載してください。
- 待機中の予備サーバブレードで動作している仮 OS では動作しません。故障が発生してもリモート通報は行いません。
- ブレードシャーシ間で予備サーバブレードに切り替わる構成では、一般サーバブレードのみを切り替え対象にしてください。代表サーバブレードについては、REMCS 運用上で支障が生じるため、ブレードシャーシ間での切り替え対象にできません。
- OSスタートアップ中やOSブート起動直後に発生した故障については、最大で10分間保留してからセンタに通報します。また、保留中に故障が発生して予備サーバブレードに切り替わった場合、保留していたイベントは通報されません。
- ストレージの監視はできません。別途、ストレージでサポートしているリモート通報サービスを利用してください。

1.4.11 サブミッションポートに対応したメールサーバを使用する場合

迷惑メール対策の 1 つとして、サブミッションポート（port 587）に対応したメールサーバを利用している場合は、REMCS の設定時に SMTP ポート番号に「587」を指定してください。また、AUTH-SMTP 認証による認証が必要となりますので、AUTH-SMTP 認証の設定を行ってください。
iRMC が搭載されている場合は、iRMC への設定も必要です。「3.3 iRMC の設定」（→ P.70）を参照してください。

重要

- RSB ／ RSC は SMTP-AUTH 認証に対応していませんので、サブミッションポートに対応したメールサーバを利用することはできません。

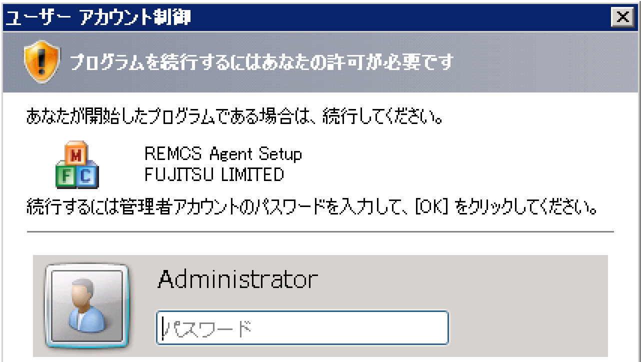
1.4.12 REMCS 運用中に高信頼 FT/HA モデルをシャットダウンする場合

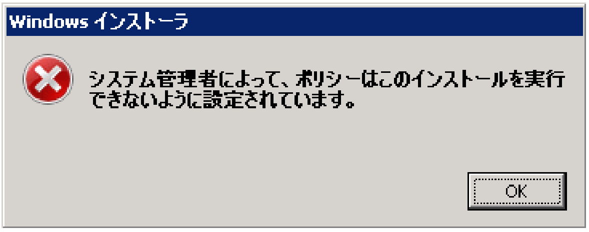
CoServer をシャットダウンするときは、シャットダウン前に CoServer1 と CoServer2 を「保守作業中」状態に設定してください。片方の CoServer だけシャットダウンする場合も CoServer1 と CoServer2 の両方を「保守作業中」状態に設定してください。
「保守作業中」状態に設定しなかった場合、CoServer のリンクダウンがセンタに通知されることがあります。
設定方法については、詳細は「4.2.1 保守作業開始の通知」（→ P.85）を参照してください。

1.4.13 Windows Server 2008 でご使用になる場合

■ ユーザアカウントについて

REMCS エージェントのインストールや運用操作は、Administrator で操作してください。
Administrators グループに所属するユーザアカウントや一般ユーザアカウントで操作した場合、管理者アカウントへの昇格要求ダイアログが表示されたり、操作が禁止されていたりする場合があります。





■ JIS2004 文字について

REMCS エージェントは、以下の文字をサポートしていません。
お客様情報画面などの画面入力時や、フォルダ名やパス指定の際に以下の文字を含まないようにご注意ください。

- JIS2004 の第 3 ／ 4 水準文字
- JIS2004 の 4 バイト文字

■ IPv6 について

REMCS エージェントは、IPv6 をサポートしていません。

- IPv4 ネットワークに接続して運用してください。
- IP アドレスを入力設定する場所には、IPv4 のアドレスを指定してください。IPv6 のアドレス入力には対応していません。

■ Server Core インストール環境での運用について

REMCS エージェントは Server Core インストール環境での運用をサポートしています。Server Core のサーバを管理するために、別の Windows 装置が必要です。以下のいずれかの OS が動作する装置をご用意ください。

- Windows 2000 Professional
- Windows XP Professional
- Windows Vista
- Windows Server 2003
- Windows Server 2008 （フルインストール環境）

1.4.14 定期接続スケジュールの周期設定について

REMCS エージェント V3.2L10 からは、定期接続スケジュールの周期に「月一回」を設定できません。
以下の場合には、定期接続スケジュールの周期は、「週一回（土日を除く）」（曜日はランダム）に自動で変更されます。

- アップグレードインストール時、既存の設定が「月一回」の場合
- FPD 参照時、リストア元の情報ファイルの設定が「月一回」の場合

変更された定期接続スケジュールを確認・再変更する場合は、「■ 定期接続時刻の変更」（→ P.76）を参照してください。

1.4.15 Service LAN ポートを経由して設定を行う場合

サーバ本体前面の Service LAN ポートを経由して REMCS エージェントの設定を行う場合、iRMC のテストメール送信は行えません。

第 2 章

レジストレーション前の準備

この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。

2.1　レジストレーションまでの流れ 34
2.2　SNMP サービスのインストール 38
2.3　REMCS エージェントのインストール 46

2.1 レジストレーションまでの流れ

各種ソフトウェアをインストールし、サポートサービスを開始するまでの流れについて説明します。

■ 用意するもの

インストール前に、以下のものを用意してください。

- PRIMERGY スタートアップディスク
  →「■ REMCS エージェントのディスクについて」（P.4）
- ご使用の OS（Windows Server 2008 ／ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server）の CD-ROM
- Service Pack の CD-ROM

2.1.1 一般サーバの場合

インストールは、次の手順で行います。

1 SNMP サービスをインストールします。

インストール方法については、「2.2 SNMP サービスのインストール」（→ P.38）を参照してください。

2 ServerView エージェントをインストールします。

インストール方法については『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』を参照してください。

3 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」（→ P.46）を参照してください。

4 I/O 監視ソフトウェアをインストールします。

REMCS エージェントのインストール時に、導入チェック画面の「I/O 監視ソフトウェア」の欄に「NG」で表示された項目について、I/O 監視ソフトウェアをインストールします。インストール方法、および設定方法については、I/O 監視ソフトウェアに添付されているマニュアルを参照してください。
サービス運用中に、新規に I/O 装置を搭載・接続した場合にも、必要な I/O 監視ソフトウェアのインストールと設定を行ってください。

5 サービスを開始します。

「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

2.1.2 ブレードサーバの場合

搭載されているサーバブレードの中から、サーバブレード筐体のハードウェア構成情報や異常監視を行う代表サーバブレードを 1 枚決定してください。ここでは、代表サーバブレード以外のサーバブレードを一般サーバブレードと呼びます。
REMCS エージェントのインストールは、すべてのサーバブレードに対して行ってください。
SAN ブート環境の場合は、「1.4.10 SAN ブート環境の場合」（→ P.29）にサポート範囲が記載されていますので必ず確認してください。

- 一般サーバブレードの場合
  「2.1.1 一般サーバの場合」（→ P.34）の手順に従って、インストールを行ってください。
- 代表サーバブレードの場合
  以下の手順でインストールを行ってください。

1 **SNMP サービスをインストールします。**

インストール方法については、「2.2 SNMP サービスのインストール」（→ P.38）を参照してください。

2 **ServerView エージェントをインストールします。**

インストール方法については『ServerView ユーザーズガイド（Windows エージェント編）』を参照してください。

3 **ServerView コンソールをインストールします（BX300 の場合のみ）。**

インストール方法については、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

4 **マネジメントブレードの SNMP コミュニティ名を設定します。**

マネジメントブレードの WebUI などを使用して、コミュニティ名を設定してください。特に指定のない場合は、すべて小文字で「public」と入力してください。詳しくは、ブレードサーバに添付の『ハードウェアガイド マネジメントブレード編』を参照してください。

5 **マネジメントブレードの SNMP Trap 設定の宛先に、代表サーバブレードの IP アドレスを設定します。**

マネジメントブレードの Web UI などを使用して設定してください。詳しくは、ブレードサーバに添付の『ハードウェアガイド マネジメントブレード編』を参照してください。

6 **ServerView AlarmService または ServerView Event Manager をインストールしている場合、マネジメントブレードを ServerView の監視対象サーバに追加します。**

監視対象サーバへの追加は、ServerView の管理コンソールを使って行います。追加方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「第 3 章 ServerView の使用方法」を参照してください。

POINT

ServerView AlarmService ／ ServerView Event Manager のインストール確認

- スタートメニューに「Fujitsu AlarmService」が表示されている場合は、ServerView AlarmService がインストールされています。
- スタートメニューに「Fujitsu ServerView」→「Event Manager」が表示されている場合は、ServerView Event Manager がインストールされています。

7 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」（→ P.46）を参照してください。

8 マネジメントブレードからのトラップを受信するように設定します。

1. fjtraplog.ini を メモ帳で開きます。

   Windows Server 2008 ／ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server

   ［システムドライブ］¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBTL01¥fjtraplog.ini

   Windows Server 2008 (64-bit) ／ Windows Server 2003 x64

   ［システムドライブ］¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5FBTL01¥fjtraplog.ini

2. 以下の行のコメント (#) を削除して、マネジメントブレードの IP アドレスを設定します。

   例）マネジメントブレードの IP アドレスが 192.168.1.10 の場合

   編集前

```
# IPADDR = 10.10.10.10
```

   編集後

```
IPADDR = 192.168.1.10
```

9 システムを再起動します。

10 サービスを開始します。

すべてのサーバブレードに対して、レジストレーション操作を行います。「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

2.1.3 高信頼 FT/HA モデルの場合

REMCS エージェントは、CoServer1、CoServer2 にそれぞれプレインストールされています。お手元に最新の REMCS エージェントがある場合は、修正などが含まれていますので、最新の REMCS エージェントにアップグレードしてください。
2 台の CoServer 上で、以下の作業を実施してください。

1 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「FT ／ HA 初期処理」の順にクリックします。**

レジストレーション前の初期処理が始まります。
ハードウェアから装置識別情報を取得できなかった場合には、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 2 を実施してください。
ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 3 に進んでください。

2 **サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。**

レジストレーション初期処理完了のメッセージが表示されます。

重要

- チェックコード、製造番号は、サーバごとに値が異なります。必ず、該当するサーバに添付されている保証書をご覧になって、番号を入力してください。
- 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。

3 **1 ～ 2 の手順を、もう 1 台の CoServer でも実施します。**

4 **サービスを開始します。**

2 台の CoServer 上で、レジストレーション操作を行います。「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

■ REMCS エージェントのアップグレードについて

REMCS エージェントをアップグレードする場合は、「A.2 高信頼 FT/HA モデルの場合」（→ P.136）を参照して、アップデート作業を行ってください。

2.2 SNMP サービスのインストール

SNMP サービスをインストールする方法を説明します。

2.2.1 Windows Server 2008 の場合

■ フルインストール環境の場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「管理ツール」→「サーバーマネージャ」の順にクリックします。

「サーバー マネージャ」画面が表示されます。

2 「機能の追加」をクリックします。

「機能の追加ウィザード」画面が表示されます。

3 次のいずれかの操作を行います。

機能の一覧表の中にある「SNMP サービス」のチェック有無によって、操作が異なります。

<u>「SNMP サービス」にチェックが付いている場合</u>

SNMP サービスがすでにインストールされています。［キャンセル］をクリックして、機能の追加ウィザードを終了してください。これで SNMP サービスのインストール は終了です。

<u>「SNMP サービス」にチェックが付いていない場合</u>

SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

4 「SNMP サービス」にチェックをつけて、［次へ］をクリックします。

5 以降、画面の指示に従って SNMP サービス をインストールします。

6 サーバー マネージャの「構成」をクリックします。

7 「サービス」をダブルクリックします。

8 ［SNMP サービス］の上で右クリックをして、「プロパティ」をクリックします。

「SNMP Service のプロパティ」画面が表示されます。

9 ［トラップ］タブをクリックします。

10 コミュニティ名に「public」を入力して、［一覧に追加］をクリックします。

11 トラップ送信先に「127.0.0.1」を入力して、［追加］をクリックします。

12 ［セキュリティ］タブをクリックします。

13 コミュニティの設定を行います。

「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在する場合

1. 「public」をクリックし、「編集」をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読み取り、書き込み」または「読み取り、作成」を選択します。
   推奨値は「読み取り、書き込み」です。
3. ［OK］をクリックします。

「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在しない場合

1. ［追加］をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読み取り、書き込み」または「読み取り、作成」を選択します。
   推奨値は「読み取り、書き込み」です。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、［追加］をクリックします。
4. ［OK］をクリックします。

14 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

15 ［OK］をクリックします。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、以下の操作を行います。

重要

- SNMP サービスの設定を行うため、Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の装置とは別の Windows 装置が必要になります。あらかじめ用意してください。

1 コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

```
net start
```

2 次のいずれかの操作を行います。

表示された一覧表の中に「SNMP Service」がある場合

SNMP サービスがすでにインストールされています。
これで SNMP サービスのインストール は終了です。

表示された一覧表の中に「SNMP Service」がない場合

SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

3 以下のコマンドを実行します。

```
start /w ocsetup SNMP-SC
```

4 別の Windows 装置上でコマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

操作の途中で Administrator のパスワードの入力が必要です。

例）Server Core サーバの IP アドレスが 192.168.1.10 の場合

```
Net use * ¥¥192.168.1.10¥c$ /u:Administrator
 'Administrator' のパスワードを入力してください。'192.168.1.10' に接続します:
 ドライブ Z: は現在 ¥¥192.168.1.10¥c$ に接続されています。
 コマンドは正常に終了しました。
services.msc
```

サービス画面が起動します。

5 サービス画面の「操作」メニューの「別のコンピュータへ接続…」をクリックします。

コンピュータの選択画面が表示されます。

6 「別のコンピュータ」に Server Core サーバの IP アドレスを入力して、[OK] をクリックします。

上記の例では、IP アドレスは「192.168.1.10」を指定します。

Server Core サーバのサービス一覧が表示されます。

7 SNMP サービスを設定します。

「■ フルインストール環境の場合」（→ P.38）の手順 8 ～ 15 を実行します。

8 設定終了後、サービス画面を終了します。

9 ネットワークドライブとして割り当てられている "c$ " を切断します。

● レジストリ編集による SNMP サービスの設定

重要

- 本手順はレジストリを直接操作するため、操作を誤るとシステムに多大な悪影響を及ぼす可能性があります。通常は「■ Server Core インストール環境の場合」（→ P.39）で設定してください。本手順にて設定する場合は、操作を誤った場合の影響度合いをよく考慮したうえで実施してください。

本手順は、以下の設定を例として記載しています。お客様の環境に応じて、読み替えてください。

表：SNMP サービスの設定例

項目	設定例
コミュニティ名	public
トラップ送信先	127.0.0.1
SNMP パケットを受け付けるホスト	192.168.1.10

1 お手持ちのディスクをセットし、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

PRIMERGY スタートアップディスク

```
cd ［CD/DVD ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Windows¥tool¥ConfigSNMP
```

REMCS エージェント CD

```
cd ［CD/DVD ドライブ］:¥Remcs¥Windows¥tool¥ConfigSNMP
```

2 コミュニティのトラップ送信先を設定します。

```
addtpdst public 127.0.0.1
```

POINT

- 登録内容を確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
showtpdst public
```

3 受け付けるコミュニティ名を登録します。

コミュニティの権利は「読み取り、書き込み」で設定されます。

```
addcommu public
```

POINT

- 登録状況を確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
showcommu
```

本手順の例の場合には、以下のように登録結果が表示されます。

```
public REG_DWORD 0x8
```

4 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

すべてのホストのパケットを受け付ける場合

```
delhost
```

「レジストリキー ～ PermittedManagers の値をすべて削除しますか？（Yes/No）」に Yes と回答します。

指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

```
addhost 192.168.1.10
```

POINT

- 登録状況を確認するには以下のコマンドを実行します。

```
showhost
```

2.2.2 Windows Server 2003 の場合

1「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」の順にクリックします。

「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。

2［Windows コンポーネントの追加と削除］をクリックします。

Windows コンポーネントウィザードが起動します。

3 コンポーネントの一覧表から「管理とモニタツール」を選択して、［詳細］をクリックします。

管理とモニタツールの一覧が表示されます。

4 次のいずれかの操作を行います。

コンポーネントの一覧表の中にある「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」のチェック有無によって、操作が異なります。

「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」にチェックが付いている場合

SNMP サービスがすでにインストールされています。［キャンセル］をクリックして、プログラムの追加と削除を終了してください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。

「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」にチェックが付いていない場合

SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

5「簡易ネットワーク管理プロトコル （SNMP）」をチェックし、［OK］をクリックします。

6 以降、画面の指示に従って簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）をインストールします。

7 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「管理ツール」の順にクリックします。

「管理ツール」画面が表示されます。

8 ［サービス］をクリックします。

「サービス」画面が表示されます。

9 ［SNMP Service］の上で右クリックをして、「プロパティ」をクリックします。

「SNMP Service のプロパティ」画面が表示されます。

10 ［トラップ］タブをクリックします。

11 コミュニティ名に「public」を入力して、［一覧に追加］をクリックします。

12 トラップ送信先に「localhost」を入力して、［追加］をクリックします。

13 ［セキュリティ］タブをクリックします。

14 コミュニティの設定を行います。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在する場合</u>

1.「public」をクリックし、「編集」をクリックします。
2.「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します。
   推奨値は「読みとり、書き込み」です。
3. ［OK］をクリックします。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在しない場合</u>

1. ［追加］をクリックします。
2.「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します。
   推奨値は「読みとり、書き込み」です。
3.「コミュニティ」に「public」と入力し、［追加］をクリックします。

15 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

<u>すべてのホストのパケットを受け付ける場合</u>

1.「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

<u>指定したホストのパケットのみを受け付ける場合</u>

1.「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

16 ［OK］をクリックします。

2.2.3 Windows 2000 Server の場合

1 Service Pack（1 以上）を適用します。

すでに適用済みの場合は、この操作を行う必要はありません。

POINT

- 適用されている Service Pack のバージョンを確認にするには
  1. デスクトップ上の［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
  3. Service Pack のバージョンを確認します。
     例）Service Pack 2 がインストールされている場合
     「Microsoft (R) Windows (R) Version 5.0 (Build 2195: Service Pack 2)」

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 ［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。

「アプリケーションの追加と削除」画面が表示されます。

4 ［Windows コンポーネントの追加と削除］をクリックします。

Windows コンポーネントウィザードが起動します。

5 コンポーネントの一覧表から「管理とモニタツール」を選択して、［詳細］をクリックします。

管理とモニタツールの一覧が表示されます。

6 次のいずれかの操作を行います。

コンポーネントの一覧表の中にある「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」のチェック有無によって、操作が異なります。

<u>「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」にチェックが付いている場合</u>

SNMP サービスがすでにインストールされています。［キャンセル］をクリックして、アプリケーションの追加と削除を終了してください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。以降の操作を行う必要はありません。

<u>「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」にチェックが付いていない場合</u>

SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

7 「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」をチェックし、［OK］をクリックします。

8 以降、画面の指示に従って簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）をインストールします。

9 SNMP サービスインストール後、Service Pack を再度適用します。

インストール前にすでに適用済みで、手順 1 の操作を行っていない場合は、事前に適用していた Service Pack と同じバージョンの Service Pack を再度適用してください。

10 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「管理ツール」の順にクリックします。

「管理ツール」画面が表示されます。

11 ［サービス］をクリックします。

「サービス」画面が表示されます。

12 右側のウィンドウで［SNMP Service］をクリックします。

13 「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

14 ［トラップ］タブをクリックします。

15 コミュニティ名に「public」を入力して、［一覧に追加］をクリックします。

16 トラップ送信先に「localhost」を入力して、［追加］をクリックします。

17 ［セキュリティ］タブをクリックします。

18 コミュニティの設定を行います。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在する場合</u>

1. 「public」をクリックし、「編集」をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「READ WRITE」または「READ CREATE」を選択します。
   推奨値は「READ WRITE」です。
3. ［OK］をクリックします。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に「public」が存在しない場合</u>

1. ［追加］をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「READ WRITE」または「READ CREATE」を選択します。
   推奨値は「READ WRITE」です。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、［追加］をクリックします。

19 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

<u>すべてのホストのパケットを受け付ける場合</u>

1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

<u>指定したホストのパケットのみを受け付ける場合</u>

1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

20 ［OK］をクリックします。

2.3 REMCS エージェントのインストール

REMCS エージェントをインストールする方法を説明します。
上書きインストール、アップデートインストール、高信頼 FT/HA モデルでの再インストールについては、「付録 A REMCS エージェントのアップグレードインストール」（→ P.134）を参照してください。

重要

- REMCS エージェントをインストールする前に、SNMP サービス、ServerView エージェントをインストールしてください。SNMP サービスや ServerView エージェントをインストールせずに REMCS エージェントをインストールした場合、エラーメッセージを表示してインストールを終了します。
- RAID カードなどのデバイスは、一度搭載して起動すると、カードを取り外した後もドライバのみ動き続けることがあります。このような場合、監視対象デバイスが搭載されていると判断し、導入チェック画面に誤った結果が表示されることがあります。そのため、デバイスを外した後は、必ずドライバを削除してください。
- REMCS エージェントのインストールが、スムーズに行われない（15 分以上経過しても、処理が進行しないのを目安としてください）場合は、タスクマネージャのプロセス画面で REMCSAgentJpnVxxLxx_xxx.exe を終了してください。その後、OS をセーフモードで起動してから、再度 REMCS エージェントのインストールを行ってください。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境での手順は、「■ Server Core インストール環境の場合」（→ P.47）を参照してください。

1 お手持ちのディスクをセットし、以下のファイルを実行します。

PRIMERGY スタートアップディスク

［CD/DVD ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Windows¥RAsetup.exe

REMCS エージェント CD

［CD/DVD ドライブ］:¥Remcs¥Windows¥RAsetup.exe

ようこそ画面が表示されます。

2 ［次へ］をクリックします。

サーバモデルの選択画面が表示されます。

3 モデルを選択して、［次へ］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェア チェック画面が表示されます。

4 ［チェック開始］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェアのインストール状況が表示されます。不足している I/O 監視ソフトウェアがあった場合は、REMCS エージェントのインストール後にインストールしてください。

5 ［閉じる］をクリックします。

インストール開始確認メッセージが表示されます。

6 ［インストール］をクリックします。

REMCS エージェントのインストールが開始されます。

7 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境下でインストールする手順は次のとおりです。

1 お手持ちのディスクをセットし、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

PRIMERGY スタートアップディスク

```
cd ［CD/DVDドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Windows
start RAsetup.exe
```

REMCS エージェント CD

```
cd ［CD/DVDドライブ］:¥Remcs¥Windows
start RAsetup.exe
```

ようこそ画面が表示されます。

2 ［次へ］をクリックします。

サーバモデルの選択画面が表示されます。

3 モデルを選択して、［次へ］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェア チェック画面が表示されます。

4 ［チェック開始］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェアのインストール状況が表示されます。不足している I/O 監視ソフトウェアがあった場合は、REMCS エージェントのインストール後にインストールしてください。

5 ［閉じる］をクリックします。

インストール開始確認メッセージが表示されます。

6 ［インストール］をクリックします。

REMCS エージェントのインストールが開始されます。

7 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

第 3 章

レジストレーション

この章では、レジストレーションの手順について説明しています。センタへの接続形態別にレジストレーションの手順が異なります。

3.1	レジストレーション	50
3.2	RSB（PG-RSB102 以降）の設定	64
3.3	iRMC の設定	70
3.4	サーバダウン監視の設定	73
3.5	POST 監視／ OS ブート監視の設定	74
3.6	レジストレーション後の設定変更	75
3.7	REMCS センタとの接続停止／再開	80
3.8	構成情報送信	81
3.9	接続確認	82

3.1 レジストレーション

各接続時のお客様登録の手順について説明します。
接続形態によって、設定項目が一部異なります。

■ お客様登録を開始する前に

以下のネットワーク関連情報を確認してください。

○：確認必要　－：確認不要

表：確認するネットワーク関連情報

確認項目	インターネット接続（メール）	P-P 接続（VPN: メール） P-P 接続（ISDN: メール） [注 2]
お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス	○	－
SMTP ポート番号	○	－
メール送信時の認証の有無 （認証を有する場合は認証情報も必要）	○	－
サーバの IP アドレス	○	○
マネジメントブレードの IP アドレス [注 1]	○	○
マネジメントブレードの SNMP コミュニティ名 [注 1]	○	○
PG-RSB101 用の IP アドレス （PG-RSB101 搭載機のみ必要）	○	○
RSC 用の IP アドレス （RSC が搭載されている場合のみ必要）	○	○
iRMC 用の IP アドレス （iRMC が搭載されている場合のみ必要）	○	○
送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）	○	○

［注 1］：ブレードサーバの場合。
［注 2］：メール（SMTP）サーバに関する情報は弊社より通知されます。

POINT

- お客様登録前に、保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）をご用意ください。
- ブレードサーバの場合、レジストレーション操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

3.1.1 お客様登録

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

1 ［レジストレーション］アイコンをダブルクリックします。

POINT

- デスクトップ上に［レジストレーション］アイコンが存在しない場合は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックし、「レジストレーション」をクリックしてください。
- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epwizard.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epwizard.exe
```

高信頼 FT/HA モデルの場合

以下の画面が表示されます。



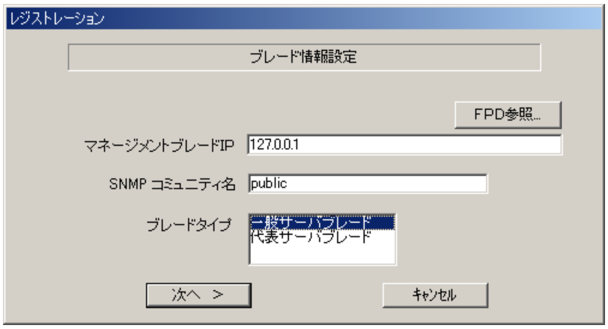
1.［次へ］をクリックします。

POINT

- 相手 CoServer の IP アドレスは、通常は変更する必要はありません。C-Link 上のネットワーク設定を変更している場合のみ、変更内容に合わせて入力してください。

ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスは装置に設定されている値が表示されます。値が正しいかどうか、確認してください。
2. SNMP コミュニティ名に、マネジメントブレードと SNMP 通信するためのコミュニティ名を入力してください。特に指定のない場合は、すべて小文字で「public」と入力してください。
3. レジストレーションを行うブレードタイプを選択します。

POINT

- ［FPD 参照］をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。この場合、フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。
  なお、装置ユニーク名と定期接続スケジュール時刻は装置固有の情報であるため、リストアされません。
  定期接続スケジュールの周期設定が「月一回」の場合は「週一回（土日以外）」に変更されます。
- マネジメントブレードの IP アドレスは、そのサーバブレードが搭載されているシャーシのマネジメントブレードの IP アドレスを入力してください。

4. ［次へ］をクリックします。

2　ご利用の接続形態にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

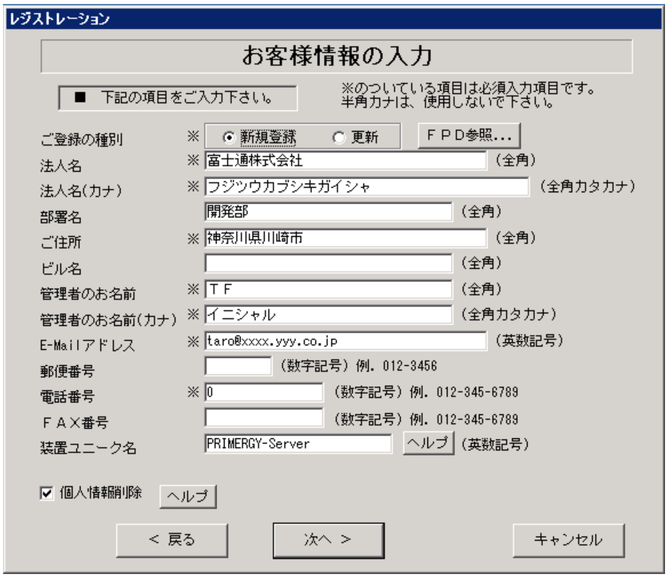
「レジストレーション」画面が表示されます。

3　［次へ］をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

4　お客様情報を入力します。

「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。



表：お客様情報の入力項目

項目	説明
ご登録の種別	新規登録：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。 新規登録を行っていない場合は選択できません。
［FPD 参照］	お客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクから読み込みます。 REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報（.inf ファイル）の読み込みしかできない場合があります。 フロッピーディスクのラベルに記入の接続形態名を確認し、同じ接続形態のフロッピーディスクを使用してください。 **注意事項：** **▶ 装置ユニーク名と定期接続スケジュール時刻は装置固有の情報であるため、リストアされません。定期接続スケジュールの周期設定が「月一回」の場合は「週一回（土日以外）」に変更されます。**
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字以内）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字以内）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字以内）。
ご住所	お客様の市町村名までの住所を入力します（全角 30 文字以内）。 （例）神奈川県川崎市
ビル名	空欄にします。
管理者のお名前	全角英字にてイニシャルを入力します。 （例）ＴＦ
管理者のお名前（カナ）	「イニシャル」と入力します。
E-Mail アドレス	REMCS センタからこのアドレス宛に接続結果メールを返信しますので、個人を特定できない受領可能なアドレスを入力します（英数記号 60 文字以内、特殊文字（& など）は使用不可）。
郵便番号	空欄にします。
電話番号	「0」を入力します。

表：お客様情報の入力項目

項目	説明
FAX 番号	空欄にします。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号 32 文字まで。- # のみ使用可。&”’< >/_ 空白文字は使用不可）。 ［ヘルプ］をクリックすると、詳細説明が表示されます。
個人情報削除	装置内の REMCS で取り扱う個人情報を削除する機能です。チェックを付けると、レジストレーション終了後に個人情報を削除します。DMZ など、セキュリティに十分な注意を払わなければならない環境で運用する場合にはチェックを付けてください。 **注意事項：** ▶ 通信に必要な情報のため、以下の情報は削除されません。これらに設定する値は、個人情報を含まないメールアドレスやアカウント情報を設定するようにしてください。 ・装置 ID ・SMTP サーバ情報 ・メール送信時の認証情報 ・送信元メールアドレス ▶「お客様情報の入力」画面で入力した内容も削除されるため、再度レジストレーションを行う場合は入力し直す必要がありますのでご注意ください。

POINT

- 旧漢字、外字は認識できない場合があります。第 2 水準までの文字が使用可能です。
- JIS2004 の以下の文字は入力しないでください。
  - 第 3 水準文字
  - 第 4 水準文字
  - 4 バイト文字

構成情報の収集が始まります。
装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されますので、手順 5 を実施してください。
ハードウェアから装置識別情報を取得できた場合は、手順 6 に進んでください。

5 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、［OK］をクリックします。

重要

- チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。
- サーバブレードの場合、ブレードシャーシの型名、製造番号、チェックコードを入力してください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

6 ［次へ］をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

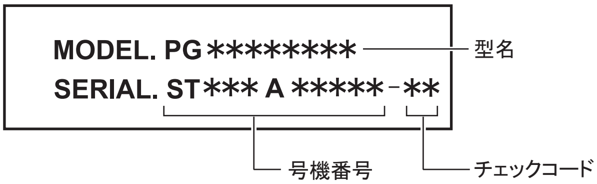
7 サーバの設置場所を入力し、［次へ］をクリックします。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

重要

- 装置 ID の項目に表示されている装置 ID の型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

  ［筐体貼付ラベルの表記］



  装置 ID が一致しない場合は、いったんお客様登録をキャンセルして終了し、「5.2.1 レジストレーション時のトラブルと対処方法」（→ P.118）を参照して対処を行った後、再度お客様登録の処理を行ってください。

8 情報に誤りがないか確認し、［次へ］をクリックします。誤りがある場合は［戻る］をクリックして、修正してください。

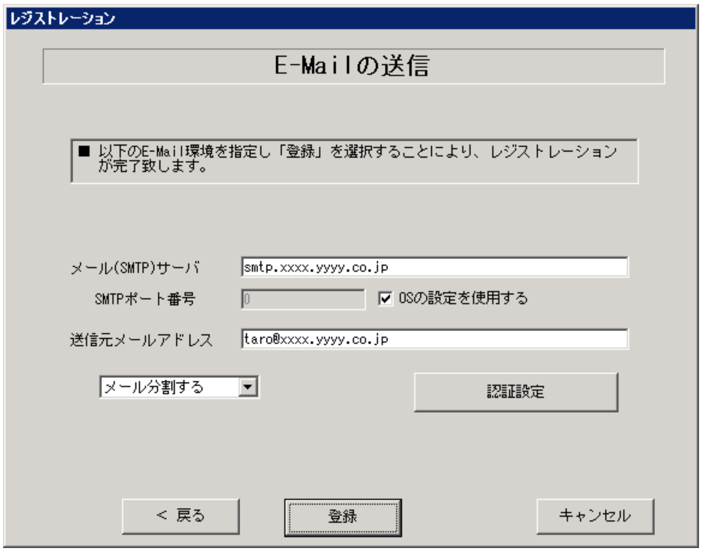
「E-Mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

9 E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、［次へ］をクリックします。

「E-Mail の送信」画面が表示されます。

10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

SMTP サーバの認証設定を使用する場合は［認証設定］をクリックします。

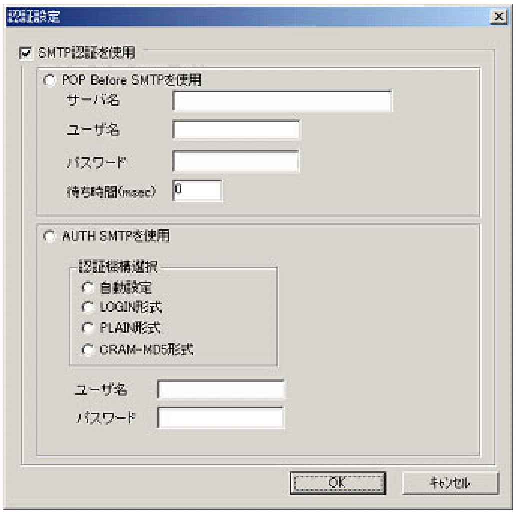


表：E-Mail の送信入力項目

項目	説明	
	インターネット接続（メール）	P-P 接続（VPN: メール） P-P 接続（ISDN: メール）
メール（SMTP）サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（SMTP）をご確認ください。 サブミッションポートに対応している場合は、「1.4.11 サブミッションポートに対応したメールサーバを使用する場合」（→ P.30）を参照してください。	弊社から通知する値を設定してください。
SMTP ポート番号	メールを送信するときに使用するポート番号を指定します。 「OS の設定を使用する」をチェックすると、システムフォルダ配下の ¥drivers¥etc¥services の設定を使用します（通常は 25）。 通常、ご使用になっているメール送受信ソフトの設定項目（SMTP）を確認してください。	
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。	
メール分割設定	メールを送信する際に複数に分けて送信するかどうかを指定します。お客様のメールサーバで分割メールの送信を許可していない場合には、「メール分割しない」を選択してください。 ・メール分割する：メールを送信する際に分割して送信します。（推奨） ・メール分割しない：メールを分割せずに送信します。	

「認証設定」画面

「SMTP 認証を使用」をチェックした後、「POP Before SMTP を使用」または「AUTH SMTP を使用」のどちらかを選択して、必要な情報を入力し、［OK］をクリックします。



表：認証設定入力項目

SMTP 認証方式	項目	説明
POP Before SMTP	サーバ名	POP Before SMTP の認証で使用する、POP サーバを入力してください。
	ユーザ名	POP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。
	待ち時間（msec）	待ち時間を指定します。通常、変更の必要はありません。0msec でうまくいかない場合に、待ち時間を調整してください。
AUTH SMTP	認証機構選択	「LOGIN 形式」、「PLAIN 形式」、「CRAM-MD5 形式」から選択できます。使用する SMTP サーバがサポートしている方式を確認のうえ、使用する認証方式を選択してください。通常は「自動設定」を選択してください。
	ユーザ名	SMTP サーバの認証ユーザ名を入力してください。
	パスワード	認証ユーザ名のパスワードを入力してください。

11　［登録］をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

POINT

- お客様登録完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

重要

- お客様登録の完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。お客様登録の後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でお客様登録は完了です。次に、環境設定を行います。

3.1.2 環境設定

環境設定の手順について説明します。

■ 定期接続の設定例

以下の設定例を参考にしてください。

● 毎週木曜のマシン運用時間中（10:00 ～ 15:00）に定期接続を行う場合

表：設定例

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	週一回
定期接続スケジュール（曜日）	木曜
定期接続スケジュール（時刻）	開始 10:00、終了 15:00

［注 1］：時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

● 毎日（土日以外）のマシン運用時間中（24 時間運用）に定期接続を行う場合

表：設定例

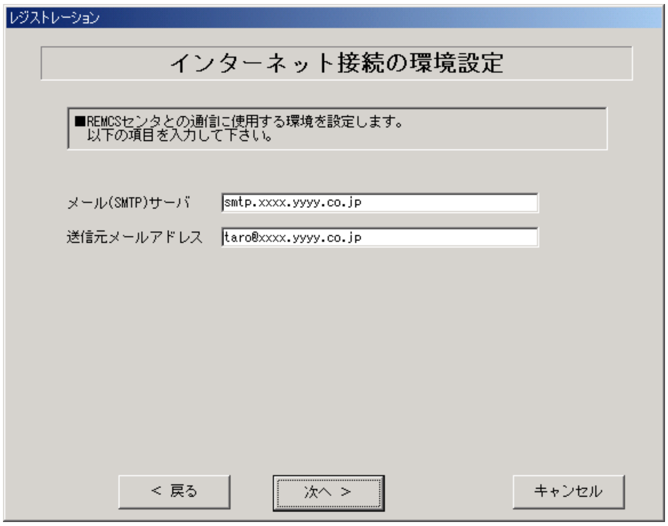
設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	毎日（土日以外）
定期接続スケジュール（曜日）	設定の必要なし
定期接続スケジュール（時刻）	開始 0:00、終了 23:59

［注 1］：時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

■ 設定手順

1 お客様登録完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。
［次へ］をクリックします。

2 インターネット接続の環境設定を行います。



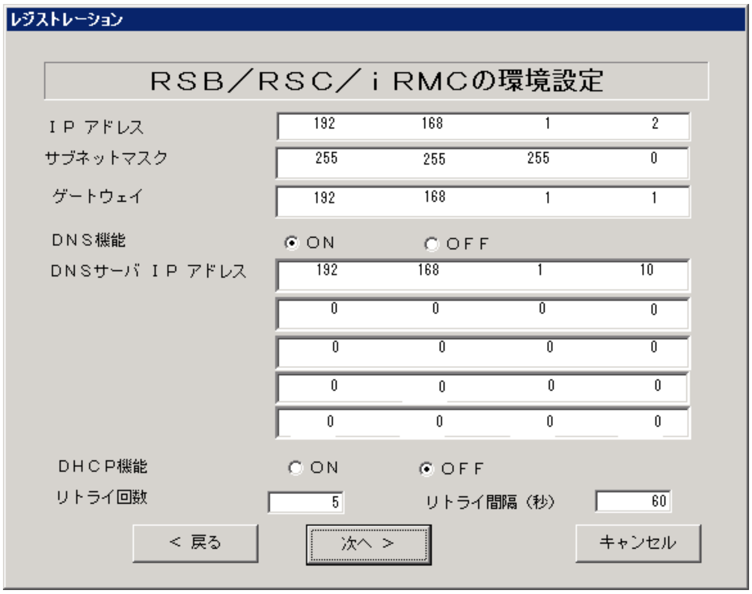
表：インターネット接続の環境設定

項目	説明
メール（SMTP）サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバのFQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（SMTP）をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。 このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。 社外発信資格が必要です。

3 ［次へ］をクリックします。

RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC が搭載されている場合、環境設定の画面が表示されます。

4 項目を入力します。



表：RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC の環境設定項目

項目	説明
IP アドレス	RSB、RSC、iRMC リモート制御機能を使用するために、RSB、RSC、iRMC 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。iRMC の場合には 5 つまで設定できます。

表：RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC の環境設定項目

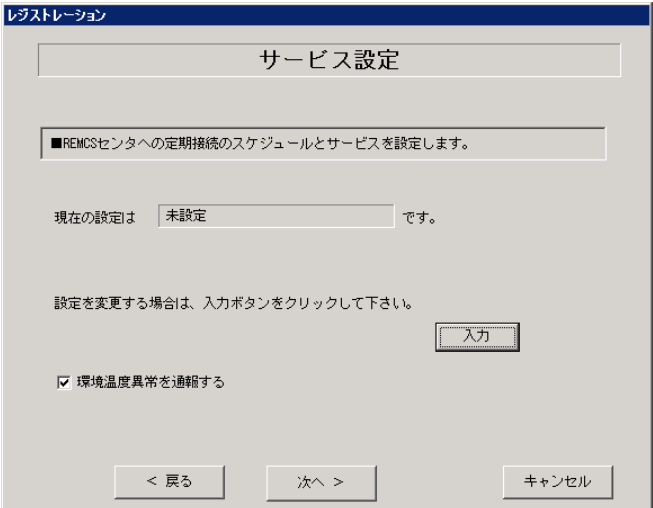
項目	説明
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB、RSC、iRMC の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB、RSC、iRMC が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 ・RSB、RSC の場合 0 ～ 10（単位：回）、初期値 5 回（推奨） ・iRMC の場合 0 ～ 6（単位：回）、初期値 5 回（推奨）
リトライ間隔	RSB、RSC、iRMC が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 ・RSB、RSC の場合 0 ～ 60（単位：秒）、初期値 60 秒（推奨） ・iRMC の場合 0 ～ 254（単位：秒）、初期値 60 秒（推奨）

5 ［次へ］をクリックします。

「サービスの設定」画面が表示されます。

6 サーバの周囲温度が危険／警告温度に達したときの通報有無を選択します。

「環境温度異常を通報する」にチェックを付けると、サーバの周囲温度が危険 / 警告温度に達したときにセンタから管理者宛てに通報されます（初期値は、チェック有）。

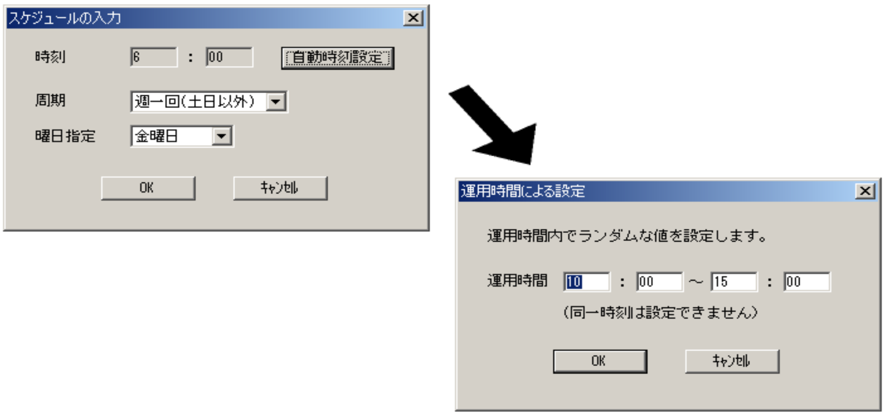


POINT

- サーバを事務所内のデスクの横、あるいはデスク上など、サーバ用に室温調整されていないところに設置している場合は、チェックを外す（通報しない）ことを推奨します。夏場においては、周囲温度が高くなりやすいため、頻繁に警告温度に達して通報される可能性があります。
- ServerView Agent V4.00 以降が必要です。ServerView Agent V4.00 以前の場合には、チェックを外していても環境温度異常は通報されます。
- CPU 温度異常などのシャーシ内部の温度異常については、当設定に関係なく通報されます。

7　［入力］をクリックし、定期接続のスケジュール設定を行います。

スケジュール設定後、［OK］をクリックすると、「サービスの設定」画面に戻ります。



表：定期接続のスケジュール設定入力項目

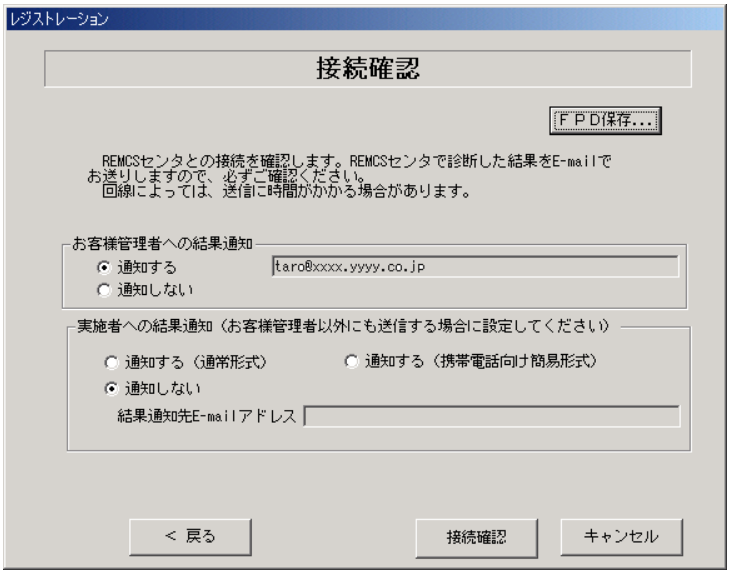
項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ～ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います。「曜日指定」で曜日を指定してください。 週一回（土日以外）：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。「曜日指定」で曜日を指定してください。

8　「サービスの設定」画面で設定を確認し、［次へ］をクリックします。

9　［次へ］をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

10 接続確認結果通知の送信先を設定します。



表：接続確認入力項目

結果通知	項目	説明
お客様管理者への結果通知	通知する	お客様管理者へ接続確認結果を通知します。
	通知しない	お客様管理者へ接続確認結果を通知しません。
実施者への結果通知	通知する（通常形式）	実施者（自分）へ接続確認結果を通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。 後ほど設定した E-mail アドレス宛てに、接続確認完了を通知するメールが届きます。
	通知する（携帯電話向け簡易方式）	実施者（自分）へ接続確認結果を携帯電話で閲覧できる簡易方式で通知します。結果通知先 E-mail アドレスに、E-mail アドレスを設定してください。 後ほど設定した E-mail アドレス宛てに、接続確認完了を通知するメールが届きます。
	通知しない	実施者へ接続確認結果を通知しません。

POINT

- 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にする必要があります。両方とも「通知しない」設定にはできません。
- ［FPD 保存］をクリックすると、入力したお客様情報や環境設定情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報を再度設定する際や、他のサーバのお客様登録設定時に利用できます。REMCS エージェントのバージョンによっては、お客様情報しか保存できない場合があります。
  接続形態ごとに環境設定ファイルが異なります。保存したフロッピーディスクのラベルに接続形態名を記入しておいてください。
- デスクトップ上の［レジストレーション］アイコンは、レジストレーション処理完了後（接続確認まで完了）に、自動的に消去されます。

11 ［接続確認］をクリックして、接続を確認します。

接続確認結果通知の送信先設定に従い、接続確認完了を通知するメールが届きます。

重要

- 接続確認後、お客様情報の入力画面で入力した E-mail アドレス宛てに接続確認が成功したことをお知らせするメールが必ず届きますので、ご確認ください。届かない場合には、弊社 REMCS センタにお客様の接続確認メールが届いていない可能性があります。お客様のネットワーク環境および、お客様登録時に入力された内容をご確認ください。
- 「お客様管理者への結果通知」でアドレスを入力しない状態で「通知する」を選択した場合、お客様管理者には、センタ登録済みのお客様管理者 E-mail アドレス宛てに結果が通知されます。
- 管理者 E-mail アドレス欄にアドレスを入力して接続確認を実施しても、センタに登録されているお客様管理者 E-mail アドレスは更新されません。
- 「3.1.1 お客様登録」（→ P.51）でお客様情報を入力する際に「個人情報削除」の設定を有効にしている場合、お客様管理者 E-mail アドレスは表示されません。

インターネット接続（メール）の場合

RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC 搭載時には、設定確認のためのテストメールを送信できます。［OK］をクリックして、テストメールを送信してください。
なお、テストメール動作は次のとおりです。

表：RSB ／ RSC ／ iRMC のテストメール動作

デバイス	動作説明
iRMC（Firmware Version 3.00 以降）	REMCS センタとの疎通確認です。 センタに接続確認メールを送信して確認します。管理者宛てにセンタから接続確認結果メールが届きます。
RSB RSC iRMC（Firmware Version 3.00 より前）	SMTP サーバとの疎通確認です。 送信元メールアドレス宛てにテストメールを送信して確認します。

POINT

- iRMC の Firmware Version の確認方法は、「3.3.1 SMTP サーバ、AUTH SMTP の設定」（→ P.70）の重要を参照してください。
- iRMC のネットワークを設定していない場合は、テストメール送信メッセージは［キャンセル］をクリックして終了してください。
- テストメールの送信結果は、管理者にメールが届いたかどうかを確認してください。画面メッセージで「完了しました」と表示されても、SMTP サーバの先で転送に失敗するなどの理由により、最終的にメール送信に失敗している場合があります。
- サーバ本体前面の Service LAN ポートを経由して REMCS エージェントの設定を行っている場合、テストメール送信は行えません。［キャンセル］をクリックして終了してください。

P-P 接続（メール）の場合

RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC（Firmware Version 3.00 より前）のテストメール送信は使用できません。テストメール送信メッセージは［キャンセル］をクリックして終了してください。

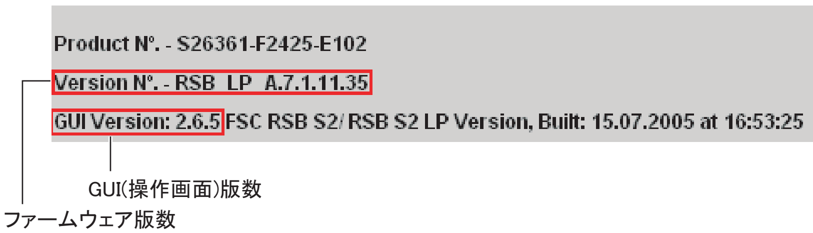
以上でレジストレーション作業は完了です。

3.2 RSB（PG-RSB102 以降）の設定

RSB（PG-RSB102 以降）からセンタに異常通報を行うための設定について説明します。

重要

- 製品の出荷時期、搭載モデルにより、RSB（PG-RSB102 以降）のファームウェア版数が異なります。
- ファームウェア版数により、設定画面および設定手順が異なります。
  RSB（PG-RSB102 以降）のファームウェア版数は、以下の方法で確認できます。
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView S2」（または「Operations Manager」→「Operations Manager」）の順にクリックします。
     ServerView S2 または Operations Manager が起動します。
  2. サーバの機種名を右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」をクリックします。
     サーバのプロパティ画面が表示されます。
  3. ［Remote Service Board］タブをクリックし、［設定］をクリックします。
  4. 「RSB 管理用の URL は SNMP によって自動的に検索されませんでした。デフォルトアドレスを使用しますか？」というメッセージが表示されたら、［OK］をクリックします。
     ブラウザが自動的に開きます。
     このとき、セキュリティの警告が表示される場合がありますが、［はい］をクリックしてください。
     RSB へのログイン画面左下にファームウェア版数が表示されます。



- RSB（PG-RSB102 以降）の設定を Web ブラウザから行うには、Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition をインストールする必要があります。
  必要な Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のバージョンや動作環境などについては、『ServerView ユーザーズガイド 』を参照してください。

3.2.1 ネットワーク設定

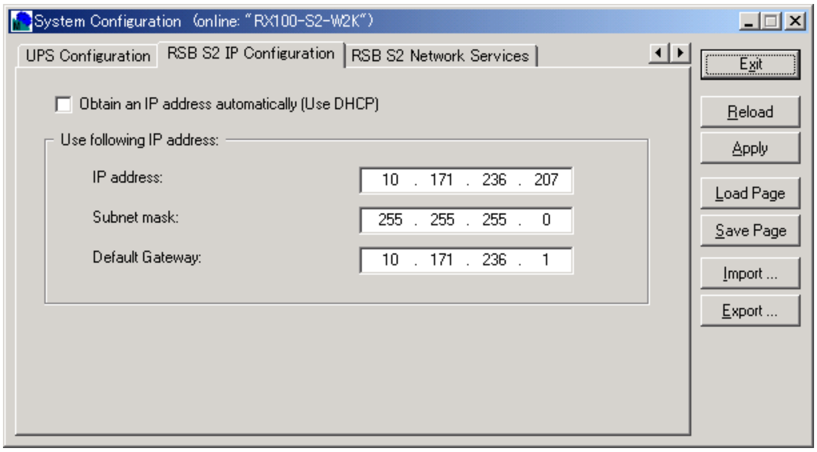
1 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。
System Configuration ウィンドウが表示されます。サーバの機種名が正しいことを確認してください。

3 「Change system selection manually」チェックボックス、「Remote Service Board(RSB S2)installed」チェックボックスにチェックを付けて［OK］をクリックします。

4 右上のスクロールバーによりタブをスクロールして、［RSB S2 IP Configuration］タブを選択します。

5 「Obtain an IP address automatically{Use DHCP}」チェックボックスのチェックを外し、リモートサービスボードの「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を入力します。



6 ［Apply］をクリックして、設定を保存します。

7 ［Exit］をクリックして設定画面を終了します。

3.2.2 アラート通報設定

ServerView を起動し、以下の設定を行ってください。

重要

- AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境では RSB からのアラート通報は利用できません。
- RSB（PG-RSB102 以降）のアラート通報設定の実施後、RSB（PG-RSB102 以降）から送信されるメールはすべてアラート通報用のフォーマット（REMCS Mail Format）になります。
- Java または Java Script を使用します。Java または Java Script を有効にしてください。
- ポップアップブロック機能を有効にしている場合は画面が表示されません。ポップアップブロック機能は無効に設定してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックします。

ServerView が起動します。

2 サーバの機種名を右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」を選択します。

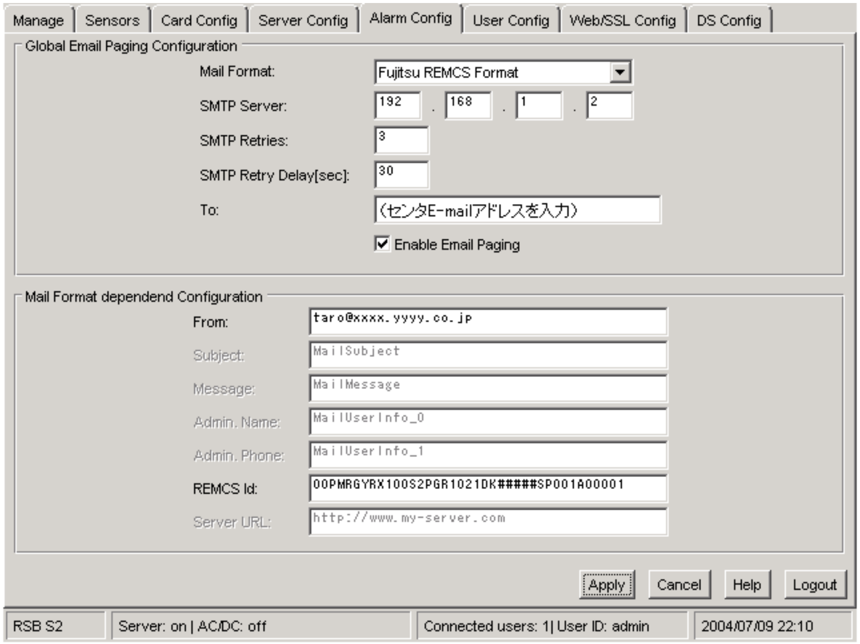
サーバのプロパティ画面が表示されます。

3 ［Remote Service Board］タブをクリックします。

4 ［設定］をクリックします。

5 「User ID」に「admin」、Password にパスワード（初期値は「admin」）を入力して［Login］をクリックします。

6　［Alarm Config］タブをクリックします。



7　「Mail Format」に「Fujitsu REMCS Format」を選択し、「SMTP Server」、「To」、「From」を入力します。

8　「SMTP Server」には SMTP サーバの IP アドレス、「To」にはセンタ E-Mail アドレス、「From」には送信元 E-Mail アドレスを入力します。

POINT

各設定値の確認方法

- 次の方法で確認してください。
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作メニュー」の順にクリックして、運用操作メニューを起動します。
  2. ［環境設定］をクリックします。
  3. ［E-mail］タブをクリックします。
     設定値が表示されます。

ファームウェア版数が RSB_LP_A.7.11.35（GUI 版数 2.6.5）以降の場合

- SMTP Server の名前（FQDN）を直接指定することができます。ただし、サーバ名を直接指定するには、DNS サーバが設定されている必要があります。DNS サーバの設定は、［Card Config］タブの［Network Setting］をクリックして、IP アドレスなど必要な項目を設定してください。

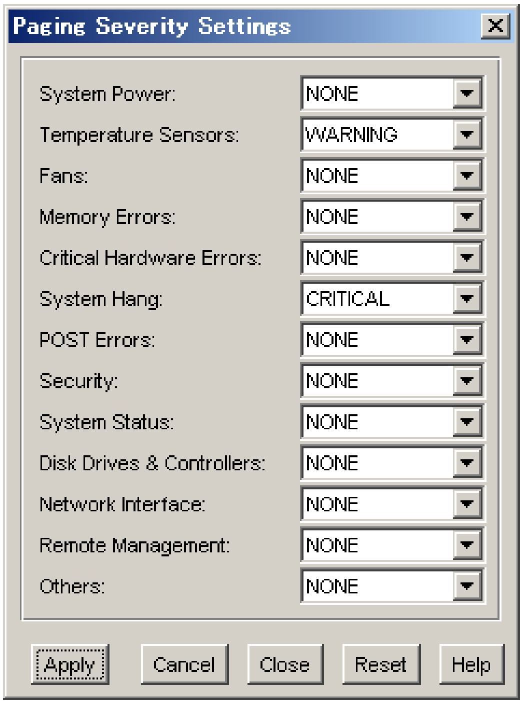
9　「Enable Email Paging」のチェックボックスにチェックを付けます。

10　［Apply］をクリックして設定を保存します。

11　「REMCS id」に装置 ID が表示されていることを確認します。

12　［Card Config］タブをクリックします。

13 ［Paging Severity Settings…］をクリックし、項目の設定を確認します。



「Temperature Sensors」、「System Hang」項目が、「ALL」、「CRITICAL」、「WARNING」のいずれかに設定されていることを確認します。設定されていない場合は、「CRITICAL」に設定してください。また、それ以外の項目はすべて「NONE」に設定してください。

14 ［Apply］をクリックします。

設定を変更していない場合は、［Close］をクリックしてください。

15 ［Card Config］タブの［Reboot RSB S2］をクリックします。

16 「Do you want to reboot the RSB S2?」と確認のダイアログが表示されるので、「OK」をクリックします。

RSB（PG-RSB102 以降）が再起動した後、テストメールを送信して、SMTP サーバへの接続を確認できます。テストメール送信を行う場合は、続けて「■ テストメール送信」（→ P.69）を行ってください。

テストメール送信を行わない場合は、［Close］をクリックして終了します。

■ テストメール送信

テストメール送信により、SMTP サーバまでの経路確認を行うことができます。ただし、実施できる環境が限られます。実施できる環境の場合のみ行ってください。

重要

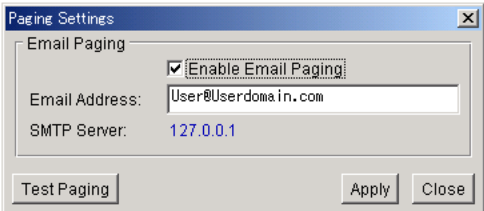
- P-P 接続環境では、テストメール送信は利用できません。
- テストメール送信の手順は、RSB（PG-RSB102 以降）のファームウェア版数により異なります。

1 「User ID」に「admin」、「Password」にパスワード（初期値は「admin」）を入力して［Login］をクリックします。

2 ［User Config］タブをクリックします。

3 「Email Address」に表示されているアドレス（センタ Email アドレス）をメモ帳などにいったん控え、テストメールを送信する Email アドレス（管理者 Email アドレスなど）を入力して、［Apply］をクリックします。

ファームウェア版数が RSB_LP_A.7.1.11.35（GUI 版数 2.6.5）以前の場合は、上記操作後［Paging Settings］をクリックしてください。以下の画面が表示されます。



4 ［Test Paging］をクリックします。

5 「Message Text」に「TEST」と入力して、［Apply］をクリックします。

「Paging call scheduled!」メッセージが表示され、テストメールが送信されます。
ファームウェア版数が RSB_LP_A.7.1.11.35（GUI 版数 2.6.5）以前の場合は、［Close］をクリックします。

6 「EMail Address」に、手順 3 で控えたアドレスを入力し、［Apply］をクリックします。

7 ［Logout］をクリックして終了します。

3.3 iRMC の設定

iRMC の設定について説明します。

POINT

SMTP のポート番号として 25 を使う場合

- SMTP のポート番号として 25 を使う場合は、プログラム（REMCS エージェント）は iRMC の以下の場所に設定を書き込みます。
  - ・Email → Primary SMTP Server Configuration
    SMTP Server, SMTP Port
  - ・User Management → admin(ID=2)
    Mail Format, Prefered Mail Server, Email Address, Paging Severity Configuration

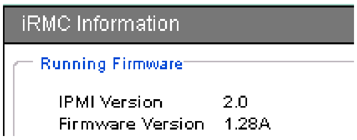
3.3.1 SMTP サーバ、AUTH SMTP の設定

SMTP のポート番号として 25 以外を使用したい場合、AUTH SMTP 認証に対応した SMTP サーバを使用したい場合の手順です。サブミッションポートに対応したメールサーバを使用する場合にも本設定を実施する必要があります。ただし、AUTH SMTP 認証を利用できる環境には条件がありますので、環境を確認したうえで実行してください。

重要

AUTH SMTP 認証を利用できる環境

- AUTH SMTP 認証は、iRMC Information の Firmware Version が 1.28A 以降 のときに使用できます。下記手順 1、2 でログインした後、左メニューの［iRMC Information］をクリックして確認してください。



1 Web ブラウザを起動し、Web ブラウザのアドレス欄に以下のように入力して【Enter】キーを押します。

http を利用する場合

http:// ＜ iRMC に設定した IP アドレス＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 80）＞

https を利用する場合

https:// ＜ iRMC に設定した IP アドレス＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 443）＞

「ネットワークパスワード」画面が表示されます。

2 ユーザ名とパスワード（初期値は共に「admin」に設定されています）を入力し、［OK］をクリックします。

「System Information」画面が表示されます。

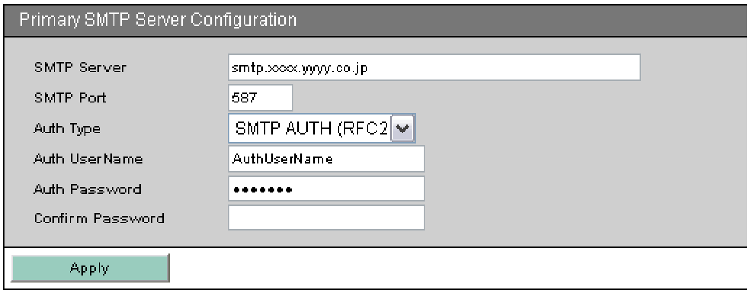
3 左メニューの［Email］をクリックします。

「Email」画面が表示されます。

4 「Primary SMTP Server Configuration」に、iRMC からのメール送信で使用する SMTP サーバとポート番号を入力します。

AUTH SMTP 認証を使用する場合は、「SMTP AUTH（RFC2554）」を選択して、［Apply］をクリックします。

Auth UserName、Auth Password 、Confirm Password 欄が表示されますので、それらの情報を入力した後、再度［Apply］をクリックします。



表：Primary SMTP Server Configuration の設定項目

入力項目	説明
SMTP Server	SMTP サーバを入力してください。
SMTP Port	SMTP で使用するポート番号を入力してください。
Auth Type	AUTH SMTP を使用するときは「SMTP AUTH（RFC2554）」に設定して［Apply］をクリックしてください。
Auth Username	（Auth Type が「SMTP AUTH（RFC2554）」のときのみ表示） SMTP サーバの AUTH SMTP の認証ユーザ名を入力してください。
Auth Password	（Auth Type が「SMTP AUTH（RFC2554）」のときのみ表示） 認証ユーザ名のパスワードを入力してください。
Confirm Password	（Auth Type が「SMTP AUTH（RFC2554）」のときのみ表示） 認証ユーザ名のパスワードをもう一度入力してください。

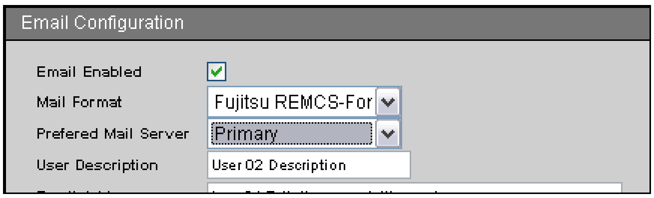
5 左メニューの［User Management］をクリックします。

「User Management」画面が表示されます。

6 ［admin］をクリックします。

「User "admin (2)" Configuration」画面が表示されます。

7 「Email Configuration」の「Prefered Mail Server」を「Primary」に変更して、［Apply］をクリックします。



設定後、テストメールを送信して、SMTP サーバへの接続を確認できます。テストメール送信を行う場合は、続けて「3.3.2 テストメール送信」（→ P.72）を行ってください。テストメール送信を行わない場合は、Web ブラウザを閉じて終了します。

3.3.2 テストメール送信

SMTP ポート番号の変更や AUTH SMTP 認証の設定を実施した場合は、以下の手順で正しく設定が行われているかどうか確認してください。
ただし、テストメール送信できる環境には条件がありますので、環境を確認したうえで実行してください。

重要

テストメール送信を実行できる環境

- iRMC の Firmware Version が 3.00 より前のバージョンの場合、P-P 接続環境では、テストメール送信は利用できません。
- Java または JavaScript を使用します。Java または JavaScript を有効にしてください。
- ポップアップブロック機能を有効にしていると、画面が表示されません。ポップアップブロック機能は無効に設定してください。

1 左メニューの［User Management］をクリックします。

「User Management」画面が表示されます。

2 ［admin］をクリックします。

「User "admin (2)" Configuration」画面が表示されます。

3 「Email Configuration」の「Email Address」欄に表示されているアドレス（センタ Email アドレス）をメモ帳などにいったん控え、テストメールを送信する Email アドレス（管理者 Email アドレスなど）を入力して、［Apply］をクリックします。

4 ［Test］をクリックします。

テストメールが送信されます。受信端末側で、テストメールが受信できたことを確認してください。

5 「Email Address」欄に、手順 3 で控えたアドレスを入力し、［Apply］をクリックします。

6 Web ブラウザを閉じます。

3.4 サーバダウン監視の設定

RSB、RSC、iRMC を搭載している場合、サーバダウン監視機能を設定します。

■ サーバダウン監視を有効にする場合

1 以下のファイルを実行します。

Windows Server 2008 ／ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server
［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥Remcs¥rsb_watchdog_enable.exe
Windows Server 2008 (64-bit) ／ Windows Server 2003 x64
［システムドライブ］:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥Remcs¥rsb_watchdog_enable.exe

サーバダウン監視を有効にするプログラムが起動します。
正常に設定された場合は、RSB サーバダウン監視設定完了メッセージが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。

サーバダウン監視が有効になります。

■ サーバダウン監視を無効にする場合

1 以下のファイルを実行します。

Windows Server 2008 ／ Windows Server 2003 ／ Windows 2000 Server
［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥Remcs¥rsb_watchdog_disable.exe
Windows Server 2008 (64-bit) ／ Windows Server 2003 x64
［システムドライブ］:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥Remcs¥rsb_watchdog_disable.exe

サーバダウン監視を無効にするプログラムが起動します。
正常に設定された場合は、RSB サーバダウン監視設定の無効完了メッセージが表示されます。

2 ［OK］をクリックします。

サーバダウン監視が無効になります。

■ 設定の確認

正常に設定されているかどうかの確認は、ServerView Console を使用して行えます。
ServerView Console を起動し、サーバ上で右クリックして「ASR のプロパティ」を選択します。［ウォッチドッグ設定］タブを選択して確認します。
初期設定では、サーバ（ServerView）から RSB へ 3 分間応答がなかった場合に、サーバダウンと認識されます。また、サーバダウンが発生しても、リブートせずに継続稼動するように設定されています。設定の変更は ServerView で行います。確認方法、および設定変更など、詳細については、『ServerView ユーザーズガイド』の「 第 3 章 ServerView の使用方法」を参照してください。

3.5 POST 監視／ OS ブート監視の設定

POST 監視機能、OS ブート監視機能を設定します。
なお、POST 監視機能、OS ブート監視機能は、お使いの機種によっては対応していない場合があります。対応の有無については、サーバに添付のマニュアルを参照してください。

3.5.1 一般サーバの場合

POST 監視機能は、標準で有効に設定されているため、設定を行う必要はありません。OS ブート監視機能については、『ServerView ユーザーズガイド』の「異常発生時の対処（ASR）」に記載の「起動監視」を参照して、機能を有効に設定してください。

重要

- 待ち時間を超過した場合の対応については、「継続稼動する」の設定を推奨します。OS ブート監視は、基本的に POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの時間を監視することにより、OS の起動を監視します。待ち時間（タイムアウト時間）の設定が不適切な場合には、サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。機能を設定する際には、『ServerView ユーザーズガイド』を参照して、機能の仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

3.5.2 ブレードサーバの場合

POST 監視機能は、標準で有効に設定されているため、設定を行う必要はありません。OS ブート監視機能については、ブレードサーバの『ハードウェアガイド マネジメントブレード編』の「Web UI」にある「Server Blade グループ」の項目（Boot Watchdog）、または『ServerView ユーザーズガイド』の「異常発生時の対処（ASR）」に記載の「起動監視」を参照して、機能を有効に設定してください。

重要

- 待ち時間を超過した場合の対応については、「継続稼動する」の設定を推奨します。OS ブート監視は、基本的に POST が終了してから ServerView エージェントが起動するまでの時間を監視することにより、OS の起動を監視します。待ち時間（タイムアウト時間）の設定が不適切な場合には、サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をするおそれがあります。機能を設定する際には、『ServerView ユーザーズガイド』を参照して、機能の仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

3.6 レジストレーション後の設定変更

レジストレーション後に、設定内容を変更する方法について説明します。

3.6.1 お客様登録の変更

お客様登録時に登録した情報を更新します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

2 ［レジストレーション］をクリックします。

「接続形態選択」画面が表示されます。

3 ［次へ］をクリックします。

「レジストレーション」画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックします。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

5 「ご登録の種別」は「更新」を選択し、変更の必要な情報を修正します。

6 ［次へ］をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

7 以降、ご利用の接続形態の場合を参考に、接続確認まで操作してください。

→「3.1 レジストレーション」（P.50）

情報の更新の完了は、後ほどセンタから管理者宛てに E-mail で通知されます。

POINT

- 続けてセンタ接続形態の変更、環境設定の変更も行うことができます。

3.6.2 環境設定の変更

環境の変更により、メールサーバ・Proxy サーバなどを変更した場合は、以下の手順に従って環境設定の変更を行ってください。接続形態にかかわらず、操作は共通です。インターネット接続（メール）の場合は、一部変更できない項目があります。

■ REMCS 環境設定画面の表示

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

2 ［環境設定］をクリックします。

「REMCS 環境設定」画面が表示されます。

3 各タブをクリックし、設定を行います。

各タブでの操作は、以下を参照してください。

→「■ 定期接続時刻の変更」（P.76）
→「■ 環境温度異常の通報設定の変更」（P.77）
→「■ E-mail 設定の変更」（P.77）
→「■ RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC 設定の変更」（P.77）
→「■ OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更」（P.78）
→「■ メール分割設定の設定変更」（P.79）

■ 定期接続時刻の変更

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［サービス］タブをクリックします。

3 ［設定］をクリックします。

「定期接続設定スケジュール」画面が表示されます。

4 スケジュールを変更し、［OK］をクリックします。

次回接続時間が表示されます。

5 ［OK］をクリックします。

「REMCS 環境設定」画面に戻ります。

6 ［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

7 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

■ 環境温度異常の通報設定の変更

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［サービス］タブをクリックします。

3 環境温度異常の通報設定を変更し、［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

■ E-mail 設定の変更

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［E-Mail］タブをクリックします。

3 E-mail 環境の設定を変更し、［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか「接続確認」を実施して確認してください。

■ RSB（PG-RSB101）、RSC、iRMC 設定の変更

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［RSB ／ RSC ／ iRMC］タブをクリックし、RSB（PG-RSB101 ／ RSC ／ iRMC）の設定を変更します。

3 ［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。

5 RSB ／ RSC の環境設定を確認するため、「REMCS 環境設定」画面を再度開いて、［RSB ／ RSC ／ iRMC］タブをクリックし、［テストメール送信］をクリックします。

正しく設定が行われている場合は、結果メッセージが表示されます。

重要

- iRMC の Firmware Version が 3.00 未満の場合、P-P 接続環境では、テストメール送信は利用できません。

■ OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更

お客様のサーバから REMCS センタにメールで送信している通知情報を、OS イベントログ上で確認できます。

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［基本設定］タブをクリックします。

「基本設定」画面が表示されます。

3 イベントログへの通知情報出力レベルを変更し、［OK］をクリックします。

表：イベントログの出力レベル

出力レベル	説明
出力しない（初期値）	OS イベントログに通知情報を出力しません。
異常系の通知のみ出力	異常系イベント（アラート通報）のメール通知情報を OS イベントログに出力します。
異常系以外の通知を出力	異常系イベント以外（接続確認など）のメール通知情報を出力します。
すべての通知を出力	OS イベントログにすべてのイベントの通知情報を出力します。

4 ［OK］をクリックします。

「REMCS 環境設定」画面に戻ります。

5 ［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

■ メール分割設定の設定変更

1 「REMCS 環境設定」画面を表示します。

→「■ REMCS 環境設定画面の表示」（P.76）

2 ［E-Mail］タブをクリックします。

「E-Mail 設定」画面が表示されます。

3 メール分割設定を変更し、［OK］をクリックします。

4 ［OK］をクリックします。

「REMCS 環境設定」画面に戻ります。

5 ［OK］をクリックします。

設定確認メッセージが表示されます。

6 ［OK］をクリックします。

設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

3.7 REMCS センタとの接続停止／再開

サーバと REMCS センタの接続を停止します。

重要

- サーバを長時間停止する場合（例えば、年末年始など）や、システムのメンテナンス（メールサーバやネットワークのメンテナンスを含む）を実施する場合など、定期接続ができないときに REMCS センタとの接続を停止してください。
- REMCS センタとの接続を停止した後、システムの運用を再開したときには、必ず「センタ接続再開」を行ってください。

3.7.1 REMCS センタとの接続を停止する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を停止します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

2 ［センタ接続停止］をクリックします。

確認画面が表示されます。

3 ［OK］をクリックします。

運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続停止中」になります。

重要

- センタ接続停止中は、REMCS センタとの接続処理を一切行いません。また、［環境設定］、［センタ接続再開］と［センタ接続停止］以外は選択できなくなります。
- 停止していた間のイベントは、REMCS センタに通知されません。

3.7.2 REMCS センタとの接続を再開する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を再開します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

2 ［センタ接続再開］をクリックします。

確認画面が表示されます。

3 ［OK］をクリックします。

運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続中」になります。

3.8　構成情報送信

サーバおよびサーバに搭載・接続されているハードウェアと、サーバにインストールされているソフトウェアの構成情報を REMCS センタに送信します。

POINT

- 構成情報は、定期接続時に自動的に送信されます。この操作は、定期接続時間前に構成情報を送る必要がある場合に使用します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

2 ［構成情報］をクリックします。

「構成情報」画面が表示されます。

3 ［OK］をクリックします。

REMCS センタに、新しい構成情報が送信されます。
正常に送信できた場合は、正常完了メッセージが表示されます。

3.9 接続確認

REMCS センタと正常に接続できることを確認します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

2 ［接続確認］をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

3 接続確認結果通知の送信先を設定して、［OK］をクリックします。

実施者（自分）への結果通知を行う場合は、「通知する（通常形式)」、または「通知する（携帯電話向け簡易方式)」を選択して、結果通知先 E-mail アドレスに E-mail アドレスを入力してください。しばらくすると、設定した E-mail アドレス宛てに接続確認完了を通知するメールが届きます。

POINT

- 結果通知は、お客様管理者か実施者の少なくとも一方には「通知する」設定にしてください。両方とも「通知しない」設定にはできません。

重要

- 「お客様管理者への結果通知」でアドレスを入力しない状態で「通知する」を選択した場合、お客様管理者には、センタ登録済みのお客様管理者 E-mail アドレス宛てに結果が通知されます。
- 管理者 E-mail アドレス欄にアドレスを入力して接続確認を実施しても、センタに登録されているお客様管理者 E-mail アドレスは更新されません。
- 「3.1.1 お客様登録」（→ P.51）でお客様情報を入力する際に「個人情報削除」の設定を有効にしている場合、お客様管理者 E-mail アドレスは表示されません。

第 4 章

障害発生時の対応

この章では、障害発生時の対処方法について説明しています。装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。

4.1 通知される主な障害 84
4.2 保守作業の開始／終了 85
4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信 87
4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信 . 100
4.5 調査資料の管理 102
4.6 SIRMS の環境設定 107

4.1 通知される主な障害

装置に異常が発生した場合、センタに異常を通知します。センタで通知を受け取った後、サポート要員がただちに対応を開始します。
通知される主な障害は、以下の表のようなものがあります。サーバの機種や I/O 装置の機種によって、サポートしている項目／通知障害の種類は変わります。

■ サーバ本体

表：サーバ本体の障害

項目	通知障害
システムファン プロセッサファン	・ファンが故障したとき ・ファンの回転数が低下したとき
メモリ	・メモリが故障したとき（マルチビットエラー）
温度	・シャーシ内の温度が危険温度に達したとき
電圧	・電源ユニットの電圧が危険電圧に達したとき
電源ユニット	・電源ユニットが故障したとき ・電源ユニットのファンが故障したとき
その他	・サーバがダウンしたとき ・POST、OS 起動中にエラーなどで停止したとき **注意事項：** ▶ 本通報を行うには RSB、RSC、iRMC が搭載されており、監視機能が正しく設定されている必要があります。

■ I/O 装置

表：I/O 装置の障害

項目	通知障害
ハードディスク	・ハードディスクが故障したとき
RAID	・RAID を構成するハードディスクが故障して、RAID の状態が危険状態になったとき

■ 資源監視

表：資源監視の障害

項目	通知障害
イベントログ	・イベントログが破損したとき ・イベントログの空き容量が少なくなったとき（上書き設定にしていない場合）

4.2　保守作業の開始／終了

保守作業を行う場合は、センタに保守作業中であることを通知し、「保守作業中」状態にします。

重要

- 「保守作業中」状態のときは、センタへの障害の通知を抑止します。抑止された通知は、保守作業終了後に再通知されることはありません。保守作業終了後に、再度エラーイベントがイベントログに格納された場合は通報されます。

4.2.1　保守作業開始の通知

保守作業を開始することをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

2 ［保守作業開始］をクリックします。

3 確認ダイアログが表示されますので、［OK］をクリックします。

運用操作メニューの保守作業ステータスが「保守作業中」になります。

4.2.2 保守作業終了の通知

保守作業を終了したことをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します（以下はシステムドライブが「C:」の場合）。
  ・Windows Server 2008

```
cd "C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

  ・Windows Server 2008 (64-bit)

```
cd "C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥F5ep00evan"
f5epgui.exe
```

2 ［保守作業終了］をクリックします。

3 確認ダイアログが表示されますので、［OK］をクリックします。

運用操作メニューの保守作業ステータスが「運用中」になります。

POINT

- 保守作業によって構成情報に変更があった場合は、自動的に新しい構成情報がセンタに転送されます。

4.3 ソフトウェア調査資料の収集・送信

ソフト障害発生時には、ソフトウェアの詳細な調査資料を REMCS センタに送信する必要があります。以下の操作を行って、サーバにインストールされているソフトウェアの調査情報を収集してください。

■ 調査資料収集ツール

ソフトウェア障害発生時の調査資料収集には、SIRMS と QSS 収集ツールが用意されています。

● SIRMS

SIRMS はソフトウェア障害発生時の調査資料収集／資料管理／送信をするツールです。
SIRMS のメニュー経由で QSS 収集ツールを呼び出し、資料収集を行います。
サポート要員から特に指示がない場合は、SIRMS を使って資料収集を行ってください。

● QSS 収集ツール

QSS 収集ツールは、サポート要員からの指示があったときに使用します。SIRMS が存在しない場合でも、QSS 収集ツール単体で使用できます。

重要

- SIRMS バージョン 4.x.x.x は CUI の操作画面となっています。
- SIRMS にて調査資料を行うには、収集結果最大サイズ（初期値：300MB）、ディスク空き領域（初期値：100MB）、その他（5MB）の約 405MB の空き領域が必要です。
- 調査資料の収集を行う前に、サーバの CPU 使用率が 100% になっていないことを確認してください。
  CPU 使用率が 100% の状態で、調査資料の収集を行わないでください。
  通常より CPU 使用率が高い状態で調査資料の収集を実施して失敗した場合は、CPU 使用率が通常の状態に戻ってから、再度、調査資料の収集を行ってください。
- お客様の設定により、メール送信できるファイルのサイズを制限している場合、ソフトウェア調査資料を REMCS センタに送信できない場合があります。制限サイズを確認し、送信するファイルサイズの最大値（初期値：2000KB）を変更してください。

■ 調査資料収集ツールの機能

調査資料収集ツールでは、以下の機能を使用します。

- 調査資料を一括収集・送信
  簡単な操作で、すべての有効な QSS 収集ツールから複数の資料を収集します。
  操作は簡単ですが、収集時間がかかり、収集する資料の量も多くなります。
- 調査資料を個別収集・送信
  有効な QSS 収集ツールを個別に選択して資料を収集します。
- QSS 収集ツールの一覧表示
  QSS 収集ツールの有効／無効を一覧で表示します。
- 任意のファイルを収集・送信
  任意のファイルを指定して収集します。

4.3.1 SIRMS を起動する

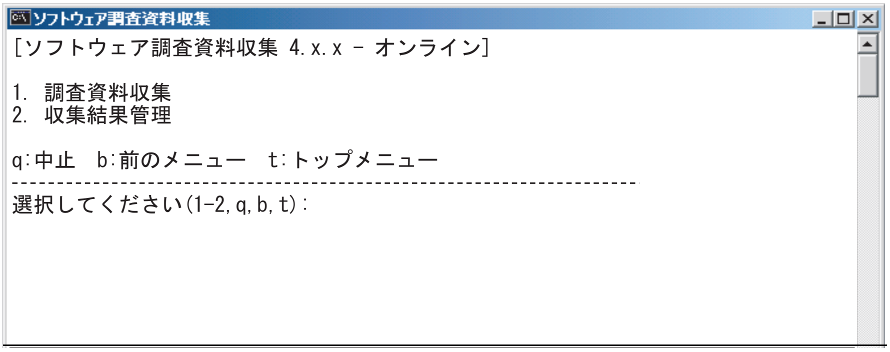
1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

2 ［資料収集・送付］をクリックします。

コマンドプロンプト画面が表示され、SIRMS が起動し、バージョンと接続状態、メニューが表示されます。

POINT

- 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「REMCS SIRMS」→「ソフトウェア調査資料収集」の順にクリックした場合も SIRMS を起動できます。



● 接続状態について

接続状態は、以下の状態により、「オンライン」か「オフライン」かで表示されます。

表：接続状態

接続状態	レジストレーション	サーバ運用状態
オンライン	済	運用中
		保守中
オフライン	未	－
	済	接続停止中

- 接続状態は SIRMS 起動時に環境（レジストレーション、サーバ運用状態）から判断します。
- オンライン時のみ調査資料を送信することができます。
- サーバ運用状態については「3.7 REMCS センタとの接続停止／再開」（→ P.80）、「4.2 保守作業の開始／終了」（→ P.85）を参照してください。

4.3.2 調査資料を一括収集・送信する

POINT

- 調査資料の一括収集・一括送信は、収集対象のソフトウェアの数（起動する QSS 収集ツールの数）が多い場合には、収集時間が数分〜数十分かかる場合があります。また、収集した情報量（データサイズ）が大きい場合には送信時のサイズ制限により、送信できない場合があります。その場合には、「4.6.1 ユーザー設定管理」（→ P.108）を参照のうえ、送信ファイル最大サイズを大きくしてください。

1 SIRMS を起動します。

2 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止　b:前のメニュー　t:トップメニュー
------------------------------------------------------------
選択してください(1-4,q,b,t):
```

3 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールが自動で検索され、最新の有効な QSS 収集ツールの調査資料名・実行数が表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止　b:前のメニュー　t:トップメニュー
------------------------------------------------------------
選択してください(1-4,q,b,t): 1
収集ツール検索中...
 1: Windows OS (イベントログ、NT診断情報)
 2: Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 3: Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L20～
 4: REMCS Agent
 5: WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1
収集ツール一括実行数: 5
収集ツールを一括実行しますか(y,n):
```

POINT

- 一括収集、個別収集、一覧表示時に、QSS 収集ツール検索が行われます。この処理は、ソフトウェアに対応する QSS を判断するため時間がかかります。ただし、一度検索が行われた後は、ソフトウェア、QSS に変更がない限り検索時間は短縮されます。
  QSS 収集ツール検索の条件は、次のとおりです。
  ・SIRMS 初起動時
  ・ソフトウェアのインストール、アップデート、アンインストール時
  ・QSS プールに QSS を追加または削除したとき

4 調査資料名と実行数を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

収集しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールにて調査資料の収集が開始されます。

収集処理が終わると、調査資料収集の結果が表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
収集ツール検索中...
 1:Windows OS (イベントログ、NT診断情報)
 2:Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L2
 4:REMCS Agent
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1
収集ツール一括実行数: 5
収集ツールを一括実行しますか(y,n):y
 1:Windows OS (イベントログ、NT診断情報)を収集中...
 1.収集結果[Success]
 2:Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料
 2.収集結果[Success]
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L2
 3.収集結果[Success]
 4:REMCS Agentを収集中...
 4.収集結果[Success]
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1を収集中...
 5.収集結果[Success]
収集ツールを一括実行しました

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):
```

表：収集結果

出力	結果	内容	次処理
Success	収集成功	収集に成功	実行対象があれば収集処理は続行
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生	実行対象があれば収集処理は続行

5 インシデント番号を入力し、【Enter】キーを押します。

サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数＋ハイフン）を入力してください。

インシデント番号を確認するメッセージが表示されます。

6　インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。

```
ソフトウェア調査資料収集
 2:Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L2
 4:REMCS Agent
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1
収集ツール一括実行数: 5
収集ツールを一括実行しますか(y,n):y
 1:Windows OS (イベントログ、NT診断情報)を収集中...
 1.収集結果[Success]
 2:Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料
 2.収集結果[Success]
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L2
 3.収集結果[Success]
 4:REMCS Agentを収集中...
 4.収集結果[Success]
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1を収集中...
 5.収集結果[Success]
収集ツールを一括実行しました

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):INC001
INC001でよろしいですか(y,n):y
調査資料を送信しますか(y,n):
```

7　REMCS センタへ送信する場合は、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

POINT

- 送信しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。
- 接続状態が「オンライン」の場合のみ REMCS センタへの送信が行えます。接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

調査資料送信の結果が表示されたら一括収集処理は完了です。
送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	送信結果	内容	処理
Success	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行

8　【Enter】キーを押します。

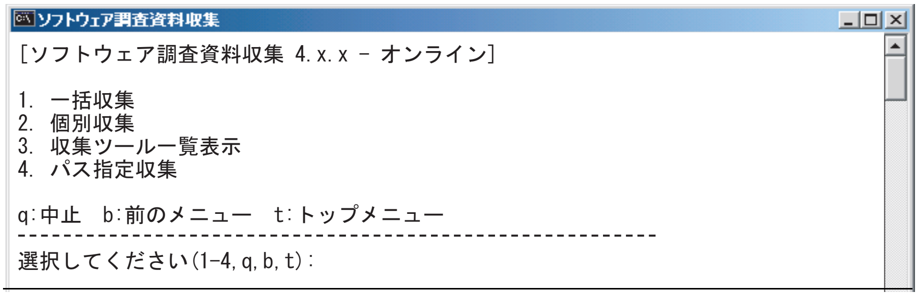
調査資料収集のメニューに戻ります。

4.3.3 調査資料を個別収集・送信する

1 SIRMS を起動します。

2 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。



3 【2】キーを押し、【Enter】キーを押します。

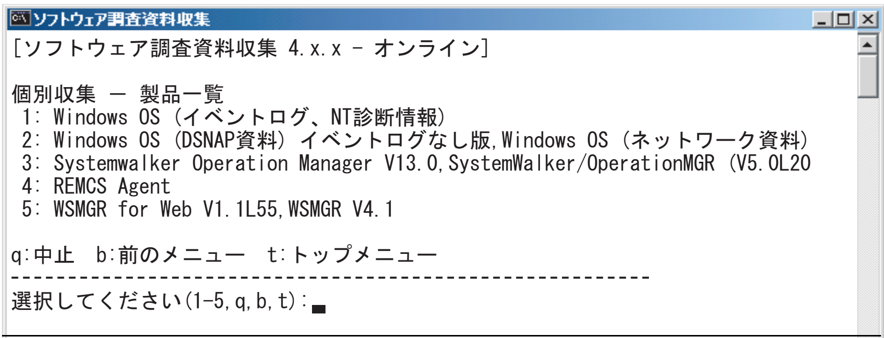
有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。

検索された QSS 収集ツールの調査資料名一覧が表示されます。

10 個以上存在する場合は次のページに表示されます。

4 実行する QSS 収集ツールの番号を入力し、【Enter】キーを押します。

選択した QSS 収集ツールの調査資料名が表示されます。



5 実行する QSS 収集ツールを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

選択した QSS 収集ツールにて調査資料の収集が開始されます。

収集処理が終わると、調査資料収集の結果が表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

個別収集 ― 製品一覧
 1: Windows OS (イベントログ、NT診断情報)
 2: Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 3: Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L20
 4: REMCS Agent
 5: WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1

q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
-----------------------------------------------------------
選択してください(1-5,q,b,t):4
選択資料:
 4: REMCS Agent
収集ツールを個別実行しますか(y,n):y
 1: REMCS Agentを収集中...
 1: 収集結果[Success]
収集ツールを個別実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):
```

表：収集結果

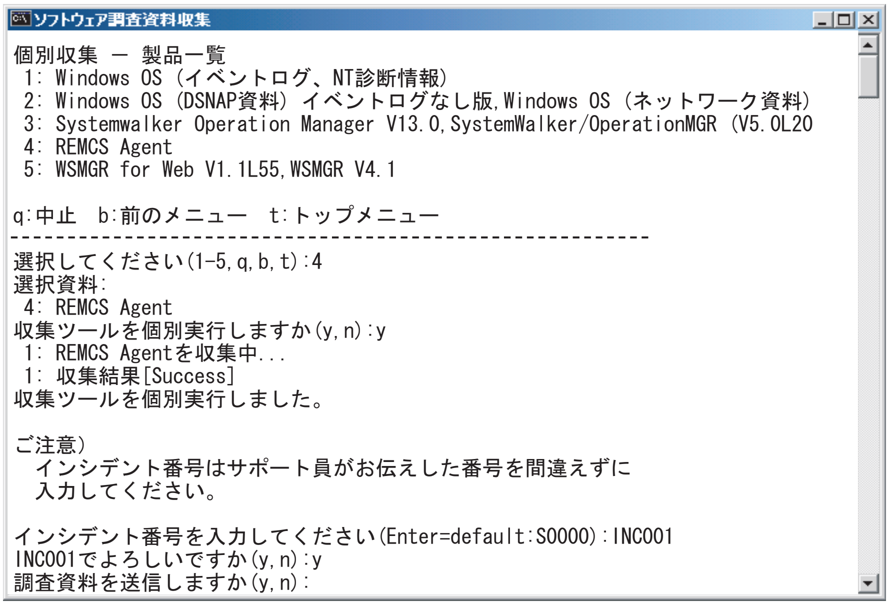
表示	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生

6 インシデント番号を入力します。

サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数＋ハイフン）を入力し、【Enter】キーを押します。

7 インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。



```
ソフトウェア調査資料収集
個別収集 ー 製品一覧
 1: Windows OS (イベントログ、NT診断情報)
 2: Windows OS (DSNAP資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 3: Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR (V5.0L20
 4: REMCS Agent
 5: WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1

q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
------------------------------------------------------------
選択してください(1-5,q,b,t):4
選択資料:
 4: REMCS Agent
収集ツールを個別実行しますか(y,n):y
 1: REMCS Agentを収集中...
 1: 収集結果[Success]
収集ツールを個別実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):INC001
INC001でよろしいですか(y,n):y
調査資料を送信しますか(y,n):
```

8 REMCS センタへ送信する場合は、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

POINT

- 送信しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。
- 接続状態が「オンライン」の場合のみ REMCS センタへの送信が行えます。接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

調査資料送信の結果が表示されたら、個別収集処理は完了です。
送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	結果	内容
Success	送信成功	送信に成功
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた

9 【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューに戻ります。収集した資料の保存場所については、「4.5 調査資料の管理」（→ P.102）を参照してください。

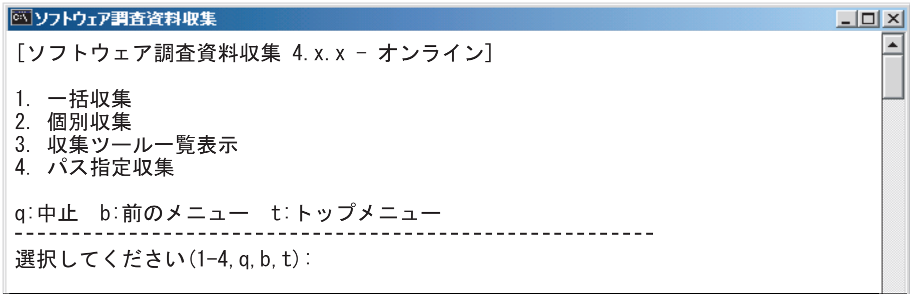
4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する

収集ツール配置パスに配置された QSS 収集ツールを一覧表示します。QSS 収集ツールの有効／無効も表示されます。
表示されていない QSS 収集ツールを追加したい場合は、「4.6.3 QSS 収集ツールの追加」（→ P.112）を参照してください。

1 SIRMS を起動します。

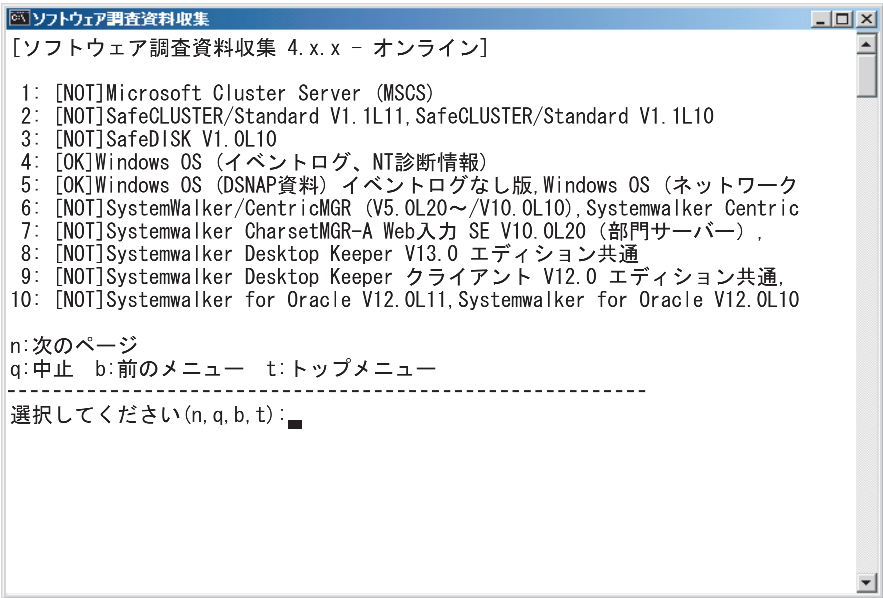
2 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。



3 【3】キーを押し、【Enter】キーを押します。

有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。
検索された QSS 収集ツールの有効／無効、調査資料名一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。



表：QSS 収集ツール検索結果の表示

表示	結果	内容
OK	有効	収集可能な QSS 収集ツール
OLD	無効	古いバージョンの QSS 収集ツール
NOT	無効	収集対象の製品がインストールされていない
OPT	無効	暗号化モジュールが組み込まれている QSS 収集ツール
	無効	収集に適さない QSS 収集ツール

［注］：無効な QSS 収集ツールは調査資料を収集できません。

4 【b】キーを押して【Enter】キーを押します。

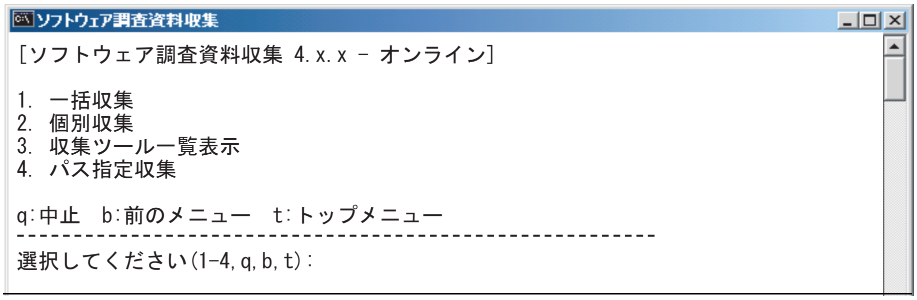
調査資料収集のメニューに戻ります。

4.3.5 任意のファイルを収集・送信する

1 SIRMS を起動します。

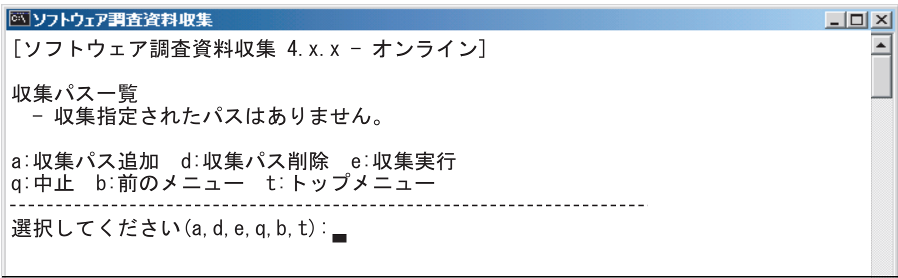
2 【1】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューが表示されます。



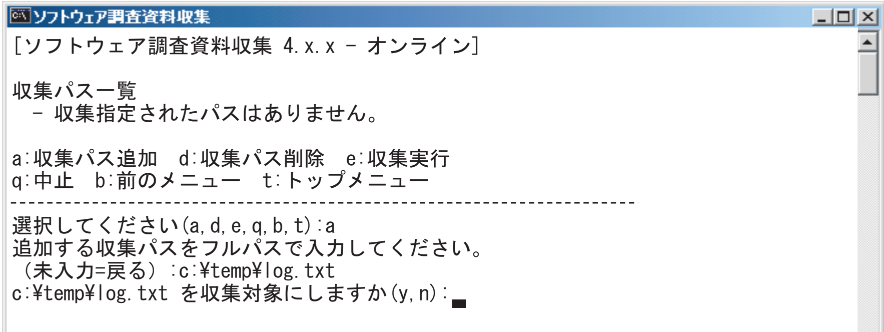
3 【4】キーを押し、【Enter】キーを押します。

パス指定収集のメニューが表示されます。



4 【a】キーを押し、【Enter】キーを押します。

5 収集するファイルをフルパスで入力し、【Enter】キーを押します。

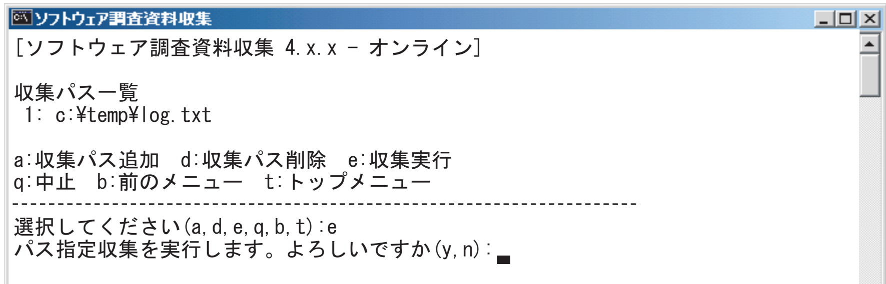


6 収集するファイルパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

収集するファイルを追加しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。

指定したファイルが収集パス一覧に追加されます。

ファイルは最大 10 個まで追加できます。削除する場合は、【d】キーを押して【Enter】キーを押します。



7 【e】キーを押し、【Enter】キーを押します。

8 収集パス一覧を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールにより、収集パス一覧のファイルが収集されます。
収集処理が終わると、調査資料収集の結果が表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

収集パス一覧
 1: c:¥temp¥log.txt

a:収集パス追加  d:収集パス削除  e:収集実行
q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
-----------------------------------------------------------------
選択してください(a,d,e,q,b,t):e
パス指定収集を実行します。よろしいですか(y,n):
 1: パス指定収集を収集中...
 1: 収集結果[Success]
パス指定収集を実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):
```

表：収集結果

出力	結果	内容	次処理
Success	収集成功	収集に成功	実行対象があれば収集処理は続行
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生	実行対象があれば収集処理は続行

9 インシデント番号を入力します。

サポート要員から伝えられたインシデント番号（英数＋ハイフン）を入力し、【Enter】キーを押します。

10 インシデント番号を確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

インシデント番号を修正する場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押し、インシデント番号を再度入力してください。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

収集パス一覧
 1: c:¥temp¥log.txt

a:収集パス追加  d:収集パス削除  e:収集実行
q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
------------------------------------------------------------------
選択してください(a,d,e,q,b,t):e
パス指定収集を実行します。よろしいですか(y,n):
 1: パス指定収集を収集中...
 1: 収集結果[Success]
パス指定収集を実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):INC001
INC001でよろしいですか(y,n):y
調査資料を送信しますか(y,n):
```

11 REMCS センタへ送信する場合は、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

POINT

- 送信しない場合は、【n】キーを押して【Enter】キーを押します。
- 接続状態が「オンライン」の場合のみ REMCS センタへの送信が行えます。接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

調査資料送信の結果が表示されたら、パス指定収集は完了です。
送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	結果	内容
Success	送信成功	送信に成功
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた

12 【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューに戻ります。収集した資料の保存場所については、「4.5 調査資料の管理」（→ P.102）を参照してください。

4.4 FTvirtual Server のソフトウェア調査資料の収集・送信

高信頼 FT/HA モデルで、ソフトウェア調査資料を収集してセンタに送信する場合は、以下の操作を行ってください。

1 FTvirtual Server 上で調査資料を収集します。

一括収集する場合は、「4.3.2 調査資料を一括収集・送信する」（→ P.89）の手順 1 ～ 5 までを行います。
個別収集する場合は、「4.3.3 調査資料を個別収集・送信する」（→ P.92）の手順 1 ～ 5 までを行います。

2 【n】キーを押して【Enter】キーを押し、SIRMS を終了します。

POINT

- 収集した調査資料をそのまま REMCS センタに送信することはできません。

3 FTvirtual Server 上で収集した資料を CoServer 上にコピーするために、CoServer 上の適当なフォルダを、ネットワーク上で共有します。

1. CoServer 上でエクスプローラを起動します。
2. 共有するフォルダ上で右クリックして、「共有…」をクリックします。
3. ［このフォルダを共有する］をクリックして、共有名を入力します。
   アクセス許可を設定したい場合は、［アクセス許可］をクリックして設定します。
4. ［OK］をクリックします。

4 資料を CoServer 上にコピーします。

1. CoServer 上で FTvirtual Server Desktop を起動します。
   FTvirtual Server Desktop の表示方法については、高信頼 FT/HA モデルの『ユーザーズガイド』を参照してください。
2. FTvirtual Server にログオンします。
3. FTvirtual Server 上で「スタート」メニュー →「検索」→「ファイルやフォルダ…」の順にクリックし、検索画面を起動します。
4. 「ほかの項目を検索 :」の「コンピュータ」をクリックします。
5. コンピュータ名に CoServer のホスト名（IP アドレスも可）を入力して、［検索開始］をクリックします。
6. 表示されたコンピュータをダブルクリックして、コンピュータにログオンします。
   ログオン後、共有したフォルダが表示されます。
7. 資料が格納されているフォルダを、共有したフォルダにコピーします。
   資料が格納されているフォルダは、「4.6 SIRMS の環境設定」の「■ ユーザー設定の設定値」（→ P.107）の収集結果のパスを参照してください。

5 フォルダの共有を解除します。

1. CoServer 上でエクスプローラを起動します。
2. 共有するフォルダ上で右クリックして、「共有…」をクリックします。
3. ［このフォルダを共有しない］をクリックします。
4. ［OK］をクリックします。

6 CoServer 上で、コピーした調査資料を SIRMS の収集結果のパスにコピーします。

SIRMS の収集結果のパスは、「4.6 SIRMS の環境設定」の「■ ユーザー設定の設定値」（→ P.107）の収集結果のパスを参照してください。

7 CoServer 上で、コピーした資料を送信します。

「4.5.1 収集結果を一覧表示する」の「■ 収集結果を REMCS センタへ送信する」（→ P.105）を参照してください。

4.5 調査資料の管理

収集済みの調査資料を送信したり削除したりする管理の方法について説明します。

■ 収集結果管理機能

収集結果の管理では、以下の機能を使用します。

- 収集結果を一覧表示する
  調査資料の収集 / 送信結果を一覧表示します。
- 収集結果を REMCS センタへ送信する
  調査資料を REMCS センタへ再送信する場合に使用します。
- 収集結果を削除する
  調査資料を削除します。
- 収集結果を取り出して操作でメールなどにて送信する
  送信サイズの上限を超えているため、REMCS センタへの送信ができない場合に使用します。
- インシデント番号を変更する
  送信時に使用するインシデント番号を変更する場合に使用します。

収集した調査資料は、収集結果パス配下に格納されます。収集結果は、以下のような、すべてのユーザに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。
デフォルトで設定されている収集結果パスは OS により異なります。

表：デフォルトで設定されている収集結果パス

OS	収集結果パス（環境変数を使用可）
Windows Server 2008	%ALLUSERSPROFILE%¥FUJITSU¥SIRMS¥SaveArea3
Windows Server 2008 以外	%ALLUSERSPROFILE%¥Application Data¥FUJITSU¥SIRMS¥SaveArea3

表：収集結果パス配下ファイル

名前	説明
収集結果パス ¥	収集結果があるディレクトリ
└ sirmsYYYYMMDDHHMISS¥	収集単位ごとの調査資料があるディレクトリ
├ sirms incident.txt	インシデントファイル
└ ezcollectYYYYMMDDHHMISS¥	収集した資料のディレクトリ
├ ez.log	QSS 収集ツールの動作ログ
├ result.txt	収集したファイル一覧
├ qss resulet.txt	個別実行結果ファイル
├ resultYYYYMMDDHHMISS.ex_	調査資料アーカイブ
└ resultYYYYMMDDHHMISSextract.ex_	調査資料アーカイブ（抽出処理済み）

［注］YYYYMMDDHHMISSMMM は、調査資料収集を行った年月日時分秒ミリ秒になります。

4.5.1　収集結果を一覧表示する

1　**SIRMS を起動します。**

起動手順については、「4.3.1 SIRMS を起動する」（→ P.88）を参照してください。

2　**【2】キーを押して【Enter】キーを押します。**

収集結果の一覧が表示されます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

使用可能ディスクサイズ : 307,200KB
使用量                 : 6,554KB

収集結果一覧
No 収集日               インシデント    資料数  収集結果    送信結果
 1:2006/07/31 18:25:00  INC001               5        OK     NOTSEND
 2:2006/07/31 18:34:52  INC001               1        OK     NOTSEND
 3:2006/07/31 18:42:49  INC001               1        OK     NOTSEND

q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
-----------------------------------------------------------------
選択してください(1-3,q,b,t):
```

表：収集結果一覧

項目名	内容
使用可能ディスクサイズ	使用可能な収集結果のサイズ
使用量	収集結果のサイズ
収集日	収集結果の収集日
インシデント番号	送信時に使用したインシデント番号
資料数	調査資料の数
収集結果	収集結果一覧－収集結果参照
送信結果	収集結果一覧－送信結果参照

表：収集結果一覧－収集結果（一括収集 / 個別収集の収集結果）

表示	結果	内容
OK	収集成功	収集に成功
NG	収集失敗	収集にすべて失敗
PART.NG	収集失敗	収集に一部失敗

表：収集結果一覧－送信結果（最新の送信結果）

表示	結果	内容
SEND	送信成功	送信に成功
NG	送信失敗	送信にすべて失敗
NOTSEND	－	送信を行っていない
PART.NG	送信失敗	送信に一部失敗
PART.SEND	送信成功	個別送信に成功

3 調査資料一覧を表示したい数字キーを押して【Enter】キーを押します。

調査資料の一覧が表示されます。複数の資料が含まれている場合は、すべての資料に対して操作できます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。

```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

調査資料一覧
収集日                 : 2006/07/31 18:25:00
インシデント番号       : INC001
送信可能サイズ（製品毎）: 2,048KB

No      資料サイズ    送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
 1:Windows OS（イベントログ、NT診断情報）
             263KB         263KB            Success           NotSend
 2:Windows OS（DSNAP資料）イベントログなし版,Windows OS（ネットワーク資料）
           4,120KB       4,120KB            Success           NotSend
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR(V5.0L20
              72KB          72KB            Success           NotSend
 4:REMCS Agent
             881KB         881KB            Success           NotSend
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1
              71KB          71KB            Success           NotSend
--------------------------------------------------------------------
合計:      5,407KB       5,407KB

s;全て送信  r:全て削除  d:出力先表示  i:インシデント番号変更
q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
--------------------------------------------------------------------
選択してください(1-5,s,r,d,i,q,b,t):
```

表：調査資料一覧

項目名	内容
収集日	各調査資料の収集日
インシデント番号	送信時に使用したインシデント番号
送信可能サイズ（製品毎）	調査資料ごとに送信できるサイズ
資料サイズ	各調査資料のサイズ
送信サイズ	送信する各調査資料のサイズ
個別収集結果	調査資料一覧－個別収集結果参照
個別送信結果	調査資料一覧－個別送信結果参照
（調査資料名）	各調査資料名
合計－資料サイズ	調査資料の合計サイズ
合計－送信サイズ	送信する調査資料の合計サイズ

表：調査資料一覧－個別収集結果

表示	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功した
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生した

表：調査資料一覧－個別送信結果

表示	結果	内容
Send	送信成功	送信に成功した
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生した
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた
NotSend	－	送信を行っていない

4 行いたい管理操作キーを選択します。

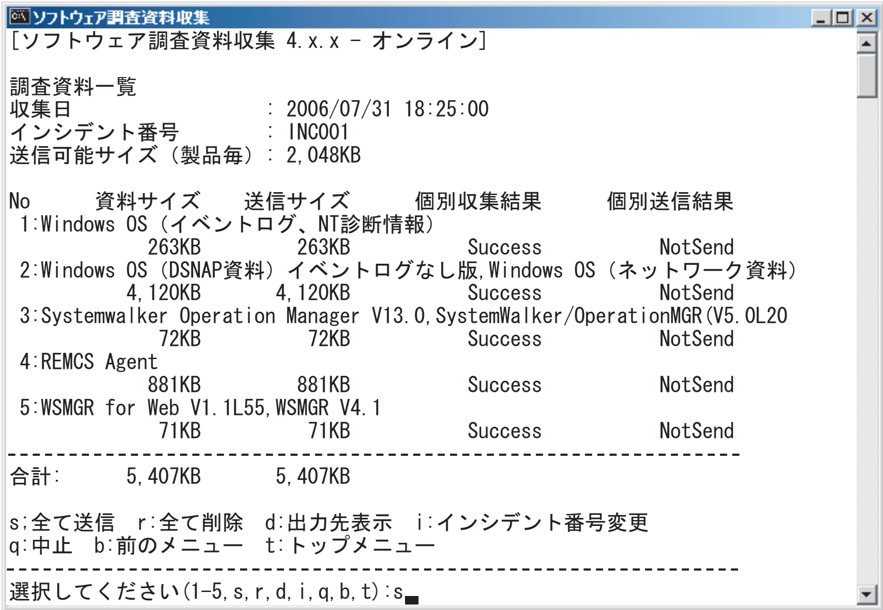
→「■ 収集結果を REMCS センタへ送信する」（P.105）
→「■ 収集結果を削除する」（P.106）
→「■ 収集結果を取り出し、メール添付などで送信する」（P.106）

■ 収集結果を REMCS センタへ送信する

1 調査資料の一覧表示画面で【s】キーを押して、【Enter】キーを押します。

POINT

▶ 接続状態がオフライン時には、一括送信できません。



```
ソフトウェア調査資料収集
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オンライン]

調査資料一覧
収集日                  : 2006/07/31 18:25:00
インシデント番号        : INC001
送信可能サイズ（製品毎）: 2,048KB

No      資料サイズ    送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
 1:Windows OS（イベントログ、NT診断情報）
             263KB         263KB          Success          NotSend
 2:Windows OS（DSNAP資料）イベントログなし版,Windows OS（ネットワーク資料）
           4,120KB       4,120KB          Success          NotSend
 3:Systemwalker Operation Manager V13.0,SystemWalker/OperationMGR(V5.0L20
              72KB          72KB          Success          NotSend
 4:REMCS Agent
             881KB         881KB          Success          NotSend
 5:WSMGR for Web V1.1L55,WSMGR V4.1
              71KB          71KB          Success          NotSend
---------------------------------------------------------------------
合計:      5,407KB       5,407KB

s;全て送信  r:全て削除  d:出力先表示  i:インシデント番号変更
q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
---------------------------------------------------------------------
選択してください(1-5,s,r,d,i,q,b,t):s
```

2 【y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

調査資料送信の結果が表示されたら処理は完了です。
送信結果は、以下のように表示されます。

表：送信結果

表示	結果	内容	次処理
Success	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行

3 【Enter】キーを押します。

調査資料収集のメニューに戻ります。

■ 収集結果を削除する

1 調査資料の一覧画面で【r】キーを押して【Enter】キーを押します。

2 削除する収集結果のパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

全削除の処理が行われます。

3 【Enter】キーを押します。

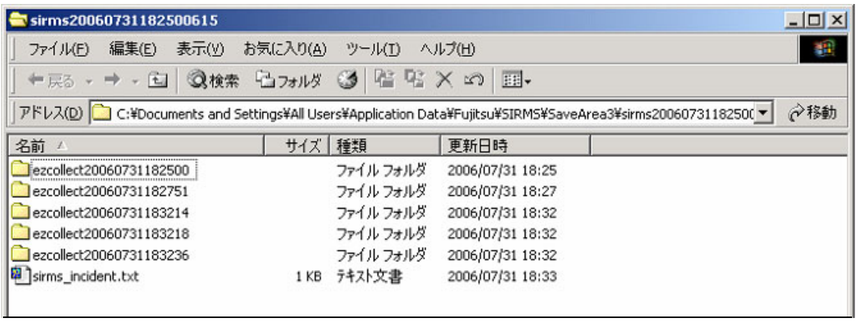
収集結果一覧に戻ります。

■ 収集結果を取り出し、メール添付などで送信する

1 調査資料の一覧画面で【d】キーを押して【Enter】キーを押します。

2 収集結果のパスを指定するエクスプローラが開きます。

調査資料を他の媒体（DAT などの外部記憶装置）に保存して REMCS センタに郵送するか、調査資料をメールの添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。



4.6 SIRMS の環境設定

調査資料収集における送信ファイルサイズや、ファイルの保存先などを変更します。サポート要員の指示がない場合は変更を行わないでください。

■ ユーザー設定の設定値

あらかじめユーザー設定値として、以下の値が設定されています。

表：ユーザー設定管理－設定値

項目名	デフォルト値［範囲］
収集結果の出力先パス	・Windows Server 2008 の場合 C:¥ProgramData¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea3 ・Windows Server 2008 以外の場合 C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data ¥FUJITSU¥SIRMS¥SaveArea3
収集結果保存領域の最大利用可能サイズ	300［20-2048］MB
収集結果の最大保存数	5［1-256］
送信可能な最大ファイルサイズ	2048［1-2048］MB
送信可能な最大合計ファイルサイズ	2048［1-5120］MB
収集ツール実行待ち時間	30［10-120］分
収集ツール判断待ち時間	10［5-60］秒
ディスク空き領域チェック	100［20-1024］MB

■ ユーザー設定管理機能

ユーザー設定管理機能により、以下の設定値変更を行えます。

- 収集結果パスを設定する
  収集結果を出力するディレクトリパスを設定します。
  環境変数を使用することができます。
- 収集結果最大サイズを設定する
  収集結果の最大のサイズを設定します。
- 収集結果最大保存数を設定する
  収集結果の最大保存数を設定します。
  収集後に収集結果の数が値を超えた場合は、古い順から削除されます。
- 送信ファイル最大サイズを設定する
  REMCS センタへ送信する調査資料の最大サイズを設定します。
  値を超えた場合は、サイズ内に納まるよう調査資料を抽出し送信します。
- 送信ファイル最大合計サイズを設定する
  送信ファイルサイズの最大合計サイズを設定します。
  値を超えた場合は、送信が行われません。
- QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する
  QSS 収集ツールが調査資料を収集している最大時間を設定します。
  基本的に変更は行いませんが、低スペックマシン使用時に変更します。
  タイムアウトした場合は、送信が行われないことがあります。

- QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する
  QSS 収集ツールの有効／無効を判断する時間を設定します。
  基本的に変更は行いませんが、低スペックマシン使用時に変更します。
  タイムアウトした場合は、無効な QSS 収集ツールと判断されます。
- ディスク空き領域を設定する
  収集結果パスが設定されているディスクの、最低限使用してはいけないサイズを設定します。ハードディスクの容量が少ない場合に変更します。

■ 収集ツール配置パス管理機能

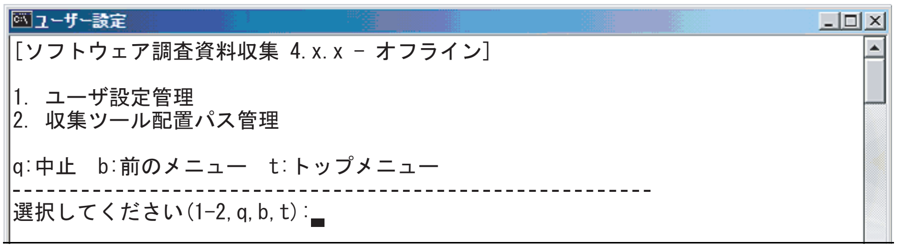
収集ツール配置パス管理については、以下の機能で行います。

- QSS 収集ツール配置パスに追加する
  QSS 収集ツールを配置するディレクトリを QSS 収集ツール配置パスに追加します。
- QSS 収集ツール配置パスから削除する
  QSS 収集ツール配置パスに登録されているディレクトリパスを削除します。
- QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する
  QSS 収集ツール配置パスに登録されているディレクトリパスを一覧表示します。

4.6.1 ユーザー設定管理

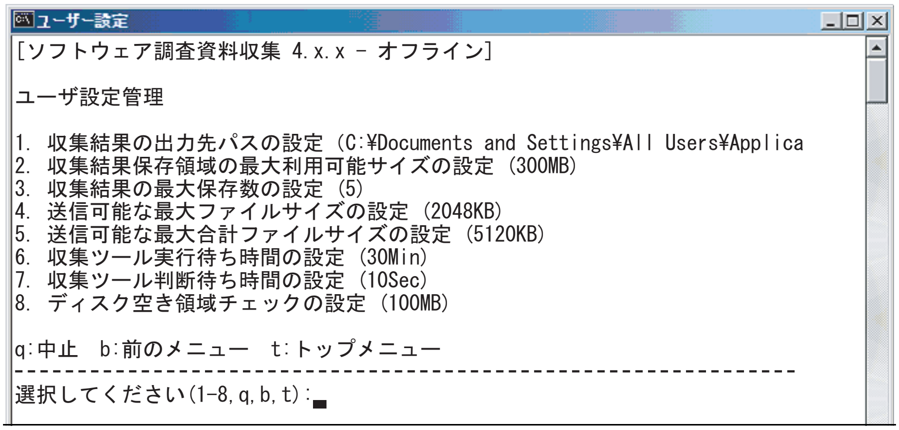
1 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「REMCS SIRMS」→「ユーザー設定」の順にクリックします。**

コマンドプロンプトが開き、ユーザー設定メニューが表示されます。



2　【1】キーを押して【Enter】キーを押します。

ユーザー設定管理のメニューと現在の設定情報が表示されます。



表：ユーザー設定管理メニュー

数字キー	ユーザー設定管理機能名
【1】	収集結果の出力先パスの設定
【2】	収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定
【3】	収集結果の最大保存数の設定
【4】	送信可能な最大ファイルサイズの設定
【5】	送信可能な最大合計ファイルサイズの設定
【6】	収集ツール実行待ち時間の設定
【7】	収集ツール判断待ち時間の設定
【8】	ディスク空き領域チェックの設定

3　設定を行う項目の数字キーを押して【Enter】キーを押します。

4　設定する値を入力して【Enter】キーを押します。

入力せずに、【Enter】キーを押した場合はデフォルト値が設定されます。

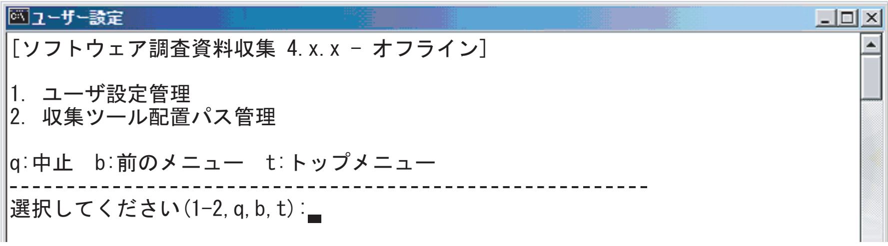
5　入力した値を確認し【y】キーと【Enter】キーを押します。

6　他の設定項目を変更する場合は、手順 3 〜 5 を行います。すべての設定が終了したら【Enter】キーを押し、ユーザー設定メニューに戻ります。

4.6.2 収集ツール配置パス管理

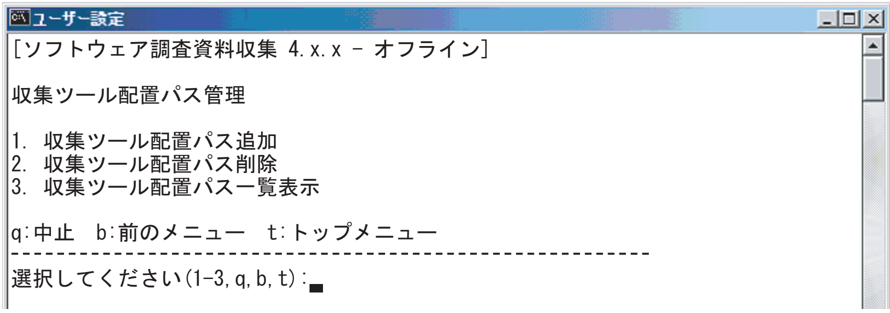
1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「REMCS SIRMS」→「ユーザー設定」の順にクリックします。

コマンドプロンプトが開き、ユーザー設定メニューが表示されます。



2 【2】キーを押して【Enter】キーを押します。

収集ツール配置パス管理のメニューが表示されます。



3 操作を行う数字キーを押して【Enter】キーを押します。

→「■ QSS 収集ツール配置パスに追加する」（P.111）
→「■ QSS 収集ツール配置パスから削除する」（P.111）
→「■ QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する」（P.112）

■ QSS 収集ツール配置パスに追加する

1　【1】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツールを配置するディレクトリパスを入力するようメッセージが表示されます。

2　追加するパスを入力し、【Enter】キーを押します。

```
ユーザー設定
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オフライン]

収集ツール配置パス管理

1. 収集ツール配置パス追加
2. 収集ツール配置パス削除
3. 収集ツール配置パス一覧表示

q:中止　b:前のメニュー　t:トップメニュー
-------------------------------------------------------
選択してください(1-3,q,b,t):1
追加するパスを入力してください(未入力=戻る)
:c:¥Program Files¥QSS
```

3　入力したパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

4　QSS 収集ツール配置パスに追加しました。

収集ツール配置パス一覧表示で追加されたパスを確認できます。最大 10 個まで追加できます。

■ QSS 収集ツール配置パスから削除する

1　【2】キーと、【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツール配置パスの一覧が表示されます。

2　削除したい数字キーと、【Enter】キーを押します。

```
ユーザー設定
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オフライン]

収集ツール配置パス一覧
 1: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥base
 2: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥product
 3: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool
 4: c:¥Program Files¥QSS

q:中止　b:前のメニュー　t:トップメニュー
-------------------------------------------------------
選択してください(1-4,q,b,t):
```

3　選択したパスを確認し、【y】キーを押して【Enter】キーを押します。

パスが削除されます。

4　【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツール配置パスの一覧が更新され表示されます。

収集ツール配置パス管理のメニューに戻る場合は、【b】キーと【Enter】キーを押します。

■ QSS 収集ツール配置パスを一覧表示する

1 【3】キーを押して【Enter】キーを押します。

QSS 収集ツール配置パスの一覧が表示されます。

```
ユーザー設定
[ソフトウェア調査資料収集 4.x.x - オフライン]

収集ツール配置パス一覧
 1: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥base
 2: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥product
 3: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool

q:中止  b:前のメニュー  t:トップメニュー
-------------------------------------------------------------
選択してください(q,b,t):
```

2 表示を終了し、収集ツール配置パス管理のメニューに戻る場合は、【b】キーを押して【Enter】キーを押します。

4.6.3 QSS 収集ツールの追加

弊社サポート要員より渡された QSS 収集ツールを QSS 収集ツール配置パスに配置すると、SIRMS の収集対象を追加できます。
SIRMS の収集ツール一覧に存在しない収集対象は、弊社サポート要員より入手して追加してください。

1 QSS 収集ツール配置パス（%PROGRAMFILES%¥Fujitsu¥SIRMS¥pool）に、入手した QSS 収集ツールを配置します。

例）C:¥Program Files¥Fujitsu¥SIRMS¥pool

表：デフォルトで設定されている QSS 収集ツール配置パス

QSS 収集ツール配置パス（環境変数を使用可）	種類	説明
%ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥base 例）c:¥Program Files¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥base	同梱用	SIRMS に同梱されている QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。
%ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥product 例）c:¥Program Files¥FUJITSU¥SIRMS¥pool¥product	製品用	製品にバンドルされている QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。
%ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥pool 例）c:¥Program Files¥FUJITSU¥SIRMS¥pool	その他	弊社サポート要員から入手した QSS 収集ツールを配置するディレクトリです。

2 SIRMS V4 を起動し、目的の製品が QSS 収集ツールに対応している場合は、収集ツール一覧表示で「OK」と表示されます。

QSS 収集ツールの一覧表示については、「4.3.4 QSS 収集ツールを一覧表示する」（→ P.95）を参照してください。

第 5 章

トラブルシューティング

この章では、REMCS エージェントに関するトラブルと対処方法について説明しています。

5.1 インストール時のトラブル 114
5.2 レジストレーション時のトラブル 118
5.3 運用操作メニューのトラブル 121
5.4 REMCS エージェントのバージョン確認 127
5.5 REMCS の運用を終了する場合 128

5.1 インストール時のトラブル

REMCS エージェントのインストール時やご利用時に、表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

5.1.1 メッセージと対処方法

表：メッセージと対処方法

メッセージ	対処方法
アドミニストレータでログインしてください。	Administrator 権限のあるユーザでログインし直し、再度インストールを行ってください。
［プログラムの追加と削除］の使用は制限されています。管理者に問い合わせてください。	Administrator 権限のあるユーザでログインし直し、再度インストールを行ってください。
メモリ領域を確保できませんでした。	インストール作業のためのメモリ領域を確保しようとして失敗しました。他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度インストールを行ってください。
レジストリ操作（xxx）に失敗しました。	xxx 情報をレジストリに書き込む際にエラーが発生しました。 いったんインストールを中止し、Administrator 権限でログオンしているか確認してください。その後、再度 REMCS エージェントのインストーラを起動し、アップグレードインストールを行ってください。
SNMP サービスが動作していません。続行できません。	SNMP サービスがインストールされていないか、あるいは正常に動作していません。以下の手順で対処してください。Windows のタスクマネージャを起動して、REMCS エージェントのインストールを強制終了します。 SNMP サービスをインストールします。 REMCS エージェントをアップグレードインストールします。
メモリが "read" になることはできませんでした。	Srvctrl.exe アプリケーションエラーです。このエラーが発生しても、以降のインストールや運用に影響はありません。［OK］をクリックしてメッセージ画面を閉じ、作業を続行してください。
既に新しいバージョンの REMCS エージェント V1.0Lxx がインストールされています。	V3.1 以降の REMCS エージェントがインストールされているサーバ上で V3.0 以前の REMCS エージェント CD をセットしています。インストールを中止し、CD を取り出してください。
FT モデル初期処理準備中です。しばらく待ってからレジストレーションしてください。	「2.1.3 高信頼 FT/HA モデルの場合」（→ P.37）を参照のうえ、高信頼 FT/HA モデルの場合のレジストレーション前の準備を実施してください。

■ Windows インストーラのメッセージと対処方法

表：Windows インストーラのメッセージと対処方法

エラー番号	メッセージ	対処方法
1150	セットアップが互換性のない Windows のバージョンを検出しました。［OK］をクリックし、Windows 95、Windows NT 4.0、またはそれ以降のバージョンでセットアップを再起動してください。	Windows インストーラ は Windows NT 4.0 またはそれ以降、および Windows 9x 以降と互換性があります。ご使用の Windows のバージョンを確認し、必要な場合は互換性のあるバージョンにアップグレードしてください。
1151	一時ディレクトリへの書き込みエラー	一時ディレクトリへ書き込むには、環境変数 TEMP が設定されている必要があります。一時フォルダが存在していて、セットアップを格納するのに十分なディスク容量があることを確認してください。一時フォルダにファイルがある場合は、それらを削除して Setup.exe を再実行してください。
1152	一時ディレクトリへの＜ファイル名＞の抽出エラー	Temp フォルダが書き込み可能であることを確認してください。Temp フォルダが書き込み可能な場合は、セットアップ中のファイルが壊れている可能性があります。壊れているファイルがないことを確認し、Setup.exe を再実行してください。
1154	インストーラが＜パス＞で見つかりません	Windows インストーラ が正しくインストールされていないか、古いバージョンが使用されている可能性があります。 Windows インストーラを再インストールしてください。
1156	Windows Installer の内部エラー	Windows インストーラ が正常にインストールされていません。Windows インストーラを再インストールしてください。
1157	Msiexec.exe の起動に失敗しました。	ターゲット プラットフォームに Windows インストーラ の正しいバージョンがインストールされていることを確認してください。
1201	セットアップは、＜フォルダ＞に＜＞KB の空き容量が必要です。空き容量を増やして再度実行してください。	ターゲット位置のディスク容量が不十分です。セットアップをインストールするドライブに 10MB 以上の空き容量があることを確認してください。
1207	Windows Installer＜バージョン＞が見つかりません。これは Windows Installer の古いバージョンです。継続するには、[OK] をクリックします。	Windows インストーラ が以前のバージョンです。最新の Windows インストーラをインストールしてください。
1611	ファイル＜ファイル名＞を抽出できません。	このエラーは、Setup.exe の中で圧縮されたファイルを抽出できない場合に発生します。Temp フォルダ（または Windows または WinNT フォルダ）に十分なディスク容量があるか、またセットアップがこれらのフォルダに書き込めるかどうか確認してください。
1621	ファイル＜ファイル名＞の署名を確認できませんでした。	ファイルが破損しています。セットアップモジュールを再入手してください。

表：Windows インストーラのメッセージと対処方法

エラー番号	メッセージ	対処方法
1627	次のファイルを保存できません :< ファイル名 >。	指定されたファイルがすでに存在しないこと、またターゲットシステムに十分なハードディスク容量があることを確認してください。
1701	InstallScript エンジン サポート ファイルを一時保管場所に抽出できませんでした。	このエラーは、1 つまたは複数のファイルを ISSetup.dll ファイルから一時ディレクトリに抽出できなかったときに発生します。Windows インストーラ ログ ファイル（%temp% の RAmsi.log）のエラーメッセージを確認してください。

5.1.2 スクリプト実行時間の設定について

起動通知／停止通知コマンドを登録すると、OS 起動時と OS シャットダウン時に、スタートアップスクリプト・シャットダウンスクリプト実行中のメッセージが表示されるようになります。このメッセージが 10 分以上続いて表示される場合のみ、以下の手順に従ってスクリプト実行時間の設定を行ってください。
初期値では、コンピュータの一連のスクリプト実行時間の上限は、最高 600 秒（10 分）に設定されています。この上限値を超えたときはスクリプト実行は途中で中止されます。その場合、起動通知／停止通知がセンタに送信されない場合があります。
一連の処理を実行したときに 600 秒を超える可能性が高い場合は、この上限値を調整して対処することができますが、仕様と運用方法を十分理解したうえで正しく設定してください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に「gpedit.msc」と入力して、[OK] をクリックします。
グループポリシー画面が表示されます。

3 「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「システム」→「ログオン」の順にクリックします。

4 「スクリプトの実行時間の上限を設定する」をダブルクリックします。
スクリプトの実行時間の上限を設定するのプロパティ画面が起動します。

5 「有効」をクリックし、「時間（秒）」に、一連のスクリプトに対してコンピュータを待機させる時間を入力します。
1 から 32,000 までの秒数を入力します。コンピュータの待ち時間を無制限にするには、0 を指定します。

POINT

- 待ち時間を過度に長くすると、システムに遅延が生じ、他のユーザーに迷惑がかかる可能性があります。待ち時間が短かすぎると、必要なタスクが実行されず、システムが不完全な状態になる可能性があります。

6 [OK] をクリックし、プロパティ画面を閉じます。

7 グループポリシー画面を閉じます。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、以下の操作を行います。

重要

- SNMP サービスの設定を行うため、Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の装置とは別の Windows 装置が必要になります。あらかじめ用意してください。

1 別の Windows 装置上でコマンドプロンプトを起動して以下のコマンドを実行します。

操作の途中で Administrator のパスワードの入力が必要になります。

例）Server Core サーバの IP アドレスが 192.168.1.10 の場合

```
net use * ¥¥192.168.1.10¥c$ /u:Administrator
 'Administrator' のパスワードを入力してください。'192.168.1.10' に接続します:
 ドライブ Z: は現在 ¥¥192.168.1.10¥c$ に接続されています。
 コマンドは正常に終了しました。
mmc
```

MMC コンソール画面が起動します。

2 「ファイル」メニュー →「スナップインの追加と削除…」の順にクリックします。

「スナップインの追加と削除」画面が表示されます。

3 グループポリシー オブジェクトエディタを追加します。追加するときに「別のコンピュータ」を選んで、Server Core サーバの IP アドレスを指定します。

上記の例では、IP アドレスは「192.168.1.10」を指定します。

POINT

- 使用している Windows OS や MMC コンソールのバージョンにより、追加画面の操作手順が異なります。

4 スクリプト実行時間を設定します。

「5.1.2 スクリプト実行時間の設定について」（→ P.116）の手順 3 ～ 7 を実行します。

5 設定終了後、MMC コンソール画面を終了します。

6 ネットワークドライブとして割り当てられている "c$" を切断します。

5.2 レジストレーション時のトラブル

レジストレーション時に発生するトラブル、およびレジストレーション時に表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

5.2.1 レジストレーション時のトラブルと対処方法

表：レジストレーション時のトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
RSB、RSC からのテストメールを実施した後、応答がない。	・ネットワークの状態が悪い場合や設定に誤りがある場合に、最長で 10 分の間リトライを行います。テストメールの結果メッセージが表示されるまで、お待ちください。 ・P-P 接続（ISDN）、P-P 接続（VPN）で接続している場合は、テストメール機能は利用できません（エラー終了）。 ・AUTH-SMTP 認証、POP before SMTP には対応していないため、これらの認証機能を利用する環境ではテストメール機能は利用できません（エラー終了）。
RAID 管理ツール検出のエラーイベント、またはブレードサーバのマネジメントブレード検出のエラーイベントがリモート通報されない。	・ServerView AlarmService または ServerView Event Manager がインストールされている場合 これらのイベントは GAM エージェント、またはマネジメントブレードが送信した SNMP トラップを ServerView AlarmService または ServerView Event Manager が受信し、ローカルのイベントログにログ出力したものを REMCS エージェントが通報する仕組みになっています。AlarmService または Event Manager は SNMP トラップ送信元がサーバリストに登録されていない場合、不明なトラップとして処理し、イベントログにログ出力しません。サーバリストに登録する場合は、ServerView の管理コンソールに監視対象のサーバ、またはマネジメントブレードを登録してください。イベントログにログ出力されているにもかかわらず通報されないイベントは通報対象外です。 ・ServerView AlarmService または ServerView Event Manager がインストールされていない場合 マネジメントブレードが送信した SNMP トラップを F5FBTL01 サービスが受信し、ローカルのイベントログにログ出力したものを REMCS エージェントが通報する仕組みになっています。イベントログにログが出力されない場合は、マネジメントブレードの IP アドレスが fjtraplog.ini に設定されていない可能性があります。「2.1.2 ブレードサーバの場合」（→ P.35）を参照して、設定を確認 してください。イベントログにログ出力されているにもかかわらず通報されないイベントは通報対象外です。
お客様登録時に画面に表示された装置 ID が、ハードウェアの保証書および筐体に貼付のラベルに書かれている装置 ID と一致しない。	使用しているシステムディスクが別の装置からコピーされたものかどうかを確認してください。コピーされたものを使用した場合は、コピー元装置の装置 ID が取り込まれている可能性があります。「1.4.3 システムディスクをコピーして他のサーバシステムを構築する場合」（→ P.20）の「装置 ID の削除手順」を参照して、装置 ID を削除してください。
RSB（PG-RSB102 以降）からエラー通報メールが送信されない。	Severity 設定でメール送信しないように設定されている可能性があります。「3.2.2 アラート通報設定」（→ P.66）の設定手順 11 ～ 13 を参照し、Severity 設定を確認してください。

5.2.2 お客様登録と環境設定に関するメッセージと対処方法

表：お客様登録と環境設定に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。制限字数を確認して、もう一度入力してください。
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。ネットワークへのケーブルの接続、メール（SMTP）サーバのホスト名または IP アドレス、SMTP サーバが動作しているかを確認してください。
スケジュールを入力してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。 正しく設定してください。
曜日を指定してください。	定期接続スケジュール設定の曜日が正しく設定されていません。 正しく設定してください。
日付を指定してください。	定期接続スケジュール設定の日付が正しく設定されていません。 正しく設定してください。
時刻の指定に誤りがあります。	定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は 0:00 ～ 23:59 の範囲の値です。入力した時刻を確認し、正しく設定してください。
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。開始時刻を終了時刻より前に設定してください。
構成情報が収集できませんでした。設定を確認してください。	構成情報を収集できませんでした。インストールしたソフトウェアが正常に動作していない可能性があります。サーバを再起動し、再度処理を行ってください。それでもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
E-mail が送信できませんでした。設定を確認してください。	E-mail を送信できませんでした。メールサーバ、送信元メールアドレスが正しいかどうか確認してください。
設定結果を保存できませんでした。設定を確認してください。	ディスク領域不足によるファイルアクセスエラー、メモリ領域確保の失敗、サービス（F5EP00RMService）の未起動などが考えられます。20 分待ってから再度処理を実行してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

表：お客様登録と環境設定に関するメッセージ

<table>
<tr><th>メッセージ</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>接続確認に失敗しました。設定を確認してください。</td><td rowspan="2">原因として以下の 3 つが考えられます。
1. マシンが高負荷状態のため、確認処理でタイムアウトが発生した。
2. サービスが起動していない。
3. イベントログがいっぱいになり、イベントログに情報が書き込めない。
それぞれ以下の対処方法を実施してください。
1. Windows タスクマネージャの［パフォーマンス］の「CPU 使用率」を参照し、100% 状態が継続しているかを確認し、CPU 使用率が 100% 未満になるまで待ってください。
2. 「サービス」メニューの「REMCS RmAosfB」が開始状態でない場合は、このサービスを開始してください。開始する際は、「スタートアップの種類」が「自動」になっていることを確認してください。
3. イベントログの状態を確認し、イベントログがいっぱいの場合は、「ログファイルの名前をつけて保存」を選択し、ログファイルを保存後、すべてのイベントを削除してください。なお、イベントログがいっぱいになって書き込めない場合、REMCS エージェントの仕様上、センタへの障害は通知できないため、イベントログのプロパティにて、「ログサイズが最大値に達したときの操作」を「必要に応じてイベントを上書きする」に設定しておくことを推奨します。</td></tr>
<tr><td>SS-Agent の起動を確認できませんでした。</td></tr>
</table>

5.3 運用操作メニューのトラブル

レジストレーション後の設定変更など、運用操作メニューに関するトラブル、およびメッセージへの対処方法を説明します。

5.3.1 運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

表：運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
［資料収集・送付］をクリックしても、SIRMS メニュー画面が起動しない。	タスクマネージャから「運用操作メニュー」を強制終了してください。その後、再度通常の操作で「運用操作メニュー」を起動して、［資料収集・送付］をクリックしてください。
DLT、MO の異常が REMCS センタに通知されない。	異常を検出する特定のソフトウェア（ドライバを含む）がないため、DLT、MO などのリムーバブルドライブの異常はアラート通知できません。
MS-DOS（メンテナンス区画）が起動してしまう。	システム起動時に「Press F10 to start tools of Maintenance Partition.」というメッセージが 10 秒間表示されているときに、【F10】キーを押したことが考えられます。 MS-DOS が起動した状態から、次の手順で復旧してください。 REMCS エージェント CD の Chgpid フォルダを、フォーマット済みのフロッピーディスクにコピーします。 Remcs¥Chgpid フォルダをコピーしたフロッピーディスクをセットします。 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。 cd chgpid chgpid /B:OFF
英語環境で REMCS エージェントが使用できない。	REMCS エージェントでは日本語環境のみをサポートしています。
タイトルバー、タスクバーに（応答なし）の表示が残る。	サービスの運用動作に支障はありません。そのままお使いください。表示をクリアしたい場合は、運用操作メニューを起動し直してください。
運用操作メニューが起動しない。	サービスの開始作業を実施していない場合、運用操作メニューは起動できません。お客様登録を起動してサービスの開始作業を実施してください。
環境設定画面の接続形態欄に「(メールのみ)」が表示されない。	インターネット接続（メールのみ）の場合、インターネット接続と同じく「インターネット接続」と表示されます。
RSB、RSC からのテストメールを実施した後、応答がない。	ネットワークの状態が悪い場合や設定に誤りがある場合に、最長で 10 分の間リトライを行います。テストメールの結果メッセージが表示されるまで、お待ちください。

5.3.2 メッセージと対処方法

■ 運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。制限字数を確認して、もう一度入力してください。
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
指定されたメールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。メール（SMTP）サーバのホスト名または IP アドレスが正しいかどうか確認してください。
定期接続設定スケジュールを設定してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。「■ 定期接続時刻の変更」（→ P.76）を参照して正しく設定してください。
環境の取得に失敗しました。環境設定は行えません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
環境設定に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ取得エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ登録エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
時間が不正です。0 ～ 23 を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。入力できる時刻は 0:00 ～ 23:59 の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
分が不正です。0 ～ 59 を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。入力できる時刻は 0:00 ～ 23:59 の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
接続時刻の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
定期接続の通知に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

表：運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。開始時刻を終了時刻より前に設定してください。

■ 運用操作メニュー（構成情報）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（構成情報）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
構成情報の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、失敗しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
MIF ファイルの作成に失敗しました。	ディスクの空き容量が不足している可能性があります。必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.16）参照）を確保してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

■ 運用操作メニュー（保守状態設定）に関するメッセージ

表：運用操作メニュー（保守状態設定）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
保守開始日時の登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
保守作業状態フラグの登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

■ 運用操作メニュー全般に関するメッセージ

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
ログの書き込みに失敗しました。	ディスクの空き容量が不足しています。必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.16）参照）を確保してください。
レジストリ情報の操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
エラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ネットワークエラーが発生しました。	ネットワークエラーのため、正常に通信できません。お客様のサーバがネットワークに正常に接続されているかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
初期化されていません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
サーバが接続を拒否しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
通信可能状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
接続できませんでした。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
応答待ち状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
他のプロセスが通信中なので接続できません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。5 分程待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードでの通信です。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ユーザ ID が無効です。	入力したユーザ ID が間違っています。再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
パスワードが無効です。	入力したパスワードが間違っています。再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
メモリ確保に失敗しました。	メモリ領域の確保に失敗しました。他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度処理を行ってください。
リモート保守機能を一時停止中なので、送信できません。	REMCS センタ接続が停止中なので、処理を行えませんでした。REMCS センタ接続の再開後に再度処理を行ってください。
ディスク容量が不足しています。	ディスクの空き容量が不足しています。必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.16）参照）を確保してください。
保守作業中なので、送信できません。	保守作業中のため、処理を行えませんでした。保守作業終了後に再度処理を行ってください。
パラメータエラーが発生しました。	パラメータエラーのため、処理を中止しました。「■ E-mail 設定の変更」（→ P.77）を参照し、E-mail 環境の設定が正しいかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
装置 ID がありません（DRMS）。	REMCS センタにお客様のサーバの装置 ID が登録されていません。「第 3 章 レジストレーション」（→ P.49）を参照して、レジストレーション処理を行ってください。
サービスにアクセスできません。	REMCS SS-Agent のサービスが起動していません。コントロールパネルからサービスを起動して、「REMCS RmAosfB サービス」を起動してください。
サービスの再起動に失敗しました。	REMCS SS-Agent のサービスを起動しようとしましたが、失敗しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
イベントログにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
プロセス間通信に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

表：運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
構成情報 ID が違っています。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。10 ～ 15 分程度待ってから、再度処理を行ってください。
構成情報 ID 不一致	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。10 ～ 15 分程度待ってから、再度処理を行ってください。
ファイルアクセスエラーが発生しました。	ファイルアクセスエラー（指定ファイルが見当たらない、ファイルに出力できない、など）のため、処理を中止しました。ディスクの空き容量が不足している場合、接続確認が行えないことがあります。その場合は、ディスクに空き容量（10MB 以上）を確保してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
一時ファイルのアクセスエラーが発生しました。	一時ファイルへのアクセスエラーのため、処理を中止しました。ディスクの空き容量が不足していないかどうか確認してから、再度処理を行ってください。
SystemWalker がインストールされていません。	REMCS SS-Agent が正常にインストールされていません。一度 REMCS エージェントをアンインストールした後に、再度インストールを行ってください。
メールサーバでエラーが発生しました。	メールサーバでの処理でエラーが発生しました。メールサーバが正常に動作しているかどうか確認してください。
メールサーバが見つかりません。	メールサーバが見つかりません。「■ E-mail 設定の変更」（→ P.77）を参照し、ネットワークの設定、メール（SMTP）サーバの設定が正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバと正常に通信できません。ネットワークの設定、メール（SMTP）サーバの設定を確認してください。
メールサーバアクセス中に回線が切断されました。	メールサーバアクセス中に、回線が切断されました。再度処理を行ってください。
E-mail 送信時にエラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

■ SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

同様のエラーメッセージが動作ログに出力されます。
動作ログ出力先（環境変数を使用）: %ProgramFiles%¥FUJITSU¥SIRMS¥Data¥Log¥sirms.log
例）c:¥Program Files¥FUJITSU¥SIRMS¥Data¥Log¥sirms.log

表：SIRMS 画面（調査資料の管理）に関するメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対策
SRM0126E	Please execute as root.	管理者権限で起動してください。
SRM0127E	Failed to open(%PROGRAMFILES%¥FUJITSU¥SIRMS¥Data¥Log¥sirms.log) :*	動作ログが出力されていない場合は、ログ出力先の有無、およびセキュリティ権限が Administrator 権限で書き込みが可能か確認してください。
SRM0128E	Failed in reading of Message Files.	メッセージファイル (%PROGRAMFILES%¥FUJITSU¥SIRMS¥locale) が存在するか確認してください。
SRM0124E	多重起動しました。	SIRMS の終了を待ち、起動してください。
SRM0110E	SIRMS 定義の読み込みに失敗しました。	SIRMS の設定ファイルを開き、設定ミス部分を削除してください。
SRM0112E	指定したパラメータが異常です。	パラメータを見直してください。

5.4 REMCS エージェントのバージョン確認

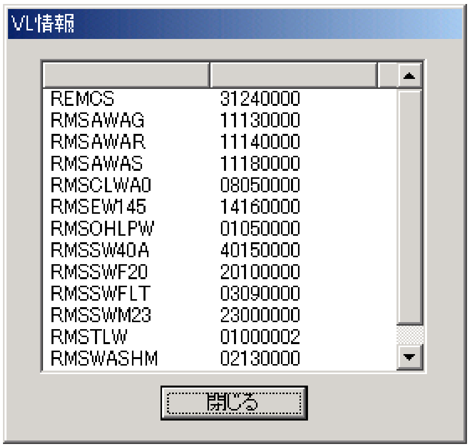
インストールされている REMCS エージェントのバージョンを確認したい場合は、次の手順で REMCS エージェントを構成するソフトウェアのバージョンを確認します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

「運用操作メニュー」画面が表示されます。

2 ウィンドウのタイトルバー上で右クリックし、表示されたメニューから「VL 情報表示」を選択します。

「VL 情報」画面が表示されます。



重要

- REMCS エージェントのバージョンをアップグレードした場合、VL 情報はハード構成情報収集を行った後に更新されます。

5.5 REMCS の運用を終了する場合

REMCS の運用を終了する場合は、REMCS エージェントをアンインストールした後に、RSB ／ RSC ／ iRMC の設定を削除します。

5.5.1 REMCS エージェントのアンインストール

REMCS エージェントのアンインストール手順を説明します。

重要

- アンインストール中に異常が発生した場合は、「■ アンインストール時のトラブル」（→ P.130）を参照してください。
- REMCS エージェントをアンインストールする前に、すべてのプログラムを終了してください。

POINT

- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境での手順は、「■ Server Core インストール環境の場合」（→ P.129）を参照してください。

1 センタとの接続を停止します。

「3.7.1 REMCS センタとの接続を停止する」（→ P.80）を参照してセンタとの接続を停止してください。センタとの接続停止が完了したら、終了をクリックして運用操作画面を閉じてください。

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

POINT

- Windows 2000 Server では、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 「プログラムの追加と削除」をダブルクリックします。

POINT

- Windows Server 2008 では「プログラムと機能」をダブルクリックします。
- Windows 2000 Server では「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

4 「現在インストールされているプログラム」の一覧から「REMCSAgentVx.xLxx_xxx」を選択し、［削除］をクリックします。

コマンドの 「Vx.xLxx_xxx」の部分は「バージョン _CPU アーキテクチャ」になります。例えば 64-bit 版の OS で REMCS エージェント V3.2L10 をアンインストールする場合は「V3.2L10_x64」になります。

POINT

- Windows Server 2008 では「REMCSAgentVx.xLxx_xxx」の上で右クリックして、［アンインストール］を実行します。

アンインストール確認メッセージが表示されます。

5 ［はい］をクリックします。

アンインストールが開始されます。以降、画面の指示に従ってください。

6 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、以下の操作を行います。

重要

- Server Core インストール環境では、REMCS エージェントのアンインストール後、システムは自動的にリブートします。

1 コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

コマンドの 「Vx.xLxx_xxx」の部分は「バージョン _CPU アーキテクチャ」になります。例えば 64-bit 版の OS で REMCS エージェント V3.2L10 をアンインストールする場合は「V3.2L10_x64」になります。

Windows Server 2008 の場合

```
wmic product where name="REMCSAgentVxxLxx_x86" call uninstall
```

Windows Server 2008 (64-bit) の場合

```
wmic product where name="REMCSAgentVxxLxx_x64" call uninstall
```

アンインストールが開始されます。

完了後、自動的にシステムがリブートします。

■ アンインストール時のトラブル

アンインストール中に異常が発生した場合やメッセージが表示された場合は、以下を確認して対処してください。

表：トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
アプリケーションの追加と削除メニューに「REMCS エージェント」がない。	REMCS エージェントがすでにアンインストールされています。
アンインストーラが起動しない。	すでにアンインストーラが起動しています。あるいは、他のアプリケーションと競合している可能性があります。 起動中の他のアプリケーションを終了してから、アンインストーラを起動してください。

5.5.2 RSB ／ RSC ／ iRMC の設定削除

REMCS の運用をやめる場合は、REMCS エージェントをアンインストールした後に、RSB ／ RSC ／ iRMC の設定を削除してください。設定を削除しない場合、装置にハード故障が生じたときに RSB ／ RSC ／ iRMC から REMCS センタ宛てにメールが送信されます。

■ RSB（PG-RSB101）、RSC の設定削除

1 電源を入れ、「SERVER PROCESSOR TOOL」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

DOS プロンプトが表示されます。

2 以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

```
A:¥>spman
```

SERVER PROCESSOR TOOL のメニュー画面が表示されます。

3 「Alarm Settings (Pager / SMS / E-mail)」を選択して、【Enter】キーを押します。

ALARM SETTINGS 画面が表示されます。

4 「16 E-mail」を選択して、【Enter】キーを押します。

Alarm 16 の詳細設定が表示されます。

5 「AlarmOperation」の設定値を 1 から 0 に変更します。

6 【F1】キーを押します。

7 「Settings have been stored.」と表示されたら、【Enter】キーを押します。

8 【Esc】キーを 2 回押します。

■ RSB（PG-RSB102 以降）の設定削除

重要

- Java または Java Script を使用します。Java または Java Script を有効にしてください。
- ポップアップブロック機能を有効にしている場合は画面が表示されません。ポップアップブロック機能は無効に設定してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックします。

ServerView が起動します。

2 サーバの機種名を右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」を選択します。

サーバのプロパティ画面が表示されます。

3 ［Remote Service Board］タブをクリックします。

4 ［設定］をクリックします。

5 「User ID」に「admin」、「Password」にパスワード（初期値は「admin」）を入力して［Login］をクリックします。

6 ［Alarm Config］タブをクリックします。

7 「Enable Email Paging」のチェックを外して、［Apply］をクリックします。

8 Web ブラウザを閉じます。

■ iRMC の設定削除

1 Web ブラウザを起動し、Web ブラウザのアドレス欄に以下のように入力して【Enter】キーを押します。

http を利用する場合

http://＜iRMC に設定した IP アドレス＞:＜ポート番号（デフォルトは 80）＞

https を利用する場合

https://＜iRMC に設定した IP アドレス＞:＜ポート番号（デフォルトは 443）＞

「ネットワークパスワード」画面が表示されます。

2 ユーザ名とパスワード（初期値は共に「admin」に設定されています）を入力し、［OK］をクリックします。

「System Information」画面が表示されます。

3 左メニューの［User Management］をクリックします。

「User Management」画面が表示されます。

4　［admin］をクリックします。

「User "admin (2)" Configuration」画面が表示されます。

5　「Email Configuration」の「Email enabled」のチェックを外して、［Apply］をクリックします。

6　Web ブラウザを閉じます。

付録

この章では、アップグレードインストールの方法や CE 設定、OS イベントログに出力される通知情報について説明しています。

A　REMCS エージェントのアップグレードインストール . . 134
B　CE 設定 137
C　OS イベントログに出力される通知情報 138
D　SMB CODE 139

A　REMCS エージェントのアップグレードインストール

REMCS エージェントをアップグレードする操作について説明します。
サーバや OS によって操作が異なります。

重要

- アップグレードインストール前に REMCS の HTTP 通信のために HTTP プロトコル（ポート番号 :80）を通過させるように設定していた場合、アップグレード後は、ポートを開いておく必要はなくなります。
  セキュリティの面から、ポートを閉じることをお薦めします。
- アップグレードインストール前の定期接続スケジュールの周期設定が「月一回」の場合、「週一回（土日を除く）」に自動で変更されます。曜日はランダムに設定されます。変更された定期接続スケジュールを確認・再変更する場合は、「■ 定期接続時刻の変更」（→ P.76）を参照してください。
- レジストレーション画面や運用操作画面を開いたまま、アップグレードインストールを行わないでください。

A.1　一般サーバ、ブレードサーバの場合

一般サーバ、ブレードサーバで REMCS エージェントをアップグレードする場合は、以下の手順に従います。

POINT

- REMCS 運用中の場合、アップグレードインストール後、更新した情報の収集・送信を確認するメッセージが表示されます。画面の指示に従って操作してください。
- 同じバージョンがインストールされている場合は、インストールできません（上書きインストールはサポートしていません）。
- Windows Server 2008 の Server Core インストール環境での手順は、「■ Server Core インストール環境の場合」（→ P.47）を参照してください。

1　お手持ちのディスクをセットし、以下のファイルを実行します。

PRIMERGY スタートアップディスク

［CD/DVD ドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Windows¥RAsetup.exe

REMCS エージェント CD

［CD/DVD ドライブ］:¥Remcs¥Windows¥RAsetup.exe

ようこそ画面が表示されます。

2　［次へ］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェア チェック画面が表示されます。

3 ［チェック開始］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェアのインストール状況が表示されます。不足している I/O 監視ソフトウェアがあった場合は、REMCS エージェントインストール後にインストールしてください。

4 ［閉じる］をクリックします。

インストール準備完了画面が表示されます。

5 ［インストール］をクリックします。

REMCS エージェントのインストールが開始されます。

6 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

7 アップグレードインストール終了後、接続確認を行ってください。

「3.9 接続確認」（→ P.82）で利用する接続形態ごとの接続確認方法を参照してください。

以上で REMCS エージェントのアップグレードインストールは完了です。

■ Server Core インストール環境の場合

Windows Server 2008 の Server Core インストール環境の場合は、以下の操作を行います。

1 お手持ちのディスクをセットし、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行します。

PRIMERGY スタートアップディスク

```
cd ［CD/DVDドライブ］:¥PROGRAMS¥Japanese2¥Remcs¥Windows
start RAsetup.exe
```

REMCS エージェント CD

```
cd ［CD/DVDドライブ］:¥Remcs¥Windows
start RAsetup.exe
```

ようこそ画面が表示されます。

2 ［次へ］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェア チェック画面が表示されます。

3 ［チェック開始］をクリックします。

I/O 監視ソフトウェアのインストール状況が表示されます。不足している I/O 監視ソフトウェアがあった場合は、REMCS エージェントのインストール後にインストールしてください。

4 ［閉じる］をクリックします。

インストール準備完了画面が表示されます。

5 ［インストール］をクリックします。

REMCS エージェントのインストールが開始されます。

6 再起動のメッセージが表示された場合は、サーバを再起動します。

7 アップグレードインストール終了後、接続確認を行ってください。

「3.9 接続確認」（→ P.82）で利用する接続形態ごとの接続確認方法を参照してください。

以上で REMCS エージェントのアップグレードインストールは完了です。

POINT

- 「5.4 REMCS エージェントのバージョン確認」（→ P.127）で表示される VL 情報は、ハード構成情報収集を行った後に更新されます。

A.2 高信頼 FT/HA モデルの場合

高信頼 FT/HA モデルの場合、REMCS エージェントは CoServer1、CoServer2 にそれぞれプレインストールされています。高信頼 FT/HA モデルで REMCS エージェントをアップグレードインストールする場合は、CoServer1、CoServer2 に対して行ってください。
アップグレードインストールした後は、CoServer1 と CoServer2 で接続確認を行ってください。接続確認の手順については、「3.9 接続確認」（→ P.82）を参照してください。

■ CoServer1 の REMCS エージェントのアップグレードインストール

1 CoServer1 で CD/DVD ドライブを利用するための準備を行います。

手順については、高信頼 FT/HA モデル本体に添付の『ユーザーズガイド』の第 2 章に記載の「CoService1 上で CD/DVD ドライブを使用する」を参照してください。

2 お手持ちのディスクを CoServer1 の CD/DVD ドライブにセットします。

→「■ REMCS エージェントのディスクについて」（P.4）

3 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」（→ P.46）を参照してください。

■ CoServer2 の REMCS エージェントのアップグレードインストール

1 お手持ちのディスクを CoServer2 の CD/DVD ドライブにセットします。

→「■ REMCS エージェントのディスクについて」（P.4）

2 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」（→ P.46）を参照してください。

B　CE 設定

お客様装置の設置年月や、実施者（弊社作業員）の E-mail アドレスなどを設定します。設定した実施者 E-mail アドレス宛てに、接続確認完了を通知するメールが届きます。

重要

- 初回設定された E-Mail アドレスが有効になります。変更はできません。

POINT

- CE 設定は必須ではありません。設定されていなくてもサービスは運用できます。

1 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**

「運用操作メニュー」画面が表示されます。

2 **タイトルバー上で右クリックし、表示されたメニューから「CE 設定」を選択します。**

「顧客情報入力画面（CE 設定項目）」が表示されます。



表：顧客情報入力画面

項目	説明
設置年月（西暦）	装置を設置した年月を西暦で入力します。
実施者 E-mail	実施者（弊社作業員）の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛てにも、接続確認完了を通知するメールが届きます（英数記号 60 文字まで）。
顧客 No	お客様の顧客 No を入力します（英数記号 8 文字まで）。

3 **各項目を設定し、［OK］をクリックします。**

C　OS イベントログに出力される通知情報

OS イベントログに出力する通知情報について説明します。

■ メールを正常に送信できたとき

表：メールを正常に送信できたとき

出力先	アプリケーションログ
イベント ID	100
種別	情報
説明	(REMCS EVENT) RMSxxx…

■ メールを送信しようとしたがエラーが発生して失敗したとき

表：メールを送信しようとしたがエラーが発生して失敗したとき

出力先	アプリケーションログ
イベント ID	101
種別	エラー
説明	(REMCS ERROR) MpRm_…

メール送信の成功／失敗時のどのタイミングで出力するかの制御は、「■ OS イベントログへの通知情報出力レベルの設定変更」（→ P.78）で行います。
正常にメール送信された場合は、センタに送信されるイベント文字列すべてが出力されます。
エラー発生時は、使用した API とそのエラーコードが出力されます。

重要

- 出力される内容はメール送信時の通知情報のみで、他のエラー発生時や HTTP 通信の通知情報は出力しません。
- REMCS エージェントとしてエラー終了した場合でも "(REMCS EVENT)…" が記録されることがあります。

D　SMB CODE

RSB、RSC、iRMC から REMCS Format 選択時に通知される SMB CODE とコードが表す内容です。サーバのモデルによって、項目／通知障害の種類や内容は変わります。

表：SMB CODE

SMB CODE	通知内容
400500	温度センサが危険レベルに達しました。
400502	温度センサが警告レベルに達しました。
400801	システムハングを検出しました。OS ハング、電源異常などが原因として考えられます。
400802	ブート異常を検出しました。OS ハング、ハードウェア異常などが原因として考えられます。
400909	POST 異常を検出しました。ハードウェア異常などが原因として考えられます。
410065	サーマルトリップエラーが発生しました。
410066	温度センサが危険レベル（低温）に達しました。
410067	
410068	
410069	
41006c	温度センサが危険レベル（高温）に達しました。
41006d	
41006e	
41006f	
4106a5	システムハング、POST 異常、ブート異常を検出しました。OS ハング、電源異常などが原因として考えられます。
4106a6	
4106a7	
4106a8	
4106a9	
4106aa	
410dac	
410dad	
410dae	
410daf	
410db0	
410db4	

索　引

あ

アップグレード
　REMCS エージェント 134
アンインストール
　REMCS エージェント 128

い

インストール
　必要なもの 34
　アップグレード 134
　REMCS エージェント 46
　SNMP サービス 38
インストールの流れ
　一般サーバの場合 34
　高信頼 FT/HA モデルの場合 37
　ブレードサーバの場合 35
インターネット接続（メール） 14

お

お客様登録 51
　変更 75

か

環境温度異常の通報設定の変更 77
環境設定 58
環境設定の変更 76

こ

高信頼 FT/HA モデル
　ソフトウェア調査調査資料収集・送信 100
構成情報の送信 81

し

収集結果
　一覧表示 103
　削除 106
　メール添付で送信 106
　REMCS センタへ送信 105
障害の通知 84
　サーバ本体 84
　資源監視 84
　I/O 装置 84
障害発生 84

せ

接続の確認 82

そ

ソフトウェア調査資料の収集 87

ち

調査資料 87
　一括収集・送信 89
　個別収集・送信 92
　QSS 収集ツールの一覧表示 95, 96

て

定期接続時刻の変更 76

と

動作環境 16
トラブル
　アンインストール時 130
　インストール時 114
　運用操作メニュー 121
　サービス開始時 118

ほ

保守作業開始 85
保守作業終了 86

め

メール分割設定の設定変更 79

れ

レジストレーション 50

E

E-mail 設定の変更 77

I

iRMC の設定 70
iRMC の設定削除 130

O

OS イベントログ通知情報出力レベル 78

P

P-P 接続（ISDN: メール） 15
P-P 接続（VPN: メール） 15

Q

QSS 収集ツールの追加 112

R

REMCS エージェント 12, 46
アップグレード 134
機能 13
特長 12
REMCS エージェントのバージョン確認. . 127
REMCS センタとの接続形態. 14
REMCS センタとの接続再開. 80
REMCS センタとの接続停止. 80
REMCS の運用終了. 128
RSB. 17
RSB 設定の変更 77
RSB の設定削除 130
RSC の設定削除 130
RSC/iRMC. 17

S

SIRMS の環境設定 107
ユーザー設定値の変更. 108
QSS 収集ツール配置パスに追加 111
QSS 収集ツール配置パスの一覧表示 . 112
QSS 収集ツール配置パスから削除 . . . 111
SIRMS の起動 88
SMB CODE 139
SNMP サービス. 38

REMCS エージェント　運用ガイド
（REMCS V3.2L11C）

B7FH-5881-01 Z0-00

発 行 日　　2008 年 12 月

発行責任　　富士通株式会社